

埼玉医科大学国際医療センター
臨床研修プログラム
2026 年度

病院長挨拶

国際医療センターは、がん、心臓病、そして、脳卒中を含む救命救急に特化した専門病院であり、かつ臨床研修医に必要な総合診療にも重点をおいている研修病院です。そして、「国際医療」の名に相応しい global standard を目標に掲げて、世界的な病院機能評価機構 (Joint Commission International : JCI) の基準を満たし、日本で初めて認証された大学病院です。

当院は、臨床研修を専門研修（専攻医）に連動する重要な研修期間と位置づけ、臨床研修時から専門研修を見据えた研修が受けられるように配慮しています。つまり、最短で希望の専門医を取得できるプログラムや、国際レベルの臨床研究に臨床研修中から関わり博士号取得を目指すプログラムを用意し、各専門領域の優れた医師から指導が受けられるようにしています。

国際医療センターの基本理念は「徹底的な患者中心の医療」であり、患者さん一人ひとりを大切にし、安心・安全で満足度の高い医療の提供を理念としています。国内の大学病院では最初に JCI という国際的な病院機能評価の認証を受けており、グローバルな基準でも高い医療の質と安全を提供する病院であることが示されました。看護師や薬剤師も一緒になって、医療チームのリーダーとなるべき医師を育てるため努力しています。診療科同士の横の繋がりも良好ですので、自分の研修している診療科に限らず、関わるすべての先生を指導者だと思って研修をしてください。

医師としての長い人生の中で、最初の数年間はとても大切な時期です。「三つ子の魂 100 まで」と言われるように、医師としての初期教育は、皆さんの医師としての人生を大きく左右します。患者さん一人ひとりを大切に、そして丁寧に診てください。個々の診断・治療の考え方や医療技術の習得のみならず、カンファランスでの討論、そして患者さんおよびその家族との接し方、さらには他の医療スタッフとの協調など、指導医あるいは周りのスタッフから貪欲に吸収してください。救命救急センターには外傷などのショックの患者さんのみならず、がん、心臓、脳卒中などの疾病救急もたくさん来院します。すでに、ある程度診断のついた患者さんではなく、全く新たな患者さんを最初に診るということはとても大切なことです。まさにそれがプライマリ・ケアです。研修中は当直を含めてできるだけ救急に関与するように努めてください。勿論、医師の働き方も十分考慮した適正な労働環境も整備しました。

最後に、私は病院長として皆様を温かくお迎えしたい気持ちと同時に、医療の最前線に立ち最新の医療を経験する厳しさを体験してほしい複雑な感情を抱いています。患者さんに対して時に辛い治療を行い、その結果として病が治癒した時の患者さんの笑顔を何よりの喜びとして仕事することが良医への道と信じています。共に国際医療センターで働きましょう。

埼玉医科大学国際医療センター
病院長 佐伯 俊昭

目 次

1. 臨床研修プログラムの概要	1
1) 3 病院自由選択プログラム	9
2) 研究マインド育成自由選択プログラム	14
3) 特設外科系プログラム	19
2. 診療科別研修プログラム	25
1) 内科	29
2) 造血器腫瘍科	32
3) 腫瘍内科・消化器腫瘍科	35
4) 消化器内視鏡科	37
5) 呼吸器内科	39
6) 心臓内科	41
7) 脳神経内科・脳卒中内科	44
8) 救命救急科	47
9) 外科	49
10) 泌尿器腫瘍科	52
11) 乳腺腫瘍科	55
12) 消化器外科	58
13) 呼吸器外科	61
14) 心臓血管外科	63
15) 小児心臓外科	65
16) 脳脊髄腫瘍科	67
17) 脳神経外科・脳卒中外科	69
18) 脳血管内治療科	71
19) 精神腫瘍科	74
20) 小児腫瘍科	76
21) 婦人科腫瘍科・産婦人科	78
22) 皮膚腫瘍科・皮膚科	80
23) 骨軟部組織腫瘍科・整形外科	82
24) 頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科	84
25) 形成外科	86
26) 緩和医療科	88
27) 放射線腫瘍科	90
28) 病理診断科	92
29) 小児心臓科	95
30) 画像診断科	97
31) 核医学科	99
32) リハビリテーション科	101
33) 麻酔科	103
34) 集中治療科	105
35) 臨床検査医学	107
3. 補 足	
1) 協力型臨床研修病院	109
2) 臨床研修協力施設	
・ 地域医療	130
・ 保健・医療行政	171
3) 臨床研修の到達目標	177

1. 臨床研修プログラムの概要

【プログラム名称】

埼玉医科大学 3 病院自由選択プログラム（定員 12 名）

埼玉医科大学国際医療センター研究マインド育成自由選択プログラム（定員 2 名）

埼玉医科大学国際医療センター特設外科系プログラム（定員 2 名）

【埼玉医科大学国際医療センターの基本理念】

患者中心主義のもと安心して安全な満足度の高い医療の提供を行い、かつ最も高度の医療水準を維持するように努める。

【埼玉医科大学国際医療センターの使命】

埼玉医科大学国際医療センターは、埼玉県全域を範囲とし、がん、心臓病に対する高度専門特殊医療に特化し、かつ高度の救命救急医療を提供します。

【埼玉医科大学国際医療センターの基本方針】

埼玉医科大学国際医療センターの基本理念に従って患者中心主義（Patient-Centered）を貫き、あらゆる面で“患者さんにとって便利”であることを主眼とし、患者さんひとりひとりにとって最も適切な医療を提供致します。

【埼玉医科大学国際医療センターの臨床研修の理念】

埼玉医科大学国際医療センターの基本理念・使命・基本方針のもと、多くの症例を経験し、臨床研修制度の目標とするプライマリ・ケアの基本的手技・診療能力を身につける。さらに、当院ならびに協力型臨床研修病院、臨床研修協力施設において、医師としての人格をかん養する。

【埼玉医科大学国際医療センターの臨床研修の基本方針】

次のような資質を備えた医療人を育成する。

(1) 高い倫理観と人間性のかん養

医療人は、生命に対して深い愛情と畏敬の念を持ち、病める人々の心を理解し、その立場に立って、十分な説明と相互理解のもとに医療を行わなければならない。

医療人は、豊かな人間性を育成すべく、常に倫理観を磨き、教養を積むことに努力しなければならない。

(2) 国際水準の医学・医療の実践

医療人は、生涯にわたり常に最新の知識・技術を学び、自信を持って国際的に最も質の高い医療を提供するように心掛けなければならない。

医療人は、医療における課題を自ら解決する意欲と探求心を持ち、国際的視野をもって医学・医療の進歩に貢献することを心掛けなければならない。

(3) 社会的視点に立った調和と協力

医療人は、自らの能力の限界を自覚し、謙虚に他者と協力し、それぞれの立場で患者中心の医療を実践するために、統合力を磨かなければならない。

医療人は、社会的視野を持ち、健康の保持・増進、疾病の予防から社会復帰、さらに社会福祉に至る保健・医療全般に責任を有することを自覚し、地域ならびに国際社会の保健・医療に貢献しなければならない。

【プログラムの目標】

臨床研修の基本理念である「医師が、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身につける」に基づき、到達目標並びに経験すべき症候、疾病・病態などを達成することが、本プログラムの目標である。

【臨床研修施設の概要とプログラムの特色】

埼玉医科大学国際医療センターは、平成 19 年に開設された埼玉県西部および北部地域を中心に埼玉県全域を守備範囲とする病院である。さらに、当院ではその地理的条件から、一人の患者さんを、最初の診断から最終の転帰に至るまで一貫して診療することが可能である。このような条件は、臨床研修制度の目標とするプライマリ・ケアや全人的医療の研修を行うために最も適しているものである。当院では超近代的設備と各分野の著名な教授陣を配しており、現在ではほぼすべての診療科において臨床実績が

日本のトップ 20 に入っており、さらに未来の医療を目指して職員全員が努力・邁進をしている。

当院は、臨床研修医の自主性に任せた選択性の高いプログラムや適切な判断ができる外科系医師を育成するプログラムなど、臨床研修終了後の専門研修に連動したプログラムの他、臨床研修と大学院を同時期に学び、学位を卒業後 4 年目もしくは 5 年目終了時に取得できるプログラムを作成した。

「3 病院自由選択プログラム」は到達目標の達成を念頭に置きながら、臨床研修医の自主性に任せたもっとも自由度の高いプログラム内容となっている。

「研究マインド育成自由選択プログラム」は臨床研修と大学院を同時期に学べるもので、内容は埼玉医科大学 3 病院自由選択プログラムと同じであるが、研修開始時には大学院の入学試験に合格しておく必要がある。

「特設外科系プログラム」は多彩な症例を通じて多くの手術症例を経験し、手技を積極的に学び、適切な判断ができる外科系医師を育成することを第 1 の目標とし、外科の手術件数、救急症例が豊富な診療科において、各分野での第一人者が指導にあたる。希望により最短期間で外科専門医を取得できるよう、プログラム責任者と相談のうえ研修先を調整し、専門研修へ優先的に移行できる。各専門領域（心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科、その他外科系専門領域）の専門医取得が次の目標となる。

研修プログラムは埼玉医科大学国際医療センターの研修管理委員会の下で一括して管理・運営されるため、すべての臨床研修医に公平で充実した臨床研修が提供される。

【プログラムの構成】

埼玉医科大学国際医療センターのプログラムは厚生労働省の示す臨床研修の到達目標、経験すべき症候、疾病・病態および各科の設定した到達目標を 2 年間のローテーションにおいて達成できるように策定されている。

【プログラムの管理・運営】

埼玉医科大学国際医療センターを基幹型臨床研修病院とする臨床研修病院群における研修プログラムの総責任者は病院長（佐伯 俊昭）であり、プログラムの管理・運営は研修管理委員会が担当する。研修管理委員会は、定期的に開催される。

研修管理委員会は以下の事項を行う。

1. 臨床研修プログラムの全体的な管理（研修プログラムの作成方針の決定、各研修プログラム間の相互調整など）
2. 臨床研修医の全体的な管理（臨床研修医の募集、他施設への出向、臨床研修医の研修継続の可否、臨床研修医の処遇、臨床研修医の健康管理）
3. 臨床研修医の研修状況の評価（研修目標の達成状況の評価、臨床研修修了時および中断時の評価）
4. 採用時における研修希望者の評価
5. 研修後および中断後の進路についての相談と支援
6. その他、プログラムを管理・運営するための必要な事項

【プログラム責任者】

プログラム責任者とは、プライマリ・ケアを中心とした指導を十分に行える臨床経験 7 年以上（7 年途中は含まない）の医師で、厚生労働省の定める「医師臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に則った講習会を修了している者で、かつ研修プログラムの実施を管理し、適切な指導体制の確保に資するための講習会（臨床研修協議会が主催する「プログラム責任者養成講習会」）を修了している者とする。

国際医療センターにおけるプログラム責任者は、研修管理委員会で承認され、病院長より任命された者とし、研修プログラムの企画立案及び本プログラムの研修の実施を管理し、並びに臨床研修医に対する助言、指導その他の援助を行い、臨床研修医、研修医長、臨床研修指導医、臨床研修指導者より報告された内容を研修管理委員会に報告する。

【研修医長】

臨床研修指導医のうち、臨床研修医の臨床研修目標の達成状況を把握し、臨床研修医、上級医、臨床研修指導医、臨床研修指導者に助言、指導その他援助を行う者とする。

国際医療センターにおける研修医長は、臨床研修医、臨床研修指導医、上級医、臨床研修指導者を集めて、研修開始時にオリエンテーションを、研修終了時に振り返りを行う。

【臨床研修指導医】

臨床研修指導医とは、プライマリ・ケアを中心とした指導を十分に行える臨床経験7年以上（7年途中は含まない）の医師で、厚生労働省の定める「医師臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に則った講習会を修了している者とする。

国際医療センターにおける臨床研修指導医は、上記の条件を満たし、病院長より任命された者とし、本プログラムに基づき、臨床研修到達目標の達成状況を把握しつつ、臨床研修医に対する指導を行うと同時に評価を行い、その結果をプログラム責任者へ報告する。臨床研修指導医はその指導状況・内容について、臨床研修医並びに臨床研修指導者から評価を受ける。

【臨床研修指導者】

臨床研修指導者とは、経験年数5年以上の主任以上の看護師及び経験年数5年以上の薬剤師、理学療法士、検査技師などとする。

国際医療センターにおける臨床研修指導者は、臨床研修医が研修を実施する現場において、指導と評価を行うべく病院長より任命された者とし、本プログラムに基づき、臨床研修到達目標の達成状況を把握しつつ、臨床研修医に対する指導を行うと同時に評価を行い、その結果をプログラム責任者へ報告する。臨床研修指導者はその指導状況・内容について、臨床研修医並びに臨床研修指導医から評価を受ける。

【オリエンテーション】

病院や臨床研修の理念、臨床研修システムなどを理解し、研修開始に必要な手技・態度を身に付けるために、日程を調整のうえ、4月にオリエンテーションを実施する。

＜教育内容＞

- ・臨床研修制度、臨床研修の到達目標並びに経験すべき症候、疾病・病態、経験すべき臨床手技・検査手技、方略、評価、修了基準、臨床研修プログラム、臨床研修の理念、基本方針、研修医の医行為、研修医の心構え、研修に関する事項（研修管理委員会や卒後研修運営部会、指導体制、メンター制度、PG-EPOCの利用など）
- ・病院の概要、医の倫理、行動規範に関する事項
- ・医療安全に関する事項（患者確認、口頭指示、転倒転落、医療ミス報告など）
- ・電子カルテ操作に関する事項（画像、検査、輸血オーダー方法など）
- ・保険診療、DPCに関する事項
- ・薬剤に関する事項（薬剤の取扱い・処方箋の書き方、ハイアラート薬など処方手順、医薬品による健康被害発生防止、電子カルテオーダー方法・修正、麻薬オーダーなど）
- ・患者個人情報保護に関する事項
- ・医療機器操作に関する事項
- ・防火防災に関する事項（消火器材操作方法）
- ・手術入室時の注意、マーキングタイムアウトに関する事項
- ・病診連携に関する事項
- ・ヘルシンキ宣言、リスボン宣言に関する事項
- ・職員の安全に関する事項
- ・虐待に関する事項
- ・感染対策に関する事項（感染予防と制御の方法）
- ・診療情報に関する事項（診断書・診療録、死亡診断書の書き方）
- ・接遇に関する事項
- ・他職種連携・チーム医療に関する事項（栄養部・NST、看護部について）
- ・放射線業務従事者教育訓練
- ・実技教育訓練（交差適合試験・血液型判定、BLS、小児BLS、気道管理、モニター除細動、中心静脈穿刺、腰椎穿刺、末梢静脈路確保、尿道カテーテル、心電図、スパイロ、エコー）
- ・輸血、献血に関する事項
- ・保険医登録申請、出勤簿、休暇などを含む事務手続きに関する事項

オリエンテーション終了時には自己評価を行い、一部の手技については指導者からの評価を受け、フィードバックを行う。

【指導体制】

各分野の研修開始時に研修医長を中心に、臨床研修医、臨床研修指導医、上級医、臨床研修指導者が集まってオリエンテーションを実施し、現在までの臨床研修目標の達成状況並びに研修期間中の目標と指導体制を共有する。

臨床研修指導医は、臨床研修医と共に患者を直接担当し、臨床研修の到達目標、経験すべき症候、疾病・病態および各科の設定した到達目標を達成するように促す。また、臨床研修指導医のみが直接指導するだけでなく、指導医の監督の下、上級医が研修医を指導する、いわゆる「屋根瓦方式」の指導を行う。

臨床研修指導者は、各自の専門職種の観点から指導にあたり、研修医長や臨床研修指導医などと十分な情報共有を図る。

研修の評価はオンライン臨床教育評価システム（PG-EPOC：E-Portfolio of Clinical training）および研修医ローテーション結果報告書にて行う。オンライン臨床教育評価システム（PG-EPOC）は、臨床研修医、臨床研修指導医、臨床研修指導者とともにローテーション終了時、速やかに入力する。

臨床研修医ごとに作成した到達目標、病歴要約、臨床手技等の達成状況と、研修医評価票（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）や研修医ローテーション結果報告書などをもとに、プログラム責任者と面談を行い、到達目標の達成状況、診療科の評価・コメントなどをフィードバックするとともに相談する体制が整っている。

【到達目標の達成とローテーション調整】

協力型臨床研修病院や臨床研修協力施設と密に連絡を取り、到達目標や経験すべき症候、疾病・病態、一般外来、在宅医療、病棟研修（慢性期、回復期）を達成できるように調整を行う。

到達目標を達成できないような極端な選択をした場合には、研修管理委員会の指導が入る場合がある。

また、どの診療科で研修するか、研修期間を含めて臨床研修医自身で選択できるが、人数調整が必要な場合や総合的に判断した場合など、研修時期については研修管理委員会が調整を行う。

【臨床研修に必要な施設など】

1. 臨床研修医のための宿舎（個室）や臨床研修医用の当直室、研修医室を整備している。
2. 研修医室には、各臨床研修医用の個人机（LAN 配線）、インターネット環境が整った共用パソコンが用意されており、文献データベース検索や教育用コンテンツの利用が可能である。
3. 研修に必要な図書は、研修医室並びに図書館分館（日高キャンパス内）に整備されている。
4. 診療記録は、診療情報管理室（室長：神山 信也）にて組織的に管理されており、必要に応じて閲覧することができる。
5. 実験動物（ブタ）を使用した手術トレーニングを行うトレーニングセンターや、高機能患者シミュレーター、中心静脈穿刺シミュレーター、縫合トレーニング、救命・蘇生トレーニング、胃・十二指腸内視鏡トレーニングのシミュレーターなどを利用できるシミュレーション教育施設が整備されている。さらに、埼玉医科大学と共同利用で直腸診・乳房診などのシミュレーターや医学教育用のビデオなどが整備されている。

【医療安全のための体制】

1. 医療にかかわる安全管理を行う安全管理者が配置され、医療安全対策委員会が定期的に開催されている。
2. 医療にかかわる安全管理を行う安全管理部門として医療安全対策室（室長：川井 信孝）が設置されている。
3. 患者さんからの相談に応じるため、総合相談センターが病院内に設置されている。
4. 患者さんからの苦情、相談などに応じるため、利用者苦情相談室が病院内に設置されている。
5. 医療安全対策室が主催する講習会の参加は全職員必修である。

【学術集会・講習会などへの参加】

研修期間中は、毎週水曜日（8 月除く）に開催している臨床研修医のための講習会、卒後教育委員会主催の講演会、各診療科が開催する合同カンファレンスや企画する研究会へ積極的に参加する。

研修の目的を達成するため、予防医療（予防接種等）、虐待への対応、社会復帰支援、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）に関する講習会などを受講する。CPC、医療安全講習会、患者個人情報保護に関する講習会、保険診療に関する講習会、緩和ケア研修会などへの出席は必須である。

【臨床研修医の処遇】

1. 身分：埼玉医科大学国際医療センターの常勤職員（臨床研修医）として採用する。
2. 勤務体制と勤務時間：原則として、勤務時間は8時30分から17時30分（休憩時間12時30分から13時30分）、当直は月4回までとするが、詳細は研修中の各診療科の診療業務に従う。
その他、研修中の診療科の診療部長の指示の下、管理者が認めた場合に時間外勤務を行う場合がある。
休暇は当院の規程による。夏期休暇を認める。
3. 給与：月額25万円（基本給）
4. 手当：日・当直手当、時間外手当、住宅手当、通勤手当、扶養手当
5. 賞与：年額50万円
6. 宿舍：あり（単身者専用。月額2万円（補助あり）、光熱水費、駐車場代、リネンサービス込。）
7. 社会保険：
 - ① 医療保険：日本私立学校振興・共済事業団に加入
 - ② 年金保険：日本私立学校振興・共済事業団に加入
 - ③ 労災保険：加入
 - ④ 雇用保険：加入
8. 健康管理：雇用時の健康診断、定期健康診断、特定業務従事者健康診断を実施する。
肉体的、精神的なストレスなどで体調不良の場合、メンタル担当医に相談できる体制が整っている。
9. 医師賠償保険：個人加入を義務とする。
10. 学会、研究会などへの参加：可能（費用は一部病院負担）
11. その他：白衣貸与（クリーニング代は病院負担）
アルバイト業務は禁止とする。

【応募方法】

全国公募（マッチング）による。

応募は、埼玉医科大学3病院（国際医療センター、大学病院、総合医療センター）の同一書式で、埼玉医科大学病院群臨床研修センター事務室（埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38）へ申し込む。

【採用方法】

研修管理委員長、プログラム責任者、臨床研修センター事務員を中心とした採用面接員数名による個別面接を実施する。面接結果を基に判定会議を実施し、マッチング順位を決め、後日、研修管理委員会において審議を行い、確定する。

問い合わせ先

埼玉医科大学国際医療センター臨床研修センター

TEL 042-984-0079

E-mail imckensh@saitama-med.ac.jp

ホームページ <https://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/kenshu/>

【研修修了後の進路】

国際医療センターで研修を修了した後は、引き続き専門研修プログラムに従って、より高度で専門的な診療能力の研鑽を積むことも、大学院（社会人大学院制度あり）に進学して学位取得のための研究を行うことも可能である。

【臨床研修病院群の構成】

1. 基幹型臨床研修病院

埼玉医科大学国際医療センター

2. 協力型臨床研修病院

埼玉医科大学病院

埼玉医科大学総合医療センター

社会医療法人財団慈泉会 相澤病院

独立行政法人国立病院機構 埼玉病院

さいたま市立病院

社会医療法人 熊谷総合病院

社会医療法人社団埼玉巨樹の会 新久喜総合病院

社会医療法人壮幸会 行田総合病院

日本赤十字社 小川赤十字病院

日本赤十字社 栃木県支部 足利赤十字病院

横浜国立市立市民病院

医療法人立川メディカルセンター 立川総合病院

SUBARU 健康保険組合 太田記念病院

地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立循環器・呼吸器病センター

社会医療法人さいたま市民医療センター

日本赤十字社 深谷赤十字病院

社会福祉法人恩賜財団済生会支部 埼玉県済生会加須病院

医療法人財団明理会 イムス富士見総合病院

3. 臨床研修協力施設

医療法人慈正会 丸山記念総合病院

社会福祉法人シナプス 埼玉精神神経センター

医療法人徳洲会 宮古島徳洲会病院

特定医療法人俊仁会 埼玉よりい病院

医療法人社団輔正会 岡村記念クリニック

社会医療法人刀仁会 坂戸中央病院

医療法人花仁会 秩父病院

社会医療法人東明会 原田病院

医療法人社団シャローム シャローム病院

秩父市立病院

医療法人慈桜会 瀬戸病院

医療法人ゆうの森 たんぽぽクリニック

社会福祉法人埼玉医療福祉会在宅療養支援診療所 HAPPINESS 館クリニック

社会福祉法人京悠会 葵クリニック

東松山市立市民病院

国民健康保険 町立小鹿野中央病院

医療法人徳洲会 喜界徳洲会病院

医療法人徳洲会 瀬戸内徳洲会病院

医療法人徳洲会 徳之島徳洲会病院

医療法人徳洲会 名瀬徳洲会病院

埼玉医科大学訪問看護ステーション

社会福祉法人埼玉医療福祉会 光の家療育センター

日本赤十字社 埼玉県赤十字血液センター

埼玉県内保健所

【各施設の研修実施責任者】

施設名	研修実施責任者（役職）
埼玉医科大学国際医療センター	林 健（院長補佐）
埼玉医科大学病院	井上 勉（教 授）
埼玉医科大学総合医療センター	高橋 健夫（教 授）
社会医療法人財団慈泉会 相澤病院	宮内 直人（卒後臨床研修センター長）
独立行政法人国立病院機構 埼玉病院	上牧 勇（副院長）
さいたま市立病院	明石 真幸（臨床研修管理委員長）
社会医療法人 熊谷総合病院	濱田 英明（部 長）
社会医療法人社団埼玉巨樹の会 新久喜総合病院	信太 薫（統括診療部長）
社会医療法人壮幸会 行田総合病院	林 暁（副院長）
日本赤十字社 小川赤十字病院	吉田 佳弘（リウマチ科部長）
日本赤十字社 栃木県支部 足利赤十字病院	室久 俊光（院 長）
横浜州市市民病院	仲里 朝周（副病院長）
医療法人立川メディカルセンター 立川総合病院	遠藤 彦聖（主任医長）
SUBARU 健康保険組合 太田記念病院	長野 拓郎（部 長）
地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立循環器・呼吸器病センター	藤井 真也（副部長）
社会医療法人さいたま市民医療センター	塩谷 猛（院 長）
日本赤十字社 深谷赤十字病院	石川 文彦（院 長）
社会福祉法人恩賜財団済生会支部 埼玉県済生会加須病院	速水 宏樹（担当部長）
医療法人財団明理会 イムス富士見総合病院	赤嶺 斉（麻酔科部長）
医療法人慈正会 丸山記念総合病院	丸山 正統（理事長）
社会福祉法人シナプス 埼玉精神神経センター	丸木 努（副院長）
医療法人徳洲会 宮古島徳洲会病院	兼城 隆雄（院 長）
特定医療法人俊仁会 埼玉よりい病院	藤田 尚己（院 長）
医療法人社団輔正会 岡村記念クリニック	高根 裕史（副院長）
社会医療法人刀仁会 坂戸中央病院	加藤 雅也（院長補佐）
医療法人花仁会 秩父病院	坂井 謙一（院 長）
社会医療法人東明会 原田病院	杉 徳臣（研修実施責任者）
医療法人社団シャローム シャローム病院	狩野 契（病院長）

秩父市立病院	加藤 寿（臨床研修管理室長）
医療法人慈桜会 瀬戸病院	瀬戸 理玄（院 長）
医療法人ゆうの森 たんぽぽクリニック	永井 康德（理事長）
社会福祉法人埼玉医療福祉会	齋木 実（管理者）
在宅療養支援診療所 HAPPINESS 館クリニック	出口 一郎（院 長）
社会福祉法人京悠会 葵クリニック	野村 恭一（院 長）
東松山市立市民病院	山下 拓斗（院 長）
国民健康保険 町立小鹿野中央病院	小林 奏（院 長）
医療法人徳洲会 喜界徳洲会病院	高松 純（院 長）
医療法人徳洲会 瀬戸内徳洲会病院	新納 直久（院 長）
医療法人徳洲会 徳之島徳洲会病院	満元洋二郎（院 長）
医療法人徳洲会 名瀬徳洲会病院	小山 優子（管理者）
埼玉医科大学訪問看護ステーション	鈴木 郁子（施設長）
社会福祉法人埼玉医療福祉会 光の家療育センター	中川晃一郎（所 長）
日本赤十字社 埼玉県赤十字血液センター	川南 勝彦（所 長）
埼玉県南部保健所	湯尾 明（所 長）
埼玉県朝霞保健所	中山 由紀（所 長）
埼玉県春日部保健所	得津 馨（所 長）
埼玉県草加保健所	山川 英夫（所 長）
埼玉県鴻巣保健所	荒井 和子（所 長）
埼玉県東松山保健所	宮野慎太郎（所 長）
埼玉県坂戸保健所	辻村 信正（所 長）
埼玉県狭山保健所	田中 良明（所 長）
埼玉県加須保健所	田中 良知（所 長）
埼玉県幸手保健所	鈴木 勝幸（所 長）
埼玉県熊谷保健所	柳澤 大輔（所 長）
埼玉県本庄保健所	平野 宏和（所 長）
埼玉県秩父保健所	桑島 昭文（所 長）
さいたま市保健所	丸山 浩（所 長）
川越市保健所	青木 龍哉（所 長）
越谷市保健所	岡本 浩二（所 長）
川口市保健所	

2026 年度 埼玉医科大学 3 病院自由選択プログラムの概要

プログラムの特色

本プログラムは、到達目標の達成を念頭に置きながら、臨床研修医の自主性に任せたもっとも自由度の高いプログラムである。

また、臨床研修終了後の専門研修に連動できるよう、本学 3 病院や関連施設と密な連携をとったプログラムである。

研修修了後の進路の例

埼玉医科大学国際医療センター 専門研修プログラム

埼玉医科大学病院 専門研修プログラム

埼玉医科大学総合医療センター 専門研修プログラム

埼玉医科大学大学院

上記以外の病院または大学院

目標となる資格

各領域の専門医、学位、その他

2026 年度 埼玉医科大学 3 病院自由選択プログラム

ローテーション（例）

定員：12 名/プログラム責任者：眞下 由美 副プログラム責任者：林 健、辻田 美紀、水出 雅文

1年次	導入	内科		救急	産婦人科	小児科	外科
	4週	24週		12週	4週	4週	4週
2年次	自由	精神科	地域医療	自由			
	12週	4週	8週	28週			

●導入：当院でオリエンテーションを兼ねて研修を行う。

●内科：24 週以上の研修とする。

●救急：12 週以上の研修とする。（当院での救命救急科研修 4 週必須）
麻酔科 4 週（上限）、救急 8 週の組み合わせ研修も可能とする。

●外科、産婦人科、小児科、精神科：4 週以上の研修とする。

●地域医療：8 週以上（一般外来研修 4 週含む）の研修とする。

●自由選択：当院並びに協力型臨床研修病院、臨床研修協力施設より選択できる。
2 年次の最後の 4 週は当院で研修とする。

●臨床研修協力施設での研修は 2 年次以降とする。

●2 年間の研修期間のうち、基幹型臨床研修病院での研修は 52 週以上とする。

なお、地域医療や保健・医療行政での研修期間 12 週を上限に、基幹型臨床研修病院での研修と見做すものとする。

【必修分野】

内 科 (24 週以上)	国際医療センター	造血器腫瘍科、腫瘍内科・消化器腫瘍科、消化器内視鏡科、呼吸器内科、心臓内科、脳神経内科・脳卒中内科
	埼玉医科大学病院	血液内科、リウマチ膠原病科、呼吸器内科、消化器内科・肝臓内科、内分泌内科・糖尿病内科、脳神経内科・脳卒中内科、腎臓内科、総合診療内科
	総合医療センター	消化器・肝臓内科、内分泌・糖尿病内科、血液内科、リウマチ・膠原病内科、心臓内科、呼吸器内科、腎・高血圧内科(血液浄化センター含む)、脳神経内科、総合診療内科/感染症科・感染制御科
	相澤病院	消化器内科、糖尿病内科、腎臓内科
	埼玉病院	消化器内科、神経内科
	さいたま市立病院	呼吸器内科、神経内科
	熊谷総合病院	消化器内科、循環器内科
	新久喜総合病院	総合内科、消化器内科、循環器内科、神経内科
	行田総合病院	消化器内科、呼吸器内科、総合診療内科
	小川赤十字病院	循環器科、リウマチ科、血液内科、神経内科、内分泌・糖尿病内科、腎臓内科
	足利赤十字病院	消化器内科、呼吸器内科、神経内科、腎高血圧内科、総合診療内科
	太田記念病院	消化器内科、循環器内科
	埼玉県立循環器・呼吸器病センター	循環器内科
	さいたま市民医療センター	消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、腎臓内科、総合診療内科
	深谷赤十字病院	消化器内科、循環器内科、血液内科、腎臓内科
	埼玉県済生会加須病院	消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、血液内科
救 急 (12 週以上)	国際医療センター	救命救急科
	埼玉医科大学病院	救急科
	総合医療センター	高度救命救急センター・救急科 (ER)
	さいたま市民医療センター	救急科
	深谷赤十字病院	救急診療科
	埼玉県済生会加須病院	救急科
外 科 (4 週以上)	国際医療センター	泌尿器腫瘍科、乳腺腫瘍科、消化器外科(上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科)、呼吸器外科、心臓血管外科、小児心臓外科、脳脊髄腫瘍科、脳神経外科・脳卒中外科、脳血管内治療科
	埼玉医科大学病院	消化器・一般外科、小児外科、整形外科・脊椎外科、泌尿器科
	総合医療センター	消化管外科・一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、肝胆膵外科・小児外科、血管外科、プレストケア科
	熊谷総合病院	整形外科、脳神経外科

	新久喜総合病院	外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科
	行田総合病院	消化器外科、泌尿器科
	太田記念病院	脳神経外科
	埼玉県立循環器・呼吸器病センター	心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科
	さいたま市民医療センター	消化器外科、乳腺外科、泌尿器科、脳神経外科
	深谷赤十字病院	外科
	埼玉県済生会加須病院	外科、呼吸器外科、整形外科、泌尿器科、脳神経外科
産婦人科 (4週以上)	埼玉医科大学病院	産科・婦人科
	総合医療センター	産婦人科・産科
	さいたま市立病院	産婦人科
	足利赤十字病院	産婦人科
	横浜国立市市民病院	産婦人科
	立川総合病院	産婦人科
	イムス富士見総合病院	産婦人科
小児科 (4週以上)	埼玉医科大学病院	小児科(小児科、新生児科)
	総合医療センター	小児科(小児科・新生児科)
	埼玉病院	小児科
	さいたま市立病院	小児科
	熊谷総合病院	小児科
	足利赤十字病院	小児科
	横浜国立市市民病院	小児科
	立川総合病院	小児科
	太田記念病院	小児科
	さいたま市民医療センター	小児科
	埼玉県済生会加須病院	小児科
	イムス富士見総合病院	小児科
精神科 (4週以上)	国際医療センター	精神腫瘍科（リエゾンチーム研修含む）
	埼玉医科大学病院	神経精神科・心療内科
	総合医療センター	メンタルクリニック（精神科）※
	足利赤十字病院	精神科
	深谷赤十字病院	精神科
地域医療 (8週以上)	宮古島徳洲会病院、埼玉よりい病院、岡村記念クリニック、坂戸中央病院、秩父病院、原田病院、シャローム病院、秩父市立病院、瀬戸病院、たんぼぽクリニック、在宅療養支援診療所 HAPPINESS 館クリニック、葵クリニック、東松山市立市市民病院、小鹿野中央病院、喜界徳洲会病院、瀬戸内徳洲会病院、徳之島徳洲会病院、名瀬徳洲会病院	

一般外来 (20 日以上)	宮古島徳洲会病院、埼玉よりい病院、岡村記念クリニック、坂戸中央病院、秩父病院、原田病院、シャローム病院、秩父市立病院、瀬戸病院、たんぼぼクリニック、在宅療養支援診療所 HAPPINESS 館クリニック、葵クリニック、東松山市立市民病院、小鹿野中央病院、喜界徳洲会病院、瀬戸内徳洲会病院、徳之島徳洲会病院、名瀬徳洲会病院
------------------	---

※2 年次で研修可能。入院症例は埼玉精神神経センターにて研修

【自由選択】

国際医療センター	造血器腫瘍科、腫瘍内科・消化器腫瘍科、消化器内視鏡科、呼吸器内科、心臓内科、脳神経内科・脳卒中内科、救命救急科、泌尿器腫瘍科、乳腺腫瘍科、消化器外科（上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科）、呼吸器外科、心臓血管外科、小児心臓外科、脳脊髄腫瘍科、脳神経外科・脳卒中外科、脳血管内治療科、精神腫瘍科、麻酔科、小児腫瘍科、婦人科腫瘍科・産婦人科、皮膚腫瘍科・皮膚科、骨軟部組織腫瘍科・整形外科、頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科、形成外科、支持医療科、放射線腫瘍科、病理診断科、小児心臓科、画像診断科、核医学科、リハビリテーション科、集中治療科、臨床検査医学
埼玉医科大学病院	血液内科、感染症科・感染制御科、リウマチ膠原病科、呼吸器内科、消化器内科・肝臓内科、内分泌内科・糖尿病内科、脳神経内科・脳卒中内科、腎臓内科、総合診療内科、神経精神科・心療内科、小児科(小児科、新生児科)、消化器・一般外科、乳腺腫瘍科、小児外科、脳神経外科、整形外科・脊椎外科、形成外科・美容外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、神経耳科、産科・婦人科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、臨床検査医学、中央病理診断部、緩和医療科
総合医療センター	消化器・肝臓内科、内分泌・糖尿病内科、血液内科、リウマチ・膠原病内科、心臓内科、呼吸器内科、腎・高血圧内科(血液浄化センター含む)、脳神経内科、総合診療内科/感染症科・感染制御科、メンタルクリニック(精神科)、小児科(小児科・新生児科)、消化管外科・一般外科、肝胆膵外科・小児外科、呼吸器外科、心臓血管外科、血管外科、ブレストケア科、脳神経外科、整形外科、形成外科・美容外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科・産科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科(画像診断科・核医学科、放射線腫瘍科)、麻酔科(麻酔科、産科麻酔科)、高度救命救急センター・救急科(ER)、病理部、輸血・細胞治療部
相澤病院	消化器内科、糖尿病内科、腎臓内科
埼玉病院	消化器内科、神経内科、小児科
さいたま市立病院	呼吸器内科、神経内科、産婦人科、小児科
熊谷総合病院	消化器内科、循環器内科、麻酔科、産婦人科(産科含まず)、小児科、整形外科、脳神経外科

新久喜総合病院	総合内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、形成外科
行田総合病院	消化器内科、呼吸器内科、総合診療内科、消化器外科、泌尿器科
小川赤十字病院	循環器科、リウマチ科、血液内科、神経内科、内分泌・糖尿病内科、腎臓内科
足利赤十字病院	消化器内科、呼吸器内科、神経内科、腎高血圧内科、総合診療内科、産婦人科、小児科、精神科
横浜市民病院	小児科、産婦人科
立川総合病院	小児科、産婦人科
太田記念病院	消化器内科、循環器内科、脳神経外科、小児科
埼玉県立循環器・呼吸器病センター	循環器内科、心臓外科、呼吸器外科、脳神経外科
さいたま市民医療センター	消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、腎臓内科、総合診療内科、救急科、消化器外科、乳腺外科、泌尿器科、脳神経外科、小児科
深谷赤十字病院	消化器内科、循環器内科、血液内科、腎臓内科、救急診療科、外科、精神科
埼玉県済生会加須病院	消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、血液内科、救急科、外科、呼吸器外科、整形外科、泌尿器科、脳神経外科、小児科
イムス富士見総合病院	産婦人科、小児科
臨床研修協力施設	宮古島徳洲会病院、埼玉よりい病院、岡村記念クリニック、坂戸中央病院、秩父病院、原田病院、シャローム病院、秩父市立病院、丸山記念総合病院、瀬戸病院、たんぽぽクリニック、在宅療養支援診療所 HAPPINESS 館クリニック、葵クリニック、東松山市立市民病院、小鹿野中央病院、喜界徳洲会病院、瀬戸内徳洲会病院、徳之島徳洲会病院、名瀬徳洲会病院
臨床研修協力施設 (保健・医療行政)	埼玉医科大学訪問看護ステーション、光の家療育センター、埼玉県赤十字血液センター、埼玉県内保健所、埼玉医科大学病院健康管理センター、埼玉医科大学病院リハビリテーション科、国際医療センターリハビリテーション科

2026 年度 埼玉医科大学国際医療センター 研究マインド育成自由選択プログラムの概要

プログラムの特色

臨床研修と大学院を同時期に学べるもので、研究マインドを持った臨床研修医に対して大学院履修をしながら臨床研修を行い、学位を卒後 4 年目もしくは 5 年目終了時に取得できるプログラムである。内容は埼玉医科大学 3 病院自由選択プログラムと同じであるが、初期研修と大学院修学を両立させるためには 2 年間の積極的な研鑽が必要となる。

研修開始時には大学院の入学試験に合格しておく必要があり、大学院における目的意識を明確にするために、専攻分野と専攻科目を事前に決めておくことが望ましい。入学試験その他大学院履修の詳細は大学院案内を参照のこと。

研修修了後の進路の例

埼玉医科大学国際医療センター 専門研修プログラム

埼玉医科大学病院 専門研修プログラム

埼玉医科大学総合医療センター 専門研修プログラム

埼玉医科大学大学院

上記以外の病院または大学院

目標となる資格

各領域の専門医、学位、その他

2026 年度 埼玉医科大学国際医療センター 研究マインド育成自由選択プログラム

ローテーション（例）

定員：2 名/プログラム責任者：古田島 太 副プログラム責任者：林 健

1 年次	導入	内科			救急	産婦人科	小児科	外科
	4 週	24 週			12 週	4 週	4 週	4 週
2 年次	自由	精神科	地域医療	自由				
	12 週	4 週	8 週	28 週				

- 導入：当院でオリエンテーションを兼ねて研修を行う。
- 内科：24 週以上の研修とする。
- 救急：12 週以上の研修とする。（当院での救命救急科研修 4 週必須）
麻酔科 4 週（上限）、救急 8 週の組み合わせ研修も可能とする。
- 外科、産婦人科、小児科、精神科：4 週以上の研修とする。
- 地域医療：8 週以上（一般外来研修 4 週含む）の研修とする。
- 自由選択：当院並びに協力型臨床研修病院、臨床研修協力施設より選択できる。
2 年次の最後の 4 週は当院で研修とする。
- 臨床研修協力施設での研修は 2 年次以降とする。
- 2 年間の研修期間のうち、基幹型臨床研修病院での研修は 52 週以上とする。
なお、地域医療や保健・医療行政での研修期間 12 週を上限に、基幹型臨床研修病院での研修と見做すものとする。

【必修分野】

内 科 (24 週以上)	国際医療センター	造血器腫瘍科、腫瘍内科・消化器腫瘍科、消化器内視鏡科、呼吸器内科、心臓内科、脳神経内科・脳卒中内科
	埼玉医科大学病院	血液内科、リウマチ膠原病科、呼吸器内科、消化器内科・肝臓内科、内分泌内科・糖尿病内科、脳神経内科・脳卒中内科、腎臓内科、総合診療内科
	総合医療センター	消化器・肝臓内科、内分泌・糖尿病内科、血液内科、リウマチ・膠原病内科、心臓内科、呼吸器内科、腎・高血圧内科(血液浄化センター含む)、脳神経内科、総合診療内科/感染症科・感染制御科
	相澤病院	消化器内科、糖尿病内科、腎臓内科
	埼玉病院	消化器内科、神経内科
	さいたま市立病院	呼吸器内科、神経内科
	熊谷総合病院	消化器内科、循環器内科
	新久喜総合病院	総合内科、消化器内科、循環器内科、神経内科
	行田総合病院	消化器内科、呼吸器内科、総合診療内科
	小川赤十字病院	循環器科、リウマチ科、血液内科、神経内科、内分泌・糖尿病内科、腎臓内科
	足利赤十字病院	消化器内科、呼吸器内科、神経内科、腎高血圧内科、総合診療内科
	太田記念病院	消化器内科、循環器内科
	埼玉県立循環器・呼吸器病センター	循環器内科
	さいたま市民医療センター	消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、腎臓内科、総合診療内科
	深谷赤十字病院	消化器内科、循環器内科、血液内科、腎臓内科
	埼玉県済生会加須病院	消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、血液内科
救 急 (12 週以上)	国際医療センター	救命救急科
	埼玉医科大学病院	救急科
	総合医療センター	高度救命救急センター・救急科 (ER)
	さいたま市民医療センター	救急科
	深谷赤十字病院	救急診療科
	埼玉県済生会加須病院	救急科
外 科 (4 週以上)	国際医療センター	泌尿器腫瘍科、乳腺腫瘍科、消化器外科(上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科)、呼吸器外科、心臓血管外科、小児心臓外科、脳脊髄腫瘍科、脳神経外科・脳卒中外科、脳血管内治療科
	埼玉医科大学病院	消化器・一般外科、小児外科、整形外科・脊椎外科、泌尿器科
	総合医療センター	消化管外科・一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、肝胆膵外科・小児外科、血管外科、ブレストケア科
	熊谷総合病院	整形外科、脳神経外科

	新久喜総合病院	外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科
	行田総合病院	消化器外科、泌尿器科
	太田記念病院	脳神経外科
	埼玉県立循環器・呼吸器病センター	心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科
	さいたま市民医療センター	消化器外科、乳腺外科、泌尿器科、脳神経外科
	深谷赤十字病院	外科
	埼玉県済生会加須病院	外科、呼吸器外科、整形外科、泌尿器科、脳神経外科
産婦人科 (4週以上)	埼玉医科大学病院	産科・婦人科
	総合医療センター	産婦人科・産科
	さいたま市立病院	産婦人科
	足利赤十字病院	産婦人科
	横浜国立市市民病院	産婦人科
	立川総合病院	産婦人科
	イムス富士見総合病院	産婦人科
小児科 (4週以上)	埼玉医科大学病院	小児科(小児科、新生児科)
	総合医療センター	小児科(小児科・新生児科)
	埼玉病院	小児科
	さいたま市立病院	小児科
	熊谷総合病院	小児科
	足利赤十字病院	小児科
	横浜国立市市民病院	小児科
	立川総合病院	小児科
	太田記念病院	小児科
	さいたま市民医療センター	小児科
	埼玉県済生会加須病院	小児科
	イムス富士見総合病院	小児科
精神科 (4週以上)	国際医療センター	精神腫瘍科(リエゾンチーム研修含む)
	埼玉医科大学病院	神経精神科・心療内科
	総合医療センター	メンタルクリニック(精神科)※
	足利赤十字病院	精神科
	深谷赤十字病院	精神科
地域医療 (8週以上)	宮古島徳洲会病院、埼玉よりい病院、岡村記念クリニック、坂戸中央病院、秩父病院、原田病院、シャローム病院、秩父市立病院、瀬戸病院、たんぽぽクリニック、在宅療養支援診療所HAPPINESS館クリニック、葵クリニック、東松山市立市民病院、小鹿野中央病院、喜界徳洲会病院、瀬戸内徳洲会病院、徳之島徳洲会病院、名瀬徳洲会病院	

一般外来 (20日以上)	宮古島徳洲会病院、埼玉よりい病院、岡村記念クリニック、坂戸中央病院、秩父病院、原田病院、シャローム病院、秩父市立病院、瀬戸病院、たんぼぼクリニック、在宅療養支援診療所 HAPPINESS 館クリニック、葵クリニック、東松山市立市民病院、小鹿野中央病院、喜界徳洲会病院、瀬戸内徳洲会病院、徳之島徳洲会病院、名瀬徳洲会病院
-----------------	---

※2年次で研修可能。入院症例は埼玉精神神経センターにて研修

【自由選択】

国際医療センター	造血管腫瘍科、腫瘍内科・消化器腫瘍科、消化器内視鏡科、呼吸器内科、心臓内科、脳神経内科・脳卒中内科、救命救急科、泌尿器腫瘍科、乳腺腫瘍科、消化器外科（上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科）、呼吸器外科、心臓血管外科、小児心臓外科、脳脊髄腫瘍科、脳神経外科・脳卒中外科、脳血管内治療科、精神腫瘍科、麻酔科、小児腫瘍科、婦人科腫瘍科・産婦人科、皮膚腫瘍科・皮膚科、骨軟部組織腫瘍科・整形外科、頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科、形成外科、支持医療科、放射線腫瘍科、病理診断科、小児心臓科、画像診断科、核医学科、リハビリテーション科、集中治療科、臨床検査医学
埼玉医科大学病院	血液内科、感染症科・感染制御科、リウマチ膠原病科、呼吸器内科、消化器内科・肝臓内科、内分泌内科・糖尿病内科、脳神経内科・脳卒中内科、腎臓内科、総合診療内科、神経精神科・心療内科、小児科（小児科、新生児科）、消化器・一般外科、乳腺腫瘍科、小児外科、脳神経外科、整形外科・脊椎外科、形成外科・美容外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、神経耳科、産科・婦人科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、臨床検査医学、中央病理診断部、緩和医療科
総合医療センター	消化器・肝臓内科、内分泌・糖尿病内科、血液内科、リウマチ・膠原病内科、心臓内科、呼吸器内科、腎・高血圧内科（血液浄化センター含む）、脳神経内科、総合診療内科/感染症科・感染制御科、メンタルクリニック（精神科）、小児科（小児科・新生児科）、消化管外科・一般外科、肝胆膵外科・小児外科、呼吸器外科、心臓血管外科、血管外科、ブレストケア科、脳神経外科、整形外科、形成外科・美容外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科・産科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科（画像診断科・核医学科、放射線腫瘍科）、麻酔科（麻酔科、産科麻酔科）、高度救命救急センター・救急科（ER）、病理部、輸血・細胞治療部
相澤病院	消化器内科、糖尿病内科、腎臓内科
埼玉病院	消化器内科、神経内科、小児科
さいたま市立病院	呼吸器内科、神経内科、産婦人科、小児科
熊谷総合病院	消化器内科、循環器内科、麻酔科、産婦人科（産科含まず）、小児科、整形外科、脳神経外科

新久喜総合病院	総合内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、形成外科
行田総合病院	消化器内科、呼吸器内科、総合診療内科、消化器外科、泌尿器科
小川赤十字病院	循環器科、リウマチ科、血液内科、神経内科、内分泌・糖尿病内科、腎臓内科
足利赤十字病院	消化器内科、呼吸器内科、神経内科、腎高血圧内科、総合診療内科、産婦人科、小児科、精神科
横浜市立市民病院	小児科、産婦人科
立川総合病院	小児科、産婦人科
太田記念病院	消化器内科、循環器内科、脳神経外科、小児科
埼玉県立循環器・呼吸器病センター	循環器内科、心臓外科、呼吸器外科、脳神経外科
さいたま市民医療センター	消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、腎臓内科、総合診療内科、救急科、消化器外科、乳腺外科、泌尿器科、脳神経外科、小児科
深谷赤十字病院	消化器内科、循環器内科、血液内科、腎臓内科、救急診療科、外科、精神科
埼玉県済生会加須病院	消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、血液内科、救急科、外科、呼吸器外科、整形外科、泌尿器科、脳神経外科、小児科
イムス富士見総合病院	産婦人科、小児科
臨床研修協力施設	宮古島徳洲会病院、埼玉よりい病院、岡村記念クリニック、坂戸中央病院、秩父病院、原田病院、シャローム病院、秩父市立病院、丸山記念総合病院、瀬戸病院、たんぽぽクリニック、在宅療養支援診療所 HAPPINESS 館クリニック、葵クリニック、東松山市立市民病院、小鹿野中央病院、喜界徳洲会病院、瀬戸内徳洲会病院、徳之島徳洲会病院、名瀬徳洲会病院
臨床研修協力施設 (保健・医療行政)	埼玉医科大学訪問看護ステーション、光の家療育センター、埼玉県赤十字血液センター、埼玉県内保健所、埼玉医科大学病院健康管理センター、埼玉医科大学病院リハビリテーション科、国際医療センターリハビリテーション科

2026 年度 埼玉医科大学国際医療センター 特設外科系プログラムの概要

プログラムの特色

当院は外科の手術件数、救急症例が豊富であり、各分野での第一人者が指導にあたっている。多彩な症例を通じて多くの手術症例を経験し、手技を積極的に学び、適切な判断ができる外科系医師を育成することを第1の目標とする。

希望により最短期間で外科専門医を取得できるよう、プログラム責任者と相談のうえ研修先を調整し、専門研修へ優先的に移行でき、その先は各専門領域（心臓血管外科、小児心臓外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科）の専門医取得が次の目標となる。その他の外科系領域の専門研修の基礎研修としても良いプログラムとなっている。

臨床研修終了後、専門研修に連動するこのプログラムは、3 病院関連各科（外科系各科、内科、画像診断科、病理診断科等）、関連施設と密な連携をとったものである。

研修修了後の進路の例

埼玉医科大学国際医療センター 専門研修プログラム

埼玉医科大学病院 専門研修プログラム

埼玉医科大学総合医療センター 専門研修プログラム

埼玉医科大学大学院

上記以外の病院または大学院

目標となる資格

各領域の専門医、学位、その他

2026 年度 埼玉医科大学国際医療センター 特設外科系プログラム

ローテーション（例）

定員：2 名/プログラム責任者：岡田 克也 副プログラム責任者：大谷 義孝

1 年次	導入	内科			救急	産婦人科	小児科	精神科	外科
	4 週	24 週			8 週	4 週	4 週	4 週	4 週
2 年次	救急	外科	自由	地域医療	自由				
	4 週	4 週	12 週	8 週	24 週				

- 導入：当院でオリエンテーションを兼ねて研修を行う。
 - 内科：24 週以上の研修とする。
 - 救急：12 週以上の研修とする。（当院での救命救急科研修 4 週必須）
麻酔科 4 週（上限）、救急 8 週の組み合わせ研修も可能とする。
 - 外科研修：8 週以上の研修とする。
 - 産婦人科、小児科、精神科：4 週以上の研修とする。
 - 地域医療：8 週以上（一般外来研修 4 週含む）の研修とする。
 - 自由選択：当院並びに協力型臨床研修病院、臨床研修協力施設より選択できる。
2 年次の最後の 4 週は当院で研修とする。
 - 臨床研修協力施設での研修は 2 年次以降とする。
 - 2 年間の研修期間のうち、基幹型臨床研修病院での研修は 52 週以上とする。
- なお、地域医療や保健・医療行政での研修期間 12 週を上限に、基幹型臨床研修病院での研修と見做すものとする。

【必修分野】

内 科 (24 週以上)	国際医療センター	造血器腫瘍科、腫瘍内科・消化器腫瘍科、消化器内視鏡科、呼吸器内科、心臓内科、脳神経内科・脳卒中内科
	埼玉医科大学病院	血液内科、リウマチ膠原病科、呼吸器内科、消化器内科・肝臓内科、内分泌内科・糖尿病内科、脳神経内科・脳卒中内科、腎臓内科、総合診療内科
	総合医療センター	消化器・肝臓内科、内分泌・糖尿病内科、血液内科、リウマチ・膠原病内科、心臓内科、呼吸器内科、腎・高血圧内科(血液浄化センター含む)、脳神経内科、総合診療内科/感染症科・感染制御科
	相澤病院	消化器内科、糖尿病内科、腎臓内科
	埼玉病院	消化器内科、神経内科
	さいたま市立病院	呼吸器内科、神経内科
	熊谷総合病院	消化器内科、循環器内科
	新久喜総合病院	総合内科、消化器内科、循環器内科、神経内科
	行田総合病院	消化器内科、呼吸器内科、総合診療内科
	小川赤十字病院	循環器科、リウマチ科、血液内科、神経内科、内分泌・糖尿病内科、腎臓内科
	足利赤十字病院	消化器内科、呼吸器内科、神経内科、腎高血圧内科、総合診療内科
	太田記念病院	消化器内科、循環器内科
	埼玉県立循環器・呼吸器病センター	循環器内科
	さいたま市民医療センター	消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、腎臓内科、総合診療内科
	深谷赤十字病院	消化器内科、循環器内科、血液内科、腎臓内科
	埼玉県済生会加須病院	消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、血液内科
救 急 (12 週以上)	国際医療センター	救命救急科
	埼玉医科大学病院	救急科
	総合医療センター	高度救命救急センター・救急科 (ER)
	さいたま市民医療センター	救急科
	深谷赤十字病院	救急診療科
	埼玉県済生会加須病院	救急科
外 科 (8 週以上)	国際医療センター	泌尿器腫瘍科、乳腺腫瘍科、消化器外科(上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科)、呼吸器外科、心臓血管外科、小児心臓外科、脳脊髄腫瘍科、脳神経外科・脳卒中外科、脳血管内治療科
	埼玉医科大学病院	消化器・一般外科、小児外科、整形外科・脊椎外科、泌尿器科
	総合医療センター	消化管外科・一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、肝胆膵外科・小児外科、血管外科、プレストケア科
	熊谷総合病院	整形外科、脳神経外科

	新久喜総合病院	外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科
	行田総合病院	消化器外科、泌尿器科
	太田記念病院	脳神経外科
	埼玉県立循環器・呼吸器病センター	心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科
	さいたま市民医療センター	消化器外科、乳腺外科、泌尿器科、脳神経外科
	深谷赤十字病院	外科
	埼玉県済生会加須病院	外科、呼吸器外科、整形外科、泌尿器科、脳神経外科
産婦人科 (4 週以上)	埼玉医科大学病院	産科・婦人科
	総合医療センター	産婦人科・産科
	さいたま市立病院	産婦人科
	足利赤十字病院	産婦人科
	横浜国立市市民病院	産婦人科
	立川総合病院	産婦人科
	イムス富士見総合病院	産婦人科
小児科 (4 週以上)	埼玉医科大学病院	小児科(小児科、新生児科)
	総合医療センター	小児科(小児科・新生児科)
	埼玉病院	小児科
	さいたま市立病院	小児科
	熊谷総合病院	小児科
	足利赤十字病院	小児科
	横浜国立市市民病院	小児科
	立川総合病院	小児科
	太田記念病院	小児科
	さいたま市民医療センター	小児科
	埼玉県済生会加須病院	小児科
	イムス富士見総合病院	小児科
精神科 (4 週以上)	国際医療センター	精神腫瘍科（リエゾンチーム研修含む）
	埼玉医科大学病院	神経精神科・心療内科
	総合医療センター	メンタルクリニック（精神科）※
	足利赤十字病院	精神科
	深谷赤十字病院	精神科
地域医療 (8 週以上)	宮古島徳洲会病院、埼玉よりい病院、岡村記念クリニック、坂戸中央病院、秩父病院、原田病院、シャローム病院、秩父市立病院、瀬戸病院、たんぽぽクリニック、在宅療養支援診療所 HAPPINESS 館クリニック、葵クリニック、東松山市立市民病院、小鹿野中央病院、喜界徳洲会病院、瀬戸内徳洲会病院、徳之島徳洲会病院、名瀬徳洲会病院	

一般外来 (20日以上)	宮古島徳洲会病院、埼玉よりい病院、岡村記念クリニック、坂戸中央病院、秩父病院、原田病院、シャローム病院、秩父市立病院、瀬戸病院、たんぼぼクリニック、在宅療養支援診療所 HAPPINESS 館クリニック、葵クリニック、東松山市立市民病院、小鹿野中央病院、喜界徳洲会病院、瀬戸内徳洲会病院、徳之島徳洲会病院、名瀬徳洲会病院
-----------------	---

※2年次で研修可能。入院症例は埼玉精神神経センターにて研修

【自由選択】

国際医療センター	造血管腫瘍科、腫瘍内科・消化器腫瘍科、消化器内視鏡科、呼吸器内科、心臓内科、脳神経内科・脳卒中内科、救命救急科、泌尿器腫瘍科、乳腺腫瘍科、消化器外科（上部消化管外科、下部消化管外科、肝胆膵外科）、呼吸器外科、心臓血管外科、小児心臓外科、脳脊髄腫瘍科、脳神経外科・脳卒中外科、脳血管内治療科、精神腫瘍科、麻酔科、小児腫瘍科、婦人科腫瘍科・産婦人科、皮膚腫瘍科・皮膚科、骨軟部組織腫瘍科・整形外科、頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科、形成外科、支持医療科、放射線腫瘍科、病理診断科、小児心臓科、画像診断科、核医学科、リハビリテーション科、集中治療科、臨床検査医学
埼玉医科大学病院	血液内科、感染症科・感染制御科、リウマチ膠原病科、呼吸器内科、消化器内科・肝臓内科、内分泌内科・糖尿病内科、脳神経内科・脳卒中内科、腎臓内科、総合診療内科、神経精神科・心療内科、小児科（小児科、新生児科）、消化器・一般外科、乳腺腫瘍科、小児外科、脳神経外科、整形外科・脊椎外科、形成外科・美容外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、神経耳科、産科・婦人科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、臨床検査医学、中央病理診断部、緩和医療科
総合医療センター	消化器・肝臓内科、内分泌・糖尿病内科、血液内科、リウマチ・膠原病内科、心臓内科、呼吸器内科、腎・高血圧内科（血液浄化センター含む）、脳神経内科、総合診療内科/感染症科・感染制御科、メンタルクリニック（精神科）、小児科（小児科・新生児科）、消化管外科・一般外科、肝胆膵外科・小児外科、呼吸器外科、心臓血管外科、血管外科、ブレストケア科、脳神経外科、整形外科、形成外科・美容外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科・産科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科（画像診断科・核医学科、放射線腫瘍科）、麻酔科（麻酔科、産科麻酔科）、高度救命救急センター・救急科（ER）、病理部、輸血・細胞治療部
相澤病院	消化器内科、糖尿病内科、腎臓内科
埼玉病院	消化器内科、神経内科、小児科
さいたま市立病院	呼吸器内科、神経内科、産婦人科、小児科
熊谷総合病院	消化器内科、循環器内科、麻酔科、産婦人科（産科含まず）、小児科、整形外科、脳神経外科

新久喜総合病院	総合内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、形成外科
行田総合病院	消化器内科、呼吸器内科、総合診療内科、消化器外科、泌尿器科
小川赤十字病院	循環器科、リウマチ科、血液内科、神経内科、内分泌・糖尿病内科、腎臓内科
足利赤十字病院	消化器内科、呼吸器内科、神経内科、腎高血圧内科、総合診療内科、産婦人科、小児科、精神科
横浜市立市民病院	小児科、産婦人科
立川総合病院	小児科、産婦人科
太田記念病院	消化器内科、循環器内科、脳神経外科、小児科
埼玉県立循環器・呼吸器病センター	循環器内科、心臓外科、呼吸器外科、脳神経外科
さいたま市民医療センター	消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、腎臓内科、総合診療内科、救急科、消化器外科、乳腺外科、泌尿器科、脳神経外科、小児科
深谷赤十字病院	消化器内科、循環器内科、血液内科、腎臓内科、救急診療科、外科、精神科
埼玉県済生会加須病院	消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、血液内科、救急科、外科、呼吸器外科、整形外科、泌尿器科、脳神経外科、小児科
イムス富士見総合病院	産婦人科、小児科
臨床研修協力施設	宮古島徳洲会病院、埼玉よりい病院、岡村記念クリニック、坂戸中央病院、秩父病院、原田病院、シャローム病院、秩父市立病院、丸山記念総合病院、瀬戸病院、たんぽぽクリニック、在宅療養支援診療所 HAPPINESS 館クリニック、葵クリニック、東松山市立市民病院、小鹿野中央病院、喜界徳洲会病院、瀬戸内徳洲会病院、徳之島徳洲会病院、名瀬徳洲会病院
臨床研修協力施設 (保健・医療行政)	埼玉医科大学訪問看護ステーション、光の家療育センター、埼玉県赤十字血液センター、埼玉県内保健所、埼玉医科大学病院健康管理センター、埼玉医科大学病院リハビリテーション科、国際医療センターリハビリテーション科

2. 診療科別研修プログラム

研修先で達成できる到達目標（達成できる項目に●印）

	内科	消化器内臓外科	呼吸器内科	心臓内科	脳卒中内科	救命救急科	外科	泌尿器内科	消化器外科	呼吸器外科	小児心臓外科	脳脊髄神経外科	脳卒中外科	脳血管内治療科	精神神経科	婦人科	小児科	皮膚泌尿科	骨軟部組織外科	頭頸部外科	形成外科	支持医療科	放射線科	病理診断科	小児心臓科	画像診断科	核医学科	リハビリテーション科	麻酔科	集中治療科	臨床検査医学	協力型臨床研修病院	臨床研修協力施設
I 到達目標																																	
A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)に関する評価																																	
1. 社会的使命と公衆衛生への寄与・社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の資源に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2. 利他的な態度・患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3. 人間性の尊重・患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4. 自らを高める姿勢・自らの意欲及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
B. 資質・能力																																	
1. 医学・医療における倫理性: 診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
①人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
②患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
③倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
④利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
⑤診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2. 医学知識と問題対応能力・最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に基づいて解決を図る。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
①頻度の高い症例について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
②患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床判断を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
③保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3. 診療技能と患者ケア: 臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
①患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
②患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
③診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4. コミュニケーション能力: 患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
①適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
②患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
③患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5. チーム医療の実践: 医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人の役割を理解し、連携を図る。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
①医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
②チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
6. 医療の質と安全の管理: 患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
①医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
②日常業務の一端として、報告・連絡・相談を実践する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
③医療事故等の予防と事後の対応を行う。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4. 医療従事者の健康管理(予防接種や針刺し事故への対応を含む。)を理解し、自らの健康管理に努める。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7. 社会における医療の実践: 医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
①保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
②医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
③地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
④予防医療・保健・健康増進に努める。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
⑤地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
⑥災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8. 科学的探究: 医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
①医療上の疑問点を研究課題に変換する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
②科学的研究方法を理解し、活用する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
③臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢: 医療の質の向上のために、省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

26

	内科	泌尿器科	消化器内視鏡科	呼吸器内科	心臓内科	脳卒中内科	救命救急科	外科	泌尿器科	消化器外科	呼吸器外科	心臓血管外科	小児心臓外科	脳脊髄神経科	脳卒中外科	脳血管内治療科	精神神経科	小児神経科	婦人科産婦人科	皮膚泌尿科	骨軟部組織神経痛科	頸頭部腫瘍科	形成外科	支持医療科	放射線腫瘍科	病理診断科	小児心臓科	画像診断科	検査医学科	リハビリテーション科	麻酔科	集中治療科	臨床検査医学	協力型臨床研修病院	臨床研修協力施設	
1 到達目標																																				
⑧腰椎穿刺	●					●	●		●				●	●	●	●	●	●									●				●			●	●	
⑨穿刺法(胸腔、腹腔)	●		●	●	●		●	●		●	●	●	●	●	●	●	●		●													●		●	●	
⑩導尿法	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●					●					●		●	●	
⑪ドレーン・チューブ類の管理	●		●	●	●		●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				●					●		●	●	
⑫胃管の挿入と管理	●		●		●	●	●			●		●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●				●					●		●	●	
⑬局所麻酔法	●		●		●	●	●				●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●			●					●		●	●	
⑭創部消毒とガーゼ交換							●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●				●					●		●	●	
⑮簡単な切開・排膿							●	●	●			●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●									●		●	●	
⑯皮膚縫合					●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●								●		●	●	
⑰軽度の外傷・熱傷の処置												●	●	●	●	●				●			●										●		●	
⑱気管挿管	●				●	●	●	●	●			●	●	●	●	●											●					●	●		●	●
㉑除細動等	●				●		●	●	●			●	●	●	●	●											●					●		●	●	
㉒検査手技の経験																																				
血液型判定・交差適合試験	●			●	●			●										●									●						●	●	●	
動脈血ガス分析(動脈採血を含む)	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●				●					●	●		●	●	
心電図の記録	●		●	●	●	●	●	●				●	●	●	●	●		●	●		●	●	●				●			●		●	●		●	●
超音波検査	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●		●	●	●				●					●	●		●	●
㉓診療録																																				
日々の診療録(退院時要約を含む)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●		●		●	●	●
入院患者の退院時要約(考察を記載)			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●		●					●		●	●	●
各種診断書(死亡診断書を含む)	●					●	●	●	●				●		●	●		●	●	●	●	●	●	●			●								●	●

内 科（詳細は各診療科のページ参照）

1. 内科の特色

医療過密地域においては到底経験することの出来ないほど多くの症例を経験することが可能で、量的にはもちろんのこと、充実したスタッフの下で質的に高度な内科研修を行うことができる。

高度先進医療を行う地域の中核病院の利点を生かし、プライマリ・ケアおよび専門的診療の両面において、質の高い、将来何科の医師になっても役に立つ研修が行えるように準備されている。

2. 必修研修期間

24 週以上

3. 研修担当診療科および研修責任者、臨床研修指導医

診療科	研修責任者	臨床研修指導医
造血器腫瘍科	前田 智也	高橋 直樹、前田 智也、石川 真穂、郡美佳、岡村 大輔
腫瘍内科・消化器腫瘍科	濱口 哲弥	濱口 哲弥、堀田 洋介
消化器内視鏡科	良沢 昭銘	良沢 昭銘、水出 雅文、谷坂 優樹、藤田 曜
呼吸器内科	各務 博	各務 博、解良 恭一、今井 久雄、毛利 篤人、山口 央、塩野 文子、橋本 康佑
心臓内科	荒井 隆秀	荒井 隆秀、中埜信太郎、岩永 史郎、加藤 律史、中島 淑江、池田 礼史、森 仁、野本美智留、松本 和久
脳神経内科・脳卒中内科	林 健	林 健、高橋 慎一、加藤 裕司、中上 徹、新井 徳子

※ 埼玉医科大学病院：埼玉医科大学病院研修プログラム参照

※ 埼玉医科大学総合医療センター：埼玉医科大学総合医療センター研修プログラム参照

※ 相澤病院：相澤病院研修プログラム参照

※ 埼玉病院：埼玉病院研修プログラム参照

※ さいたま市立病院：さいたま市立病院研修プログラム参照

※ 熊谷総合病院：熊谷総合病院研修プログラム参照

※ 新久喜総合病院：新久喜総合病院研修プログラム参照

※ 行田総合病院：行田総合病院研修プログラム参照

※ 小川赤十字病院：小川赤十字病院研修プログラム参照

※ 足利赤十字病院：足利赤十字病院プログラム参照

※ 太田記念病院：太田記念病院プログラム参照

※ 埼玉県立循環器・呼吸器病センター：埼玉県立循環器・呼吸器病センタープログラム参照

※ さいたま市民医療センター：さいたま市民医療センタープログラム参照

※ 深谷赤十字病院：深谷赤十字病院プログラム参照

※ 済生会加須病院：済生会加須病院プログラム参照

4. 臨床研修プログラムの特色

国際医療センターの 6 つの内科診療科および協力型臨床研修病院の内科から、研修医の希望を考慮して研修することができる。

各内科においては、指導医および上級医の指導により、目標、経験すべき症候、疾病・病態などが効率よく研修できる。研修医は研修を希望する診療科を事前に研修管理委員会に提出する。ローテートする診療科に関しては、各研修医の希望を優先するが、研修の公平性を期すため、最終的には研修管理委員会にて研修診療科を調整する。

研修を受けたい診療科での研修がこの期間に不可能な場合には、「自由選択」の期間で、希望する診療科で研修を受けることができる。

5. 目標

以下の症候、疾病・病態を経験し、基本的対応ができることを目標とする。具体的には、各診療科のページ参照。

経験すべき症候

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック
体重減少・るい瘦
発疹
黄疸
発熱
もの忘れ
頭痛
めまい
意識障害・失神
けいれん発作
視力障害
胸痛
心停止
呼吸困難
吐血・喀血
下血・血便
嘔気・嘔吐
腹痛
便通異常(下痢・便秘)
腰・背部痛
関節痛
運動麻痺・筋力低下
排尿障害(尿失禁・排尿困難)
興奮・せん妄
抑うつ
終末期の症候

経験すべき疾病・病態

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診察にあたる。

脳血管障害
認知症
急性冠症候群
心不全
大動脈瘤
高血圧

肺癌
肺炎
急性上気道炎
気管支喘息
慢性閉塞性肺疾患 (COPD)
急性胃腸炎
胃癌
消化性潰瘍
肝炎・肝硬変
胆石症
大腸癌
腎盂腎炎
尿路結石
腎不全
糖尿病
脂質異常症
うつ病
統合失調症
依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）

※経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常業務において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン（診断、治療、教育）、考察等を含むこと。

6. 研修方略（LS）

- 指導医または上級医とともに入院患者を受け持ち、問診、身体所見の把握、検査や治療の立案を行う。
- 検査結果（画像検査含む）の解釈を指導医とともに行う。
- 回診時に受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、診療方針を共に検討する。
- 検査や治療的介入を、指導医または上級医とともに行う（研修医に認められた医行為の範囲）。
- カンファレンスに参加して症例検討に加わる。
- 他職種と協力し、アドバンスド・ケアプランを検討する。
- NST、RST、認知症回診などのチーム医療に参加する。
- 患者および家族への説明の場（剖検説明含む）に立ち会う。
- 各種書類の作成方法を指導医のもとに学ぶ。

7. 週間スケジュール

原則的には月曜日～金曜日とする。土曜日または日曜日に出勤（日当直含む）した場合は、別途公休日进行を設ける。

造血器腫瘍科

○ 造血器腫瘍科の概要

1. 造血器腫瘍科の特色

無菌病棟の36床を中心に用いて診療をおこなっている。特徴としては、「成人白血病治療共同研究機構(JALSG)」および「日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)」の多施設共同治療研究グループ参加による造血器腫瘍に対する新規治療法の開発への積極的な取り組みがあげられる。造血障害に関しては「特発性造血障害に関する調査研究班」に参加し、診断法の確立・病態の解明等に、造血幹細胞移植に関しては日本造血・免疫細胞療学会の認定施設であるとともに、「関東造血幹細胞移植共同研究グループ」に参加し、造血幹細胞移植に関する臨床研究に取り組んでいる。

造血器腫瘍の治療はがん診療の最先端でもあり、がん臨床における遺伝子診断、抗がん剤化学療法、分子標的療法、サイトカイン療法、造血幹細胞移植などの先端的医療について広く深く臨床経験を積むことが可能である。

2. 診療・教育スタッフ

前田 智也（准教授、診療部長）：造血器腫瘍・造血不全症の診断と治療、造血幹細胞移植
川井 信孝（教授、副診療部長）：造血幹細胞移植、臨床輸血学
高橋 直樹（教授）：悪性リンパ腫の診断と治療
脇本 直樹（教授）：悪性リンパ腫・発作性夜間ヘモグロビン尿症の診断と治療
石川 真穂（講師）：白血病の診断と治療、造血幹細胞移植
郡 美佳（講師）：悪性リンパ腫の診断と治療

ほか、助教1名

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者：前田 智也（診療部長）

臨床研修指導医：高橋 直樹、前田 智也、石川 真穂、郡 美佳、岡村 大輔

4. 臨床研修プログラムの特色

主として白血病、リンパ腫、骨髄異形成症候群、再生不良性貧血で入院している患者を受け持ち、それぞれ血液専門医・指導医の指導のもとに診療を行う。

研修期間中は白血病、リンパ腫、骨髄腫、造血障害、造血幹細胞移植などの診療に関するレクチャーを受け、回診やカンファランスでは症例提示や発表を行う。

また、内科学会、血液学会、細胞免疫療法などで症例報告を中心とした発表をする。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 病歴の聴取と記録ができる。	()	()
2. 身体所見をとり、記録ができる。	()	()
3. 末梢血液所見の解釈ができる。	()	()
4. 出血・凝固系検査の解釈ができる。	()	()
5. 生化学検査の解釈ができる。	()	()
6. 血液型判定・交差適合試験の結果の解釈ができる。	()	()
7. 画像検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。	()	()
8. 輸血が適切に実施できる。	()	()
9. 採血法が実施できる。	()	()
10. 骨髄穿刺が実施できる。	()	()
11. 化学療法中の支持療法ができる。	()	()
12. 基本的な緩和ケアができる。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 病歴の聴取と記録ができる。	()	()
2. 身体所見をとり、記録ができる。	()	()
3. 末梢血液所見の解釈ができる。	()	()
4. 出血・凝固系検査の解釈ができる。	()	()
5. 生化学検査の解釈ができる。	()	()
6. 血液型判定・交差適合試験の結果の解釈ができる。	()	()
7. 画像検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。	()	()
8. 輸血が適切に実施できる。	()	()
9. 採血法が実施できる。	()	()
10. 骨髄穿刺が実施できる。	()	()
11. 化学療法中の支持療法ができる。	()	()
12. 骨髄像の解釈ができる。	()	()
13. リンパ節生検病理組織像の解釈ができる。	()	()
14. 血液異常の鑑別ができる。	()	()
15. リンパ節腫脹の鑑別ができる。	()	()
16. 造血幹細胞移植の適応の説明ができる。	()	()
17. 化学療法を行う際の安全管理上の留意点を説明できる。	()	()
18. 輸血を行う際の安全管理上の留意点を説明できる。	()	()
19. 基本的な緩和ケアができる。	()	()
20. 告知をめぐる諸問題、死生観・宗教観などへの配慮ができる。	()	()

6. 研修方略（LS）

- ・4～8人前後の入院患者を受け持ち、上級医・指導医の指導のもと主体的に診療に従事する。
- ・入院患者の診察を行い、診断、治療計画を自ら立案し、上級医・指導医に指導を受ける。
- ・カンファレンスに参加して症例呈示を行い、診断・治療計画の指導を受け、実践する。
- ・末梢血液、骨髄細胞標本について、上級医・指導医と共に検鏡トレーニングを実施する。
- ・化学療法中の患者の有害事象の有無をチェックする。
- ・化学療法の効果判定を上級医、指導医とともに検証する。
- ・貧血、リンパ節腫脹、出血傾向などの基本的な鑑別診断および治療法を身につける。
- ・救急診療に指導医とともに参加し、貧血、出血傾向等の common disease の診療も経験する。
- ・研修中に報告すべき症例を経験した場合は、学会発表、論文投稿を行う。

7. 週間スケジュール 初期研修医の研修スケジュール（予定）（例）

	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17:30
月	病棟診療					病棟診療				
火	病棟診療					病棟診療	症例検討会・部長回診（毎週） リサーチカンファ（第2週） リンパ腫病理合同カンファ（第3週） 症例カンファ（第4週） 日高血液疾患研究会（数回/年）			
水	骨髄採取（バンクドナー依頼 ・患者移植日のみ）					病棟診療	病棟多職種カンファレンス（毎週）			
木	病棟診療					病棟診療	がんリハビリ合同カンファ（第2・4週） 移植症例多職種カンファ（第1・3週）			
金	病棟診療					病棟診療				

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
埼玉医科大学国際医療センター
包括的がんセンター 造血器腫瘍科
前田 智也（診療部長、准教授）

腫瘍内科・消化器腫瘍科

○ 腫瘍内科・消化器腫瘍科の概要

1. 腫瘍内科・消化器腫瘍科の特色

主にがん薬物療法を専門として行う診療科であり、上級医2名とも日本臨床腫瘍学会のがん薬物療法専門医・指導医の資格を有している。本邦の2人に1人が癌に罹患し、3人に1人が癌が原因で死亡する中で、がん薬物療法を系統的に学べるのが当科の大きな特色の一つである。単に薬のことを学ぶだけでなく、緩和ケアも含めた進行癌患者のトータルケアについて、全人的な観点からのアプローチ方法についても学ぶことができる。

また、当科では先進的な治療（治験や臨床試験など）にも積極的に取り組んでいる。加えて、標準治療が無くなった方でも何とか治療に結びつけるよう、がん遺伝子パネル検査を積極的に行なっている。

2. 診療・教育スタッフ

濱口 哲弥（教授）：腫瘍内科・消化器腫瘍科

堀田 洋介（准教授）：腫瘍内科・消化器腫瘍科

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者：濱口 哲弥（診療部長）

臨床研修指導医：濱口 哲弥、堀田 洋介

4. 臨床研修プログラムの特色

- ・がん薬物療法（主に消化器がんや原発不明がん）を専門医より系統的に学ぶことができる。
- ・進行がん患者の様々な症状や病態への対処方法を学ぶことができる（総合医的、緩和医的な側面）。
- ・治験や臨床試験といった新たな医療を作っていく過程を学ぶことができる。
- ・今、一番進歩が著しい分野である、がんゲノム医療に触れることができる。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
評価		
1. 消化器がん薬物療法の対象患者を挙げることができる。 ()	()	
2. 消化器がん薬物療法の標準治療を理解できる。 ()	()	
3. がん薬物療法の有害事象へ対策や対応を理解できる。 ()	()	
4. 進行がん患者の身体的症状への緩和ケア的対応を理解できる。 ()	()	
5. 進行がん患者の精神的症状への緩和ケア的対応を理解できる。 ()	()	

目標と評価表（8週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
評価		
1. 消化器がん薬物療法の対象患者を挙げることができる。	()	()
2. 消化器がん薬物療法の標準治療を理解できる。	()	()
3. がん薬物療法の有害事象へ対策や対応を理解できる。	()	()
4. 進行がん患者の身体的症状への緩和ケア的対応を理解できる。 ()	()	
5. 進行がん患者の精神的症状への緩和ケア的対応を理解できる。	()	()
6. がん薬物療法の有害事象へ対策や対応を実施できる。	()	()
7. がんゲノム医療についての対象や現状を説明できる。	()	()

8. 原発不明癌に対する検査・治療について説明できる。	()	()
9. 進行がん患者の身体的症状への緩和ケア的対応を実施できる。	()	()
10. 進行がん患者の精神的症状への緩和ケア的対応を実施できる。	()	()

6. 研修方略 (LS)

- ・病棟業務や外来見学の中で、指導医・上級医から、①がん薬物療法の基本的概念 ②抗癌剤の種類や作用機序 ③有害事象の理解と、それに対する対応法 ④様々な癌腫に対する標準治療 ⑤緩和ケアについて基本的知識を学ぶ。
- ・インフォームド・コンセントに同席し、その内容と方法を理解し、適切なインフォームド・コンセントが出来るよう指導する。
- ・がん患者の救急外来対応の中で、オンコロジカル・エマージェンシーへの対応を学び、適切にできるよう指導する。
- ・カンファレンスや外来・病棟での指導の中で、臨床試験や治験がどの様に企画され、行われているかを学ぶ。
- ・がんエキスパートパネルを見学し、最先端の遺伝子パネル検査に触れる。

7. 週間スケジュール (例)

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟	胃外科 カンファレンス 病棟	大腸外科 カンファレンス 外来見学	病棟	肝胆膵外科 カンファレンス 病棟	食道外科 カンファレンス
午後	病棟	病棟	病棟	病棟 がんエキスパート パネル(隔週)	病棟 がんエキスパート パネル(隔週)	

※朝夕2回 腫瘍内科カンファレンス

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター
 包括的がんセンター 腫瘍内科・消化器腫瘍科
 堀田 洋介 (研修医長、准教授)

消化器内視鏡科

○ 消化器内視鏡科の概要

1. 消化器内視鏡科の特色

消化器内視鏡科の専門領域は、主として消化管、胆道、膵臓の腫瘍性疾患である。消化器内科医は全て消化器病センターに所属する。消化器病センターには消化器内科と消化器外科医が専門の垣根をこえて所属し、互いに協力して患者の診断、治療を担当する。ひとりひとりの腫瘍性疾患患者の病態を正しく診断し、最善の治療を選択できるよう、消化器病センター内で消化器内科医、消化器外科医のみならず腫瘍内科医、放射線科医、病理医をも交えてディスカッションを常時行っている。

また、手術的あるいは内視鏡的に切除された標本の病理結果をふまえて再度症例検討を行い、術前診断の妥当性の検証を行っている。

消化器内視鏡科では、主に内視鏡や超音波を用いた腫瘍性疾患の診断や、消化管癌の内視鏡治療、胆膵疾患の内視鏡治療、経皮的治療などを担当する。消化管癌の内視鏡治療は従来法である EMR に加え、大きな表面型腫瘍を一括切除できる内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を積極的に行うことにより、消化管の早期がん到低侵襲で質の高い医療を提供している。胆膵疾患は主に腫瘍に伴う閉塞性黄疸に対し、主として内視鏡的に減黄を行っている。内視鏡や超音波内視鏡を用いた胆道・膵臓の診断と治療は国際的に高く評価されており、技術指導や見学者受け入れを積極的に行っている。国内外のトップレベルの施設で行われている治療・検査のほとんどが施行可能であるが、なかでも超音波内視鏡を用いた EUS-FNA やバルーン内視鏡を用いた Roux-en-Y 症例などの術後再建腸管に対する ERCP については、世界でも有数の施設として評価されており国内外から医師が研修に訪れる。

2. 診療・教育スタッフ

良沢 昭銘(教 授):日本内科学会認定医、日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本胆道学会指導医、日本膵臓学会指導医

水出 雅文(教 授):日本内科学会認定医、日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本胆道学会指導医、日本膵臓学会指導医

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者:良沢 昭銘(診療部長)

臨床研修指導医:良沢 昭銘、水出 雅文、谷坂 優樹、藤田 曜

上級医:山崎 嵩之、杉本 啓、渡邊 隆一、小森 健吾、浜村 亮輔

4. 臨床研修プログラムの特色

消化器内科、消化器外科、腫瘍内科などが関与するあらゆるステージの消化器癌患者に対する術前診断、内視鏡治療、術後フォローを経験することにより、極めて密度の濃い臨床経験ができる。専門医がマンツーマンに近いかたちで指導する。とてもアットホームな雰囲気、若い世代にできるだけ多くの実地経験をつませるようきめ細かな配慮をしている。

5. 目標と評価表

目標と評価表 (4 週研修した場合)

【評価 A: 可 B: 不可】	自己評価	指導医評価
1. 消化管内視鏡検査の画像を理解できる。	()	()
2. ERCP 検査の画像を理解できる。	()	()
3. CT、MRI 検査の画像を理解できる。	()	()

目標と評価表 (8 週以上研修した場合)

【評価 A: 可 B: 不可】	自己評価	指導医評価
1. 消化管内視鏡検査の画像を理解できる。	()	()
2. ERCP 検査の画像を理解できる。	()	()
3. CT、MRI 検査の画像を理解できる。	()	()
4. 消化管内視鏡診断ができる。	()	()
5. 超音波内視鏡の解剖を理解ができる。	()	()

6. ERCP 診断ができる。	()	()
7. 消化管内視鏡検査治療の介助ができる。	()	()
8. 胆膵内視鏡診療の介助ができる。	()	()

6. 研修方略 (LS)

- ・胆膵チーム・消化管チームに2週間ずつ所属し、指導医・上級医と共に入院患者を担当する。
- ・内視鏡検査・治療の見学と介助を行いつつ内視鏡診断学を学び、かつ初歩的な内視鏡手技を実践する。
- ・外科との合同臓器別カンファレンスでは、複数診療科との議論の中から多角的な考え方を学ぶ。

7. 週間スケジュール (例)

	月	火	水	木	金	土
午前	回診	カンファレンス ・教授回診	回診	カンファレンス ・教授回診	カンファレンス ・教授回診	回診
	内視鏡検査・ 治療研修	内視鏡検査・ 治療研修	内視鏡検査・ 治療研修	内視鏡検査・ 治療研修	内視鏡検査・ 治療研修	内視鏡検査・ 治療研修
	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修
午後	内視鏡検査・ 治療	内視鏡検査・ 治療研修	内視鏡検査・ 治療研修	内視鏡検査・ 治療研修	内視鏡検査・ 治療研修	内視鏡検査・ 治療研修
	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修
	回診	カンファレンス ・教授回診	回診	回診	回診	回診

火曜午前：消化器センター臓器別カンファレンス(上部消化管)

火曜午後：消化器内視鏡科 胆膵カンファレンス

木曜午前：消化器センター臓器別カンファレンス(下部消化管)

金曜午前：消化器センター臓器別カンファレンス(肝胆膵疾患)

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学国際医療センター

包括的がんセンター 消化器内視鏡科

良沢 昭銘 (診療部長、教授)

呼吸器内科

○ 呼吸器内科の概要

1. 呼吸器内科の特色

肺癌などの胸部悪性疾患の内科診療を行っている。

2. 診療・教育スタッフ

各務 博（教授、診療部長）
解良 恭一（教授、診療副部長）
今井 久雄（准教授）
毛利 篤人（准教授）
山口 央（講師）

ほか、助教4名

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者：各務 博（診療部長）

臨床研修指導医：各務 博、解良 恭一、今井 久雄、毛利 篤人、山口 央、塩野 文子、
橋本 康佑

上級医：三浦 雄

4. 臨床研修プログラムの特色

研修医は講師以上の指導医を中心とした診療チームに属し、その指導のもと入院患者の診療を担当する。診療チームの一員として、検査、治療方針を計画し、実行する。回診、カンファレンスにおいて、受け持った患者のプレゼンテーションを行う。肺癌の病初期の積極的治療から緩和治療までを担当する。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 呼吸器疾患の病歴および理学所見をとることができる。	()	()
2. 胸部X線写真を読影できる。	()	()
3. 胸部CTを読影できる。	()	()
4. 気管支鏡検査の方法、合併症を理解する。	()	()
5. 肺癌の診断（存在診断、組織診断、病期診断）ができる。	()	()
6. 肺癌に随伴する合併症のマネジメントができる。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 呼吸器疾患の病歴および理学所見をとることができる。	()	()
2. 胸部X線写真を読影できる。	()	()
3. 胸部CTを読影できる。	()	()
4. 気管支鏡検査の方法、合併症を理解する。	()	()
5. 肺癌の診断（存在診断、組織診断、病期診断）ができる。	()	()
6. 肺癌の治療方針を計画、実行できる。	()	()
7. 肺癌に随伴する合併症のマネジメントができる。	()	()
8. 胸腔穿刺ドレナージの手順、合併症を理解する。	()	()
9. 呼吸器感染症の抗菌薬選択ができる。	()	()
10. 緩和ケアを計画、実行できる。	()	()

6. 研修方略 (LS)

- ・研修医自ら病棟担当医として指導医・上級医とともに病棟患者の診療にあたる。
- ・担当患者数は、常時 4～8 人とし、研修を行う上で適切な患者数とする。
- ・研修指導医あるいは上級医が毎日回診を行い、身体診察、検査結果の解釈、画像読影について指導する。
- ・科内での診断、治療についてのディスカッションを通して専門医の診療過程を指導する。
- ・救急診療に指導医とともに参加し、呼吸困難や咳嗽等の common disease の診療を指導する。
- ・進行期肺癌患者における合併症や多彩な病態を通じて、一般的な内科診療のマネジメントを指導する。
- ・カンファレンスにおいて症例プレゼンテーションの仕方を指導する。
- ・気管支鏡検査、胸腔穿刺、胸腔ドレーン留置についてシミュレーション・実地指導する。
- ・研修中に報告すべき症例を経験した場合は、学会発表、論文投稿まで指導する。

7. 週間スケジュール (例)

曜日	午前	午後
月	担当入院患者の診療	気管支鏡検査
火		PM1-3 カンファレンス（主に入院患者の治療内容についての検討） PM3-4 気管支鏡検査カンファレンス PM4-5 抄読会
水		気管支鏡検査
木		気管支鏡検査
金		気管支鏡検査
土	朝 8:30 呼吸器病センターカンサーボードに参加	担当入院患者の診療

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター
 包括的がんセンター 呼吸器内科
 山口 央（研修医長、講師）

心臓内科

○ 心臓内科の概要

1. 心臓内科の特色

心臓病センターの内科部門を担当し、心臓血管外科、小児心臓科、小児心臓外科などと連携を取り、共同でチーム医療を行っている。対象とする疾患は心不全、心筋梗塞や狭心症、不整脈、弁膜症、心筋症、先天性心疾患などで入院ベッドとして、CCU 12 床を含めた定床 77 床があり、心疾患が悪化しやすい季節には急性心筋梗塞など多数の緊急患者が入院する。症例数は豊富である。これは心臓病センターが地域の循環器救急医療の中核に位置するためであり、循環器領域の急性疾患に迅速に対応できる医師を育てるのに適した環境である。受け持つ症例には緊急で対応しなければならない急性疾患も含まれるが、これらの疾患の診断と初期治療を学べば、プライマリ・ケアにも非常に役に立つ。また、重症心不全に対する心臓移植や心室再同期療法(CRT)、和温療法、頻脈性不整脈に対するカテーテル焼灼療法(アブレーション)、ICD 植込み、Structural Heart Disease インターベンションなど高度な医療を学ぶ機会も豊富にある。

2. 診療・教育スタッフ

中埜信太郎 (教 授、研修医長) : 救急、心血管インターベンション、デバイス治療
岩永 史郎 (教 授) : 弁膜症、成人先天性心疾患、画像診断、心エコー図学
加藤 律史 (教 授) : 不整脈、アブレーション治療、心臓電気生理学
荒井 隆秀 (教 授) : 心血管インターベンション、デバイス治療
中島 淑江 (准教授) : 心エコー図学、経食道心エコー図検査
池田 礼史 (准教授) : 心不全、不整脈、デバイス治療
森 仁 (講 師、診療副部長) : 不整脈、アブレーション治療、心臓電気生理学
野本美智留 (講 師) : 心不全、心臓移植

ほか、助教 11 名

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者 : 中埜信太郎 (運営責任者)、荒井 隆秀 (診療部長 : 心臓内科)、加藤 律史 (診療部長 : 不整脈科)

臨床研修指導医 : 中埜信太郎、岩永 史郎、加藤 律史、荒井 隆秀、中島 淑江、池田 礼史、森 仁、野本美智留、松本 和久、

上級医 : 関 要、丹波 早紀、成田 昌隆、保谷 洋貴、佐々木 渉、永沼 嗣、松尾 圭祐、田中 尚道

4. 臨床研修プログラムの特色

循環器領域の診療に関する知識のみではなく、医師としてあるいは内科医として必要な知識と技能を修得し、EBM に基づく医学の進歩に追従できる診療能力を得ることを目的とする。特に心臓内科ではチーム医療を必要とするため、他の医療スタッフとの協調性を高め、患者の家族を含めた良好な人間関係を築き、使命感、倫理観、人間性と社会性を身につけた医師の育成をめざす。指導医のもとで数名の入院患者を受け持ち、検査法と治療法を学び、病態の把握、検査や治療の計画を立てる能力を養う。心電図や画像診断の判読の教育にも力を入れている。

また、集中治療室を 4 週間担当して、心肺停止、ショック、急性心不全、急性冠症候群などの循環器救急治療 (心肺蘇生、気管内挿管、電氣的除細動、輸液管理など) に即応できる能力を身につける。その他、厚生労働省の臨床研修プログラムに準じて指導を行う。

5. 目標と評価表

目標と評価表 (4 週研修した場合)

【評価 A : 可 B : 不可】	自己評価	指導医評価
1. 主要な兆候の病態を理解できる。	()	()
2. 適切な病歴聴取ができる。	()	()
3. 身体所見を診ることができる。	()	()
4. 生理機能検査の結果を理解できる。	()	()

5. 画像検査の結果を理解できる。	()	()
6. カテーテル検査所見を理解できる。	()	()
7. 主要疾患の初期診療計画を立案できる。	()	()
8. ショックの初期対応ができる。	()	()
9. 急性心筋梗塞の初期対応できる。	()	()
10. 急性肺水腫の初期対応できる。	()	()
11. ケースプレゼンテーションができる。	()	()

目標と評価表 (8 週以上研修した場合)

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 主要な兆候の病態を理解できる。	()	()
2. 適切な病歴聴取ができる。	()	()
3. 身体所見を診ることができる。	()	()
4. 生理機能検査の結果を理解できる。	()	()
5. 画像検査の結果を理解できる。	()	()
6. カテーテル検査所見を理解できる。	()	()
7. 主要疾患の初期診療計画を立案できる。	()	()
8. ショックの初期対応ができる。	()	()
9. 急性心筋梗塞の初期対応できる。	()	()
10. 急性肺水腫の初期対応できる。	()	()
11. ケースプレゼンテーションができる。	()	()
12. 動脈硬化危険因子是正を患者に説明・指導ができる。	()	()
13. 循環作動薬の使用法が説明できる。	()	()
14. ショックの入院精査加療を上級医と共に実践できる。	()	()
15. 急性心筋梗塞の入院精査加療を上級医と共に実践できる。	()	()
16. 急性肺水腫の入院精査加療を上級医と共に実践できる。	()	()
17. 症例報告または研究発表ができる。	()	()

6. 研修方略 (LS)

- ・病棟は医局員、研修医、学生、コメディカルがチームとして診療にあたる。各研修医はチームに配属され、スタッフがその指導にあたる。
- ・毎朝施行されるモーニングカンファレンスに参加し、プレゼンテーションスキルと入院患者の管理を学ぶ。
- ・毎週月曜日に施行される全体回診に参加し入院患者の管理を学ぶ。
- ・外科内科合同カンファレンス（火曜日）、ACHD カンファレンス（月 1、水曜日）、病理カンファレンス（月 1、木曜日）、移植カンファレンス（金曜日）、Brain-Heart カンファレンス（月 1、金曜日）に参加する事で他職種との連携した診療体制を学ぶ。
- ・不整脈カンファレンス（木曜日）、僧帽弁カンファレンス（金曜日）に参加する事で、循環器診療における専門的分野に関する知見を深める。
- ・救急診療に上級医とともに参加し循環器疾患の診断と治療を習得する。
- ・カテーテルインターベンション（PCI、アブレーション、デバイス治療、Structural Heart disease インターベンション）に参加し循環器治療の最先端を学ぶ。

7. 週間スケジュール（例）

	午前		午後		特殊手技
月曜日	08:00-	ICU/CCU 回診	16:00-	病棟全体回診	
火曜日	07:30-	外科内科合同カンファレンス	14:30-	病棟・新入院レビュー	TAVI VT アブレーション
	08:00-	ICU/CCU 回診			
水曜日	08:00-	ICU/CCU 回診	14:30-	病棟・新入院レビュー	リード抜去 左心耳閉鎖術
木曜日	07:30-	不整脈カンファレンス	14:30-	病棟・新入院レビュー	BPA
	08:00-	ICU/CCU 回診			
金曜日	07:30-	ICU/CCU 回診	14:30-	病棟・新入院レビュー	Mitra-Clip PTMC/PTSMA
	08:00-	僧帽弁カンファレンス			
土曜日	08:30-	ICU/CCU 回診			

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター
 心臓病センター 心臓内科
 中埜 信太郎（運営責任者、教授）

脳神経内科・脳卒中内科

○ 脳神経内科・脳卒中内科の概要

1. 脳神経内科・脳卒中内科の特色

当院では地域の救急隊から、または近隣の医療施設より紹介されて、毎年約 4,000 例以上の救急患者を受け入れている。その内訳はおもに 2 次・3 次の救急患者であるが、なかでも当科が専門とする神経救急疾患は約 35%を占めている。当科の診療内容は脳血管障害の急性期治療が中心であり、その患者数は極めて多い。それ以外では、てんかん重積発作、髄膜炎・脳炎、ギラン・バレー症候群、アルツハイマー型認知症、筋萎縮性側索硬化症などの疾患の診療にもあたっている。このように、多くの症例数を経験できると同時に、脳神経内科各分野の専門家が揃っているため、神経疾患に関してすべてを学ぶことができる。

また、脳卒中センターの一員としてチーム医療を大切にしている。カンファレンスは脳卒中外科・脳血管内治療科・リハビリテーション科と合同で行い、専門科の垣根を越え協力しあって診療することを常に心掛けている。毎月、心臓内科との Brain heart conference を行い、最適な脳卒中予防の検討を行っている。

当科では神経学的所見のとり方・考え方から各疾患の診断、治療に至るまで専門医資格を有する指導医がきめ細かく研修医を指導している。このため、研修医は Stroke Care Unit (SCU) および一般病棟で 4～8 名の患者を受け持ちながら、一般内科、神経内科診療を無理なく十分に学ぶことができる。

2. 診療・教育スタッフ

林 健 (教授、診療部長) : 脳卒中の臨床、臨床神経学
加藤 裕司 (教授、副診療部長) : 脳卒中の臨床、臨床神経学、頭痛の診療、認知症
高橋 慎一 (教授) : 脳卒中の臨床、臨床神経学
中上 徹 (講師) : 脳卒中の臨床、臨床神経学

ほか、助教 4 名

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者 : 林 健
臨床研修指導医 : 林 健、高橋 慎一、加藤 裕司、中上 徹、新井 徳子
上級医 : 尾立樹一郎、矢野鉄人、正田創太郎

4. 臨床研修プログラムの特色

総合内科専門医・神経内科専門医・脳卒中専門医・認知症専門医・頭痛専門医の直接指導のもと、内科診断学および神経診断学を身につけることを目標とする。

A. 病棟業務 : 受け持ち患者 4～8 名

SCU および一般病棟にて以下の神経疾患を受け持つ。

(脳卒中、てんかん、髄膜炎・脳炎、重症筋無力症、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群など)
一般内科的診察、神経学的診察の基本を学ぶ。

とくに SCU では血圧・呼吸・輸液管理など重症患者管理も合わせて研修する。

多職種で行っている認知症ケア回診に参加し、院内の認知症患者の診断・治療・ケアを学ぶ。

B. 外来業務

神経症状を主訴とする救急患者の診療に搬入時から携わる。認知症の鑑別診断を研修する。

5. 目標と評価表

目標と評価表 (4 週研修した場合)

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 病歴、既往歴、家族歴を聴取し記載できる。	()	()
2. 一般身体所見をとり記載できる。	()	()
3. 神経学的診察や NIHSS をとり記載できる。	()	()
4. 病巣診断、鑑別診断を考え必要な検査計画を立て 確定診断に至る過程を身につける。	()	()
5. 神経画像の基本的読影技術を習得する。	()	()
6. 脳血管障害以外のてんかん、中枢神経感染症、炎症性疾患や 末梢神経疾患（ギラン・バレー症候群）などの 神経救急疾患の診療を身につける。	()	()
7. 指導医について患者、家族とのコミュニケーションの仕方を学び、 実践できるようになる。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 病歴、既往歴、家族歴を聴取し記載できる。	()	()
2. 一般身体所見をとり記載できる。	()	()
3. 神経学的診察や NIHSS をとり記載できる。	()	()
4. 病巣診断、鑑別診断を考え必要な検査計画を立て 確定診断に至る過程を身につける。	()	()
5. 神経画像の基本的読影技術を習得する。	()	()
6. 脳血管障害以外のてんかん、中枢神経感染症、炎症性疾患や 末梢神経疾患（ギラン・バレー症候群）などの 神経救急疾患の診療を身につける。	()	()
7. 脳波、神経伝導検査、筋電図、腰椎穿刺など 当科特有の検査について経験する。	()	()
8. 指導医について患者、家族とのコミュニケーションの仕方を学び、 実践できるようになる。	()	()
9. 興味深い経験症例を学会発表、論文投稿する。	()	()
10. 神経超音波検査を指導医の監督の下で実施できる。	()	()
11. 電気生理学的検査を指導医の監督の下で実施できる。	()	()
12. 脳血管撮影・血管内治療の助手ができる。	()	()

6. 研修方略（LS）

- ・指導医のもとで脳神経内科・脳卒中内科の全般に渡る研修指導を行う。
- ・担当患者数は およそ 4～8 人とし、研修を行う上で適切な患者数とする。
- ・教授あるいはスタッフが毎日回診を行い、神経学的診察、画像読影について指導する。
- ・科内での診断、治療についてのディスカッションを通して専門医の診療過程を指導する。
- ・救急診療に指導医とともに参加し、頭痛やめまい等の common disease の診療も指導する。
- ・カンファレンスでの症例プレゼンテーションの仕方を指導する。
- ・腰痛穿刺、神経生理学的検査についてシミュレーション・実地指導する。
- ・研修中に報告すべき症例を経験した場合は、学会発表、論文投稿まで指導する。

7. 週間スケジュール（例）

	8:15	9	10	11	12	13	14	15	16	17:30
月	新患カンファレンス・スタッフ回診・病棟診療・脳血管撮影・脳血管内治療									
火	新患カンファレンス・スタッフ回診・病棟診療・症例検討会・抄読会									
水	新患カンファレンス・スタッフ回診・病棟診療・認知症ケア回診									
木	新患カンファレンス・スタッフ回診・病棟診療・脳血管撮影・脳血管内治療・症例検討会									
金	新患カンファレンス・スタッフ回診・病棟診療									
土	新患カンファレンス・病棟診療									

(随時救急診療に応需)

カンファレンス・抄読会

カンファレンスの予定は上記のとおりである。毎週木曜日の症例検討会では、1週間以内の新規入院患者を中心に科内全体で検討している。また、月に1度、科内で各々の研究テーマの進捗の発表や学会の予演会を行う。

8. 研修に関する問合せ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学国際医療センター

救命救急センター 脳卒中センター

脳神経内科・脳卒中内科 林 健（診療部長、教授）

救命救急科

○ 救命救急科の概要

1. 救命救急科の特色

埼玉医科大学国際医療センター救命救急科は、地域救急医療の基幹病院としての役割を担っており、初期から三次まであらゆる救急患者を対象とし、救急専従医によりショック、外傷、広範囲熱傷、急性中毒などに対しては初期診療から手術、集中治療、リハビリテーション及び外来通院までを可能な限り一貫して行い、また、急性冠症候群、脳卒中では心臓病センター、脳卒中センターの専門医が協力して初期診療を担当している。

特徴として、初期から三次まであらゆる重症度の救急車搬送患者の初期診療ならびに初療を行う ER 型ではなく、日本救急医学会専門医・指導医、日本外傷学会、日本救急医学会公認の外傷初期診療コース (JPTEC、JATEC、JNTEC) のインストラクターおよびプロバイダーを中心とし、一般外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、麻酔・集中治療などのサブスペシャリティーを持つ外傷チーム (Acute Care Surgery を含む) による適切かつ迅速な初期診療・治療や手術から入院後の治療までを実践していることであり、地域における「Shock & Trauma Center」的な存在である。

2. 必修研修期間

12 週以上

3. 診療・教育スタッフ

加地 正人 (教 授)
根本 学 (教 授)
井上 孝隆 (教 授)
大谷 義孝 (准教授)
吉川 淳 (講 師)
小川 博史 (助 教)
宮田 秀平 (助 教)

ほか、助教数名

4. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者：加地 正人 (診療部長)

臨床研修指導医：根本 学、井上 孝隆、枘岡 歩、大谷 義孝、吉川 淳、小川 博史、
加藤進太郎、宮田 秀平

上級医：小幡 雄三、近江 光

5. 臨床研修プログラムの特色

必修研修では、患者の容態に合わせて診察、診断、治療を展開できるよう、以下の目標を達成できるように研修する。2 年目の自由選択研修では、臨床研修医のリーダー的存在として、必修研修中の 1 年目を牽引していく役割を担うことで責任感を身につけられる。また、他科で得た知識や手技を深める意味で多くの症例を指導医の下で経験することができる。

6. 目標と評価表

目標と評価表 (4 週研修した場合)

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 緊急度、重症度の判断ができる。	()	()
2. 一次・二次心肺蘇生ができる。	()	()
3. 採血・末梢静脈路確保ができる。	()	()
4. 動脈血採血及び動脈血ガス分析ができる。	()	()
5. 必要な検査・処置の指示が実施できる。	()	()
6. 終末期医療・APC について理解する。	()	()
7. プレホスピタルケアについて理解する。	()	()

8. 外傷初期診療を理解し初期対応を実践できる。	()	()
9. ショックの病態把握と初期対応を実践できる。	()	()
10. 集中治療での基本診療を理解し実践できる。	()	()
11. 標準感染予防策を理解し、実践できる。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 緊急度・重症度の判断ができる。	()	()
2. 一次・二次救命処置ができる。	()	()
3. 採血・末梢静脈路確保ができる。	()	()
4. 動脈血採血及び動脈血ガス分析ができる。	()	()
5. 必要な検査・処置の指示が実施できる。	()	()
6. 気管挿管の介助が実施できる。	()	()
7. 手術の助手が実施できる。	()	()
8. 現在の容態・今後の治療方針の説明ができる。	()	()
9. 終末期医療・APCについて説明できる。	()	()
10. プレホスピタルケアについて理解する。	()	()
11. プレホスピタルでの応急処置が実施できる。	()	()
12. 外傷初期診療を理解し初期対応を実践できる。	()	()
13. ショックの病態把握と初期対応を実践できる。	()	()
14. 集中治療での基本診療を理解し実践できる。	()	()
15. 標準感染予防策を理解し、実践できる。	()	()

6. 研修方略（LS）

- ・初療から入院・退院までの患者管理を上級医とともに実践する。
- ・手術（外傷・急性腹症）に助手として入ることで治療内容を理解する。
- ・退院・転院調整の際に、今後患者に必要なとなる社会資源、医療資源を知り、上級医とともに調整できる。

7. 週間スケジュール（例）

	月	火	水	木	金	土
08：30	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
	初療対応	初療対応	初療対応	初療対応	初療対応	初療対応
	病棟・手術	病棟・手術	病棟・手術	病棟・手術	病棟・手術	病棟・手術
13：00	適時昼休憩	適時昼休憩	適時昼休憩	適時昼休憩	適時昼休憩	適時昼休憩
	初療対応	初療対応	初療対応	初療対応	初療対応	初療対応
	病棟・手術	病棟・手術	病棟・手術	病棟・手術	病棟・手術	病棟・手術
17：00	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス

※カンファレンス 8時30分、17時00分

朝カンファレンスは前日の当直医報告から始まり、入院患者の治療方針等について検討する。

タカンファレンスは日勤帯の報告および当直医への申し送りを行う。

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学国際医療センター

救命救急センター 救命救急科

加地 正人（診療部長、教授）

外科（詳細は各診療科のページ参照）

1. 外科の特色

高度先進医療を行う地域の中核病院の利点を生かし、広く外科系各科で診断、治療方針の決定、手術手技を能動的に学ぶことを目的とする。また、将来外科に進むことを希望する研修医は外科専門医取得を前提に、希望に沿った自由度が高いローテーションプログラムを作ることが可能である。

2. 必修研修期間

3 病院自由選択プログラム、研究マインド育成自由選択プログラム：4 週以上
特設外科系プログラム：8 週以上

3. 研修担当診療科および研修責任者、臨床研修指導医

診療科	研修責任者	臨床研修指導医
泌尿器腫瘍科	城武 卓	小山 政史、城武 卓、金子 剛 萩原 正幸、高橋 崇志
乳腺腫瘍科	大崎 昭彦	大崎 昭彦、長谷部孝裕、松浦 一生、 大原 正裕、横川 秀樹、貫井 麻未、 一瀬 友希、近藤 奈美
消化器外科	岡本 光順	岡本 光順、櫻本 信一、平能 康充、 佐藤 弘、合川 公康、平沼知加志、 梶田 浩文、宮脇 豊、岡田 克也、 渡辺雄一郎、石山 泰寛、高瀬健一郎、 江原 玄、藤井 能嗣、鳥海 哲郎、 影山 優美子
呼吸器外科	菱田 智之	菱田 智之、二反田博之、市来 嘉伸、 梅咲 徹也、田口 亮
心臓血管外科	吉武 明弘	吉武 明弘、朝倉 利久、木下 修、 中嶋 智美
小児心臓外科	帆足 孝也	鈴木 孝明、帆足 孝也、平野 暁教 細田 隆介
脳脊髄腫瘍科	三島 一彦	三島 一彦、鈴木 智成、白畑充章
脳神経外科・脳卒中外科	栗田 浩樹	栗田 浩樹、寺西 亮雄、武裕士郎、 大塚 宗廣
脳血管内治療科	神山 信也	神山 信也、芳村 雅隆

※ 埼玉医科大学病院：埼玉医科大学病院研修プログラム参照

※ 埼玉医科大学総合医療センター：埼玉医科大学総合医療センター研修プログラム参照

※ 熊谷総合病院：熊谷総合病院研修プログラム参照

※ 新久喜総合病院：新久喜総合病院プログラム参照

※ 行田総合病院：行田総合病院プログラム参照

※ さいたま市民医療センター：さいたま市民医療センタープログラム参照

※ 深谷赤十字病院：深谷赤十字病院プログラム参照

※ 済生会加須病院：済生会加須病院プログラム参照

4. 臨床研修プログラムの特色

国際医療センターの 9 つの外科診療科および協力型臨床研修病院の外科から、研修医の希望を考慮して研修することができる。

各科においては、指導医および上級医の指導により、到達目標、経験すべき症候、疾病・病態などが効率よく研修できる。研修医は研修を希望する診療科を事前に研修管理委員会に提出する。ローテーションする診療科に関しては、各研修医の希望を優先するが、研修の公平性を期すため、最終的には研修管理委員会にて研修診療科を調整する。

研修を受けたい診療科での研修がこの期間に不可能な場合には、「自由選択」の期間で、希望する診療科で研修を受けることができる。

5. 目標

臨床研修の基本理念、到達目標は「3. 補足」を参考にすること。ここでは、それらを踏まえ、外科研修で重きをおく特徴的な経験すべき症候、経験すべき疾病・病態のみを提示する。

経験すべき症候

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック
体重減少・るい瘦
発疹
黄疸
発熱
もの忘れ
頭痛
めまい
意識障害・失神
けいれん発作
視力障害
胸痛
心停止
呼吸困難
吐血・喀血
下血・血便
嘔気・嘔吐
腹痛
便通異常(下痢・便秘)
腰・背部痛
関節痛
運動麻痺・筋力低下
排尿障害(尿失禁・排尿困難)
興奮・せん妄
抑うつ
成長・発達の障害
終末期の症候

経験すべき疾病・病態

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診察にあたる。

脳血管障害
認知症
急性冠症候群

心不全
大動脈瘤
高血圧
肺癌
肺炎
急性上気道炎
気管支喘息
慢性閉塞性肺疾患 (COPD)
急性胃腸炎
胃癌
消化性潰瘍
肝炎・肝硬変
胆石症
大腸癌
腎盂腎炎
尿路結石
腎不全
高エネルギー外傷・骨折
糖尿病
脂質異常症
うつ病
依存症 (ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)

※経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常業務において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン(診断、治療、教育)、考察等を含むこと。

6. 研修方略 (LS)

- ・研修開始時に、研修医長を中心に、教育に関わる臨床研修指導医、上級医、臨床研修指導者（看護師等のコメディカルスタッフが研修医と話し合いの場を持ち、到達目標の達成度や手技等の経験状況などを把握したうえで、研修医の希望も考慮しながら研修スケジュールを組み立てる。
- ・研修医長は指導をしつつ、統括する体制を取り、臨床研修指導医・上級医は研修医とともに数名の入院患者を受け持ち、幅広い外科的疾患の診療を行う。また、各領域からの指導サポートを臨床研修指導者が行う。
- ・研修医は、積極的にカンファレンスに参加し、チームの一員として研修を行う。また、外科研修を通じ、感染対策、予防医療、社会復帰支援、アドバンス・ケア・プランニングを経験する。
- ・可能な限り、臨床研修指導医の下、一般外来を見学する。
- ・研修医が直接施行できない医行為については、シミュレーションセンターを利用した練習を行う。
- ・縫合・結紮練習は臨床研修センター所有の器材を用いて行うことができる。

7. 週間スケジュール

原則的には月曜日～金曜日とする。土曜日または日曜日に出勤（日当直含む）した場合は、別途公休日进行を設ける。

泌尿器腫瘍科

○ 泌尿器腫瘍科の概要

1. 泌尿器腫瘍科の特色

泌尿器科は腎・副腎・腎盂尿管・膀胱・前立腺・精巣など尿路および男性生殖器系器官を対象とした診療を行う。国際医療センター泌尿器腫瘍科ではこれらに発生した悪性腫瘍の診断・治療を行う。欧米では前立腺癌は男性の癌で最多であり、本邦においても 2015 年度から男性の癌罹患率が第一位となった。膀胱癌や腎癌の頻度も高く、社会の高齢化に伴って泌尿器科領域の診療は今後さらに重要性を増すと考えられる。

2. 診療・教育スタッフ

小山 政史（教授）
城武 卓（教授）
金子 剛（准教授）
萩原 正幸（講師）
高松 公晴（講師）

3. 研修責任者と臨床研修指導医

研修責任者：城武 卓（診療部長）
臨床研修指導医：小山 政史、城武 卓、金子 剛、萩原 正幸、高橋 崇志

4. 臨床研修プログラムの特色

当科の臨床研修によって、泌尿器悪性腫瘍を対象とした一般病棟業務を通じて、周術期管理を含めた全身管理を学習する。一般的な症例から他診療科との連携が必要な複合的な症例までさまざまな治療を経験することができる。さらに一般内科・外科的な知識や技術を基盤として、泌尿器科領域で必要な基礎的な手技、考え方を習得できるような環境が提供される。さらに臨床経験のみならず、症例の学会報告や論文執筆を含めたリサーチマインドの基盤構築も期待される。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4 週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 適切な問診、泌尿器科的身体所見をとることができる。	()	()
2. 患者の病態を把握し鑑別診断を行うことができる。	()	()
3. 必要な検査を体系的にプランすることができる。	()	()
4. 検査結果を適切に判断しさらに必要な検査や治療のプランを立てることができる。	()	()
5. 他診療科医師への診察依頼が適切にできる。	()	()
6. 治療における効果、副作用、問題点などを把握し対処できる。	()	()
7. 薬剤や医療器具を適切に使用できる。	()	()
8. 病棟における各種基本治療手技が行える。	()	()
9. 他の医療従事者とのコミュニケーションをしっかりとることができる。情報伝達がスムーズに行く。	()	()
10. 救急患者や病棟患者の緊急時の対応ができる。	()	()
11. 手術において手術介助者として適切な行動をとることができる。基本的な手術手技が行える。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 適切な問診、泌尿器科的身体所見をとることができる。	()	()
2. 患者の病態を把握し鑑別診断を行うことができる。	()	()
3. 必要な検査を体系的にプランすることができる。	()	()
4. 検査結果を適切に判断しさらに必要な検査や治療のプランを立てることができる。	()	()
5. 他診療科医師への診察依頼が適切にできる。	()	()
6. 治療における効果、副作用、問題点などを把握し対処できる。	()	()
7. 薬剤や医療器具を適切に使用できる。	()	()
8. 病棟における各種基本治療手技が行える。	()	()
9. インフォームドコンセントを理解し実践できる。	()	()
10. 診療録や各種診断書、紹介状などの記載が過不足なくできる。	()	()
11. 他の医療従事者とのコミュニケーションをしっかりとることができ情報伝達がスムーズに行く。	()	()
12. 救急患者や病棟患者の緊急時の対応ができる。	()	()
13. 手術において手術介助者として適切な行動をとることができ基本的な手術手技が行える。	()	()
14. 臨床病理検討会への参加することにより、問題症例に対し病理医と適切に議論を行うことができる。	()	()

6. 研修方略（LS）

1) 病棟

- ・ 担当医として入院患者を受け持ち、主治医（指導医、上級医）の指導のもと、問診、身体診察、検査データの把握を行ない、治療計画立案に参加する。
- ・ 毎日担当患者の回診を行ない、指導医と方針を相談する。輸液、検査、処方などのオーダーを主治医の指導のもと積極的に行なう。
- ・ 抜糸、ガーゼ交換、ドレーン管理などを回診医師とともに行なう。
- ・ 症例検討会（火-金曜日 8:10から）で受け持ち患者のプレゼンテーションを行う。

2) 外来

- ・ 外来患者の診察を担当医とともに行う。
- ・ 直腸診、腎・膀胱・前立腺などのエコーを担当医とともにいき、解剖学的所見を十分理解する。
- ・ インフォームドコンセントの実践を学び、患者・家族の心理的な面も含めた状態把握の方法を理解する。

3) 手術室

- ・ 主に助手として手術に参加する。開創、皮膚縫合は積極的に行い、除臓術など比較的容易な手術は能力に応じて執刀も行う。
- ・ 切除標本の観察、整理を行ない、記録することによって、各種癌取り扱い規約を学ぶ。
- ・ 執刀医による家族への手術結果の説明に参加する。

4) 放射線部門（放射線透視検査室）

- ・ 患者の診察を担当医とともに行う。
- ・ 尿管ステントカテーテル挿入・交換、腎瘻挿入・交換、逆行性腎盂造影、膀胱尿道造影などを主に助手として行なう。

5) カンファレンス

- ・ 症例検討会では担当患者の症例提示を行ない議論する。
- ・ そのほかの合同カンファレンスでは他診療科やコメディカルと患者の治療方針について議論を行う。

7. 週間スケジュール（例）

	月	火	水	木	金	土
8:10	症例検討会	症例検討会	症例検討会	症例検討会	症例検討会	回診/ 病棟業務
9:00	病棟業務/ 手術参加	病棟業務/ 手術参加	病棟業務/ 手術参加	病棟業務/ 手術参加	病棟業務/	
13:00	病棟業務/ 手術参加	病棟業務/ 手術参加	病棟業務/ 手術参加	病棟業務/ 手術参加	病棟業務/	
						病棟カンファレンス
					ステント 外来	
17:00		画像カンファレンス				
		病理カンファレンス (月 1 回)		放射線治療カンファレンス (月 1 回)		

各合同カンファレンスは、画像：画像診断科、病理：病理診断科、放射線治療：放射線腫瘍科、病棟：看護師・薬剤師とともに行っている。

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター
 包括的がんセンター 泌尿器腫瘍科
 城武 卓（診療部長、教授）

乳腺腫瘍科

○ 乳腺腫瘍科の概要

1. 乳腺腫瘍科の特色

近年増加している「がん」のなかで、乳がんは代表的な疾患である。女性の部位別がん罹患率では第1位で、最近のデータでは日本人女性は生涯のうちで9人に1人が乳がんにかかるといわれている。そんな疾患を診療する乳腺腫瘍科は大きな重責を担っている科であり、これからの伸びが期待できる“promising な科”であるといえる。

2. 診療・教育スタッフ

大崎 昭彦（教 授、診療部長）
石黒 洋（教 授、診療副部長）
長谷部孝裕（教 授）
松浦 一生（教 授、研修医長）
大原 正裕（准教授）
横川 秀樹（講 師）
島田 浩子（講 師）
浅野 彩（講 師）

ほか、助教6名

3. 研修責任者と臨床研修指導医

研修責任者：大崎 昭彦（診療部長）

臨床研修指導医：大崎 昭彦、長谷部孝裕、松浦 一生、大原 正裕、横川 秀樹、貫井 麻未、
一瀬 友希、近藤 奈美

4. 臨床研修プログラムの特色

乳腺腫瘍科は外科系診療科に属するが、診療内容から外科的手技を身につける以外に、診断面では画像診断の読影技術や、病理学的知識の習得が必要であり、治療面では内分泌療法、化学療法および緩和医療に至るまで幅広い知識を身につけることができる科である。また、女性患者がほとんどであり“見た目”を要求されることから形成外科的要素も含んでおり、外科の中では最も繊細な診療科ともいえる。

病棟はスタッフ医師が指導医として直接に指導にあたる。スタッフ医師と共に担当医（主治医）となるが、担当医以外の患者についてもチームの一員としてケアを行い、実際の臨床経験を積む。

下記の経験できる疾患、手技について受け持ち患者のレポートを提出する。手術症例について、その診断、治療法、手術法などについてレポートを提出する。

外科必修あるいは2年次の自由選択期間に当科を選択できる。

* 研修中に経験できる疾患、手技

経験できる疾患は乳がん、乳腺症、線維腺腫、葉状腫瘍、乳腺炎、女性化乳房、乳管内乳頭腫などで、研修中に身につけるべき内容は、基本的な外科手技の習得、乳がんの画像診断技術の習得、薬物療法（化学療法、内分泌療法、分子標的薬剤、免疫チェックポイント阻害剤による治療）の知識の習得、遺伝性腫瘍の基本的な知識の習得及び遺伝カウンセリングの実践、インフォームドコンセントや緩和医療を含めたがん患者に対する診療の全般的知識を身につけるということである。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 乳腺疾患患者の身体所見がとれる。	()	()
2. マンモグラフィの読影ができる。	()	()
3. 乳腺超音波検査の読影ができる。	()	()
4. 医療スタッフとの信頼関係を築きチーム医療を実践できる。	()	()

5. 上級医師の指導のもと患者への必要な指示・処置ができる。	()	()
6. 症例呈示ができ、チーム医療のメンバーと討論できる。	()	()
7. 診療計画を作成できる。	()	()
8. 診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し、活用できる。	()	()
9. インフォームドコンセントの基本を理解できる。	()	()
10. 手術記録が適切に記載できる。	()	()
11. 手術標本を正しく取り扱うことができる。	()	()
12. 術前に必要な検査を選択でき、オーダーできる。	()	()
13. 手術に伴う危険因子を理解できる。	()	()
14. 適切な輸液管理ができる。	()	()
15. 術後合併症に対する適切な処置と治療法を理解できる。	()	()
16. 創傷処置が適切にできる。	()	()
17. 術後の疼痛管理ができる。	()	()
18. 滅菌・無菌・消毒の概念を正しく理解できる。	()	()
19. 手術に伴う清潔操作が正しくできる。	()	()
20. 局所麻酔法ができ、皮膚の縫合法を理解し、実践できる。	()	()
21. 創傷治癒過程を正しく理解し、創傷の管理ができる。	()	()

目標と評価表（8週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 乳腺疾患患者の身体所見がとれる。	()	()
2. マンモグラフィの読影ができる。	()	()
3. 乳腺超音波検査の読影ができる。	()	()
4. 乳腺針生検検査を実施できる。	()	()
5. 圧迫止血法を実地できる。	()	()
6. 創部消毒とガーゼ交換を実地できる。	()	()
7. ドレーン・チューブ類の管理ができる。	()	()
8. 局所麻酔法を実地できる。	()	()
9. 皮膚縫合法を実施できる。	()	()
10. 簡単な切開・排膿を実地できる。	()	()
11. 医療スタッフとの信頼関係を築きチーム医療を実践できる。	()	()
12. 上級医師の指導のもと患者への必要な指示・処置ができる。	()	()
13. 症例呈示ができ、チーム医療のメンバーと討論できる。	()	()
14. 診療計画を作成できる。	()	()
15. 診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し、活用できる。	()	()
16. インフォームドコンセントの基本を理解できる。	()	()
17. 手術記録が適切に記載できる。	()	()
18. 手術標本を正しく取り扱うことができる。	()	()
19. 術前に必要な検査を選択でき、オーダーできる。	()	()
20. 手術に伴う危険因子を理解できる。	()	()
21. 適切な輸液管理ができる。	()	()
22. 術後合併症に対する適切な処置と治療法を理解できる。	()	()
23. 創傷処置が適切にできる。	()	()
24. 術後の疼痛管理ができる。	()	()
25. 滅菌・無菌・消毒の概念を正しく理解できる。	()	()
26. 手術に伴う清潔操作が正しくできる。	()	()
27. 局所麻酔法ができ、皮膚の縫合法を理解し、実践できる。	()	()
28. 創傷治癒過程を正しく理解し、創傷の管理ができる。	()	()

6. 研修方略 (LS)

- ・病棟主治医として入院患者の病歴を把握する。
- ・診断と治療の方針をまとめ入院診療計画書を作成する。
- ・各種のカンファレンスで診断と治療の方針を説明する。
- ・院内の研修医対象ミニレクチャーに参加する。
- ・医局で開催される症例検討会で症例提示する。
- ・日本乳癌学会の診療ガイドラインの該当箇所を参照する。
- ・診断結果から治療方針を説明する。
- ・術後リハビリテーションの意義に従い実施を指示する。
- ・診断のために行う吸引組織生検・針生検の助手を経験する。
- ・日本乳癌学会地方会で症例報告を行う。
- ・受け持ち手術症例につき、その診断、治療法、手術法などについてレポートを提出する。

7. 週間スケジュール (例)

	月	火	水	木	金	土
8:30～	8:00～ カンファレンス・ 病棟回診	病棟回診	8:00～ カンファレンス・ 病棟回診	病棟回診	8:00～ カンファレンス・ 病棟回診	病棟回診
AM	病棟/手術	外来/病棟	手術	外来/病棟	手術	
PM	病棟/手術 術前カンファレンス	病棟 /VAB 生検	手術	VAB 生検	VAB 生検 /手術	
17:00	病棟回診	病棟回診	治療方針 カンファレンス/病 理カンファレンス	病棟回診	病棟回診	

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター
 包括的がんセンター 乳腺腫瘍科
 松浦 一生 (教 授、研修医長)

消化器外科

○ 消化器外科の概要

1. 消化器外科の特色

将来の専門性にかかわらず、日常診療で頻繁に遭遇する疾患や病態に適切な対応ができるように、外科医療チームの一員として診療に携わりながら、外科疾患への対応、周術期管理を研修する。外科的治療の適応、有効性と限界、それぞれの手術術式を理解しながら、プライマリ・ケアの実践に必要な外科的基本手技を身につける。将来外科系を志望する医師に対してはこれら導入的な基礎知識や基本的手技の他、手術の一部または全部を術者として研修する。

消化器病センターは縦割りの構造にこだわらず、患者さんを中心において最も適した治療方針を立て、治療を進めることを第一にしている。内科、外科はもとより、病理診断科、放射線科、支持医療科などが同じ目標に向かって診療を行うことを掲げている。なかでも外科的治療を担当する消化器外科は上部消化管、下部消化管、肝胆膵の各臓器専門チームに分かれているが、若い研修医はすべての臓器の外科的疾患の診療を経験する。

埼玉医科大学国際医療センター消化器病センター消化器外科の年間手術総数は1,000例を超え、当院の基本理念である「患者中心主義のもと安心して安全な満足度の高い医療」のために必要な、より確かな診断、治療を行っている。結紮、縫合の基本手技から術前、術後管理の基礎と実際を学び、実力によっては執刀まで行う。本プログラムでは、埼玉医科大学国際医療センター内の他の外科系診療科と緊密な連携をとりながらプライマリ・ケアの実践に必要な外科的基本手技を身につけることができる。

2. 診療・教育スタッフ

岡本 光順（教授、診療部長）：肝胆膵外科
櫻本 信一（教授、診療部長）：上部消化管外科
平能 康充（教授、診療部長）：下部消化管外科
佐藤 弘（教授、診療副部長）：上部消化管外科
合川 公康（教授、診療副部長）：肝胆膵外科
平沼知加志（准教授、診療副部長）：下部消化管外科
梶田 浩文（准教授）：下部消化管外科
宮脇 豊（准教授）：上部消化管外科
岡田 克也（講師）：肝胆膵外科
渡邊 幸博（講師）：肝胆膵外科
渡辺雄一郎（講師）：肝胆膵外科
石山 泰寛（講師）：下部消化管外科
小山 勇（特任教授）：肝胆膵外科

ほか、助教15名

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者：岡本 光順、櫻本 信一、平能 康充

臨床研修指導医：岡本 光順、櫻本 信一、平能 康充、佐藤 弘、合川 公康、平沼知加志、
梶田 浩文、宮脇 豊、岡田 克也、渡辺雄一郎、石山 泰寛、高瀬健一郎、
江原 玄、藤井 能嗣、鳥海 哲郎、影山 優美子

上級医：小山 勇、渡邊 幸博

4. 臨床研修プログラムの特色

2年目の選択では、外科の基本となる創傷治癒、縫合・結紮などの手術手技をより時間をかけて習得し、皮膚のみならず、腹壁の縫合、消化管の縫合の技術を習得する。

外科の手技では、糸の結紮、皮膚の縫合の基礎技術を実際に臨床で行いながら習得する。この手技の研修は当診療科で開発した研修医独自のテキストおよび実習用モデルが用意されている。

消化器癌手術の助手として参加することだけでなく、小手術（鼠経ヘルニア手術、CVポート造設術など）および消化管手術の中でも侵襲の少ない人工肛門造設術、消化管バイパス術などを術者として経験することもできる。

また腹腔鏡手術の研修としてブタを使用した手術トレーニングやダビンチやセンハンスのシミュレーターを用いた手術トレーニングも行うことができる。

短期間の臨床研修で、消化管および肝胆膵の外科疾患、消化器癌、急性腹症の救急疾患などを経験できる。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 上級医師の指導の下で、患者への必要な指示および処置ができる。	()	()
2. 指導医や専門医に適切にコンサルテーションできる。	()	()
3. 症例提示ができて、チーム医療のメンバーと討論ができる。	()	()
4. 診療計画を作成することができる。	()	()
5. 診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し、活用できる。	()	()
6. 手術記録が適切に記載できる。	()	()
7. 術前に必要な検査を選択でき、オーダーできる。	()	()
8. 手術に伴う危険因子を理解できる。	()	()
9. 腹部の身体所見をとることができる。	()	()
10. 適切な輸液管理ができる。	()	()
11. 術後の合併症に対する適切な治療法を理解し、実践できる。	()	()
12. 外科的な栄養管理の知識をもち、実践できる。	()	()
13. ガウンテクニック、手洗い、術野の消毒などの清潔操作が正しくできる。	()	()
14. 患者の苦痛を軽減する緩和ケアができる。	()	()
15. 診察前後に WHO の推奨する 5 つの場面での手指消毒が行える。	()	()
16. 癌患者の緩和医療における疼痛管理、腸閉塞管理について理解できる。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 上級医師の指導の下で、患者への必要な指示および処置ができる。	()	()
2. 指導医や専門医に適切にコンサルテーションできる。	()	()
3. 症例提示ができて、チーム医療のメンバーと討論ができる。	()	()
4. 診療計画を作成することができる。	()	()
5. 診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し、活用できる。	()	()
6. 手術記録が適切に記載できる。	()	()
7. 術前に必要な検査を選択でき、オーダーできる。	()	()
8. 手術に伴う危険因子を理解できる。	()	()
9. 腹部の身体所見をとることができる。	()	()
10. 適切な輸液管理ができる。	()	()
11. 術後の合併症に対する適切な治療法を理解し、実践できる。	()	()
12. 外科的な栄養管理の知識をもち、実践できる。	()	()
13. ガウンテクニック、手洗い、術野の消毒などの清潔操作が正しくできる。	()	()
14. 患者の苦痛を軽減する緩和ケアができる。	()	()
15. 診察前後に WHO の推奨する 5 つの場面での手指消毒が行える。	()	()
16. 癌患者の緩和医療における疼痛管理、腸閉塞管理について理解できる。	()	()
17. 中心静脈穿刺が指導医のもとで実践できる。	()	()
18. 局所麻酔法ができ、皮下の小さな腫瘤を摘出できる。	()	()
19. 皮膚・腹壁・消化管の縫合法を理解し、実践できる。	()	()
20. 腹腔穿刺、胸腔穿刺が指導医の下で実施できる。	()	()
21. 創傷治癒過程を正しく理解し、創傷の管理ができる。	()	()

6. 研修方略 (LS)

- ・病棟は各臓器別チーム内で、シニアレジデント、ベッドサイド学生とともに実際の臨床経験を積む。
- ・各研修医にはスタッフ医師が指導医として直接に指導に当たる。
- ・研修医は受け持ち医となるが、あくまでスタッフ医師が主治医となる。
- ・火曜日、木曜日、金曜日の朝 7 時 30 分から、外科（上部消化管、下部消化管、肝胆膵）と消化器内科（消化器内視鏡科、消化器腫瘍科）の合同専門カンファレンスあり。
- ・研修医は指導医に対し、いつでも治療方針について相談でき、すべての受け持ち患者の手術に手洗い助手として参画する。
- ・外科的基本手技の習得を目的としてスキルラボでの実習や、腹腔鏡手術の研修としてブタを使用した手術トレーニングに参加が可能。

7. 週間スケジュール (例)

	月	火	水	木	金	土
7 : 30		カンファレンス (上部) (化学療法)	カンファレンス (下部) (化学療法)		カンファレンス (肝胆膵) (化学療法)	
8 : 00	回診	回診	回診	回診	回診	回診
8 : 30	手術	手術	手術	手術	手術	手術
13 : 00	手術	手術	手術	手術	手術	回診
18 : 00	回診	回診	回診	回診	回診	

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学国際医療センター

包括的がんセンター 消化器外科

岡本 光順（診療部長：肝胆膵外科、教授）

櫻本 信一（診療部長：上部消化管外科、教授）

平能 康充（診療部長：下部消化管外科、教授）

呼吸器外科

○ 呼吸器外科の概要

1. 呼吸器外科の特色

呼吸器外科は、原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、胸膜腫瘍などの疾患に対する外科治療を行う分野である。腫瘍の外科治療の他にも気胸、胸水貯留、膿胸、胸部外傷など幅広い疾患にも対応する。当科では胸腔鏡やロボット支援下での手術を積極的に行っており、低侵襲で患者の負担を軽減する治療の経験が可能である。高度な技術と迅速な判断力が必要だが、患者の命を救うやりがいのある分野である。

肺癌などの悪性腫瘍については呼吸器内科、画像診断科、放射線腫瘍科、病理診断科との合同カンファレンス（カンサーボード）で治療方針を決定しており、エビデンスに基づく最新の治療が行われている。また気管支鏡を用いた診断や気道インターベンション治療（気道ステント治療など）、びまん性肺疾患や胸膜疾患に対する胸腔鏡下生検、体表リンパ節の切除生検なども行っている。

2. 診療・教育スタッフ

菱田 智之（教授）：胸部悪性腫瘍（肺癌など）、胸腔鏡手術、ロボット支援下手術
二反田博之（准教授）：胸部悪性腫瘍（肺癌など）、胸腔鏡手術、気道インターベンション
市来 嘉伸（講師）：胸部悪性腫瘍（肺癌など）、胸腔鏡手術、縦隔腫瘍手術
梅咲 徹也（助教）：胸部悪性腫瘍（肺癌など）、胸腔鏡手術、ロボット支援下手術
田口 亮（助教）：胸部悪性腫瘍（肺癌など）、胸腔鏡手術、ロボット支援下手術

3. 研修責任者と臨床研修指導医

研修責任者：菱田 智之（診療部長）

臨床研修指導医：菱田 智之、二反田博之、市来 嘉伸、梅咲 徹也、田口 亮

4. 臨床研修プログラムの特色

研修中に以下の習得を目標としている。身体診察、胸部の画像診断、呼吸機能の評価・解釈、周術期の全身管理、基本的な外科手技（切開、縫合、抜糸、胸腔ドレーン挿入）、呼吸リハビリテーション。

肺や縦隔の悪性腫瘍の手術のみならず、気胸や胸水貯留、膿胸などの良性疾患も扱っているため、呼吸器診療に必要な広範な知識や技術の習得が可能である。また、進行肺癌に対する拡大手術（他臓器合併切除）や他科（心臓外科や整形外科など）との合同手術も経験することができる。術前画像と術中所見、術後病理所見との比較を繰り返すことで自らの経験に基づいた正確な画像診断能力を身につけることができる。現在、肺癌に対しては手術に薬物療法や放射線治療を組み合わせた集学的治療が盛んになっており、これらの治療に関する基本的な知識を学ぶこともできる。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 肺癌、縦隔腫瘍、気胸などの患者の身体所見がとれる。	()	()
2. 胸部 X 線写真・CT 画像の読影ができる。	()	()
3. 気管支鏡検査の前処置（咽頭麻酔）ができる。	()	()
4. 上級医師の指導のもとに気管支鏡検査ができる。	()	()
5. ドレーンバックの構造を理解し胸腔ドレーンの管理ができる。	()	()
6. 胸腔穿刺・胸腔ドレーン挿入の手法が理解できる。	()	()
7. 皮膚切開、縫合、抜糸ができ、開胸・閉胸の手法を理解する。	()	()
8. 呼吸器外科手術の術前・術後管理ができる。	()	()
9. 手術説明（インフォームド・コンセント）を理解する。	()	()
10. 助手として 12 件以上の手術に参加する。	()	()
11. カンファレンスで手術症例のプレゼンテーションができる。	()	()
12. 学会または研究会で症例報告を経験する。	()	()
13. 炎症性肺疾患の起原菌の同定法や抗菌薬の使い方を学ぶ。	()	()

14. 呼吸リハビリや退院後の日常生活の指導を学ぶ。

() ()

目標と評価表（8週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 肺癌、縦隔腫瘍、気胸などの患者の身体所見がとれる。	()	()
2. 胸部X線写真・CT画像の読影ができる。	()	()
3. 気管支鏡検査の前処置（咽頭麻酔）ができる。	()	()
4. 上級医師の指導のもとに気管支鏡検査ができる。	()	()
5. ドレーンバックの構造を理解し胸腔ドレーンの管理ができる	()	()
6. 胸腔穿刺・胸腔ドレーン挿入が指導医師のもとで実施できる。	()	()
7. 皮膚切開・縫合・創管理・抜糸ができる。	()	()
8. 呼吸器外科手術の術前・術後管理ができる。	()	()
9. 手術説明（インフォームド・コンセント）を理解する。	()	()
10. 開胸・閉胸を経験する。	()	()
11. 助手として24件以上、術者として3件以上の手術に参加する。	()	()
12. 術後の疼痛管理の方法や鎮痛薬の使用方法を学ぶ。	()	()
13. カンファレンスで手術症例のプレゼンテーションができる。	()	()
14. 学会または研究会で症例報告を経験する。	()	()
15. 炎症性肺疾患の起病菌の同定法や抗菌薬の使い方を学ぶ。	()	()
16. 呼吸リハビリや退院後の日常生活の指導を学ぶ。	()	()

6. 研修方略（LS）

- ・指導医とともに数名の患者を担当する。
- ・担当患者の術前評価と治療方針についてカンファレンスで発表する。
- ・手術に参加して外科的治療の基礎を学ぶ。
- ・指導医とともに周術期管理を行う。
- ・気管支鏡を扱えるようになる。

7. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	カンファレンス	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	呼吸器合同 カンファレンス
	病棟回診	カンファレンス	病棟研修	カンファレンス	病棟研修	
	病棟研修	手術		手術		
午後	気管支鏡	手術	病棟研修	手術	病棟研修	
	病棟研修		自己学習		自己学習	
	(病棟回診)	(病棟回診)	(病棟回診)	(病棟回診)	(病棟回診)	

- 研修内容に関する希望事項があれば相談に応じる。

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター
 包括的がんセンター 呼吸器外科
 二反田博之（教育主任） 梅咲 徹也（教育副主任）

心臓血管外科

○ 心臓血管外科の概要

1. 心臓血管外科の特色

心臓血管外科は外科研修ではサブスペシャリティーの中にはいるが、高度な専門的な知識および技術が求められる分野の一つである。当科は埼玉県全域の循環器疾患診療の中核病院として紹介患者が多く、全国でも最も心臓外科手術数の多い病院の一つとして知られている。当科の特徴の一つは、一般病棟業務以外に心臓外科手術適応決定に必要な心電図や胸部X線写真をはじめ、心臓カテーテル検査、標準心エコー図、経食道心エコー図、心臓核医学などの特殊検査に参加し、データの読み方や診断基準について学ぶことができることである。また、手術実技では、胸骨正中切開ならびに閉胸法、冠動脈バイパス手術に使用する大伏在静脈グラフトの採取法、簡単な末梢血管手術を術者として経験する。また術後のICU管理ではCVPカテーテル、Swan-Ganzカテーテル、動脈針を自ら挿入し、各種血行動態を確実に評価できるようになるとともに、術後の全身管理法やIABPやPCPS、補助人工心臓などの補助循環法を習得する。

2. 診療・教育スタッフ

吉武 明弘（教授）：心臓血管外科全般、大動脈、大動脈ステントグラフト治療
朝倉 利久（教授）：心臓血管外科全般、大動脈、末梢血管外科、大動脈ステントグラフト治療
木下 修（准教授）：心臓血管外科全般、重症心不全、心臓移植
堯天 孝之（講師）：心臓血管外科全般、弁膜症、重症心不全
湯手 裕子（講師）：心臓血管外科全般、大動脈、末梢血管外科、大動脈ステントグラフト治療
ほか、助教5名

3. 研修責任者と臨床研修指導医

研修責任者：吉武 明弘（診療部長）

臨床研修指導医：朝倉 利久、吉武 明弘、木下 修、金澤 祐太

4. 臨床研修プログラムの特色

臨床研修制度に掲げられた研修目標のほかに、臨床医として身につけておくべき基本的事項を研修するためのプログラムである。将来、外科専門医、心臓血管外科専門医を目指す研修医にとってはその基礎となる研修プログラムであるが、将来どの診療科を専攻するにしても役に立つ内容から成り立っている。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 心臓外科患者の問診、理学的所見がとれる。	()	()
2. 心臓外科患者に必要な検査および治療計画設定ができる。	()	()
3. 心電図および胸部X線の読影ができる。	()	()
4. 心臓カテーテル検査データを理解し、鑑別診断ができる。	()	()
5. 標準心エコー図検査データを理解し、鑑別診断ができる。	()	()
6. 心臓核医学検査データを理解し、鑑別診断ができる。	()	()
7. 心臓血管外科手術体位の取り方・消毒法ができる。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 心臓外科患者の問診、理学的所見がとれる。	()	()
2. 心臓外科患者に必要な検査および治療計画設定ができる。	()	()
3. 心電図および胸部X線の読影ができる。	()	()
4. 心臓カテーテル検査データを理解し、鑑別診断ができる。	()	()
5. 標準心エコー図検査データを理解し、鑑別診断ができる。	()	()

6. 心臓核医学検査データを理解し、鑑別診断ができる。	()	()
7. 心臓血管外科手術体位の取り方・消毒法ができる。	()	()
8. 開胸・閉胸操作の第一助手ができる。	()	()
9. 大伏在静脈グラフト採取ができる。	()	()
10. 手術創の縫合閉鎖ができる。	()	()
11. 上級医師の指導で気管内挿管・抜管ができる。	()	()
12. 上級医師の指導で CVP カテーテルが挿入できる。	()	()
13. 上級医師の指導で Swan-Ganz カテーテルが挿入できる。	()	()
14. 上級医師の指導で IABP や PCPS・補助人工心臓の管理ができる。	()	()
15. 上級医師の指導で心肺蘇生法ができる。	()	()

6. 研修方略 (LS)

- ・病棟は教授以下のスタッフ、助教、研修医、ベッドサイド学生の全てが一つのチームとして臨床にあたる。
- ・各研修医にはスタッフ医師が指導医として直接に指導にあたる。
- ・平日は朝 7 時 30 分からカンファレンスがあり、入院患者、術前や術後の症例検討を行っている。
- ・火曜日は心臓内科との合同カンファレンスを行い、それぞれの症例に対して、各方面の専門医と討論を行っている。
- ・経カテーテル大動脈弁置換術症例に対するハートチームカンファレンスも適宜行い研修医も参加している。
- ・研修医は指導医に対し、治療方針について指導医などの上級医師とも自由に討論できる体制を取っている。
- ・研修医には担当患者の症例提示が適切にできるように指導している。
- ・研修医には積極的に手術に参加できるように配慮している。
- ・心臓外科手術の基本である開胸・閉胸操作の助手ができるように指導している。
- ・救急処置の必要なカテーテル類の挿入手技や循環管理も指導している。

7. 週間スケジュール (例)

	月	火	水	木	金	土
7 : 30	翌週の手術症例検討会	内科・外科合同カンファレンス	翌週の手術症例検討会	翌週の手術症例検討会	翌週の手術症例検討会	
8 : 00	回診	回診	回診	回診	回診	
8 : 30	手術	手術	手術	手術	手術	回診
18 : 00	回診	回診	回診	回診	回診	回診
19 : 00	リサーチミーティング		抄読会			

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター
 心臓病センター 心臓血管外科
 吉武 明弘 (診療部長、教授)

小児心臓外科

○ 小児心臓外科の概要

1. 小児心臓外科の特色

当科は先天性心疾患の外科治療を専門としている診療科の一つであり、複雑先天性心疾患に対する外科治療を主に行なっている。埼玉県内2施設うちの1施設である。小児専用体外式補助人工心臓植え込み手術を多数行っており、現在心臓移植施設認定のため申請中である。また、近年増加傾向にある成人先天性心疾患に対する外科治療も経験できる。このように複雑心疾患から成人先天性心疾患、重症心不全まで全ての心疾患治療が可能な施設である。

手術手技では小児症例の胸骨正中切開法ならびに閉胸法を術者として経験する事が可能である。術後管理には小児集中治療室（小児ICU）での治療が必須であり、手術症例に対する末梢静脈・動脈確保、中心静脈カテーテル留置、胸腔穿刺・ドレーン挿入などの種々の処置を術者として経験することができる。乳幼児の体格に対するこうした手技習得には、エコーガイドなどの緻密な技術が必要であり、上級医の指導の下に修練が可能である。

また、心機能評価に加え、チアノーゼ性心疾患をはじめとした先天性心疾患に特有の血行動態・解剖生理を理解・評価することを目標とする。術後管理における全身管理には、こうした血行動態や解剖生理の理解が重要であり、またIVH管理・経腸栄養を含む小児の栄養管理を学ぶことができる。ECMOなどの補助循環治療法を理解・習得することができる。

2. 診療・教育スタッフ

鈴木 孝明（副院長、教授）：先天性心疾患の治療

帆足 孝也（診療部長、教授）：先天性心疾患の治療、心移植

3. 研修責任者と臨床研修指導医

研修責任者：帆足 孝也（診療部長）

臨床研修指導医：鈴木 孝明、帆足 孝也、平野 暁教、細田 隆介

4. 臨床研修プログラムの特色

先天性心疾患を合併した症例のプライマリ・ケアには、先天性心疾患に対する基礎的な知識が要求されることが多い。このため、医師臨床研修制度の研修目標の他に、プライマリ・ケアを行う臨床医として習得すべき先天性心疾患に対する基礎的な知識を取得するためのプログラムである。

また、外科専門医・心臓血管外科専門医・小児科医・小児循環器専門医を目指す研修医にとってはその基礎となる研修プログラムとなっている。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 先天性心疾患患者の問診、理学所見がとれる。	()	()
2. 先天性心疾患患者に必要な検査及び治療計画を立てることが出来る。	()	()
3. 小児患児を含む先天性心疾患患者の心電図及び胸部X線写真の読影が出来る。	()	()
4. 心臓カテーテル検査及びそのデータを理解し、診断が出来る。	()	()
5. 心臓エコー図検査での正常解剖を理解し、先天性心疾患患者の心エコー図が理解できる。	()	()
6. 小児患児を含む心臓手術の消毒法が出来る。	()	()
7. 上級医師の指導下に小児患児の末梢 Line、動脈針の挿入が出来る。	()	()
8. 院内感染対策を理解し、実施できる。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 先天性心疾患患者の問診、理学所見がとれる。	()	()
2. 先天性心疾患患者に必要な検査及び治療計画を立てることが出来る。	()	()
3. 小児患児を含む先天性心疾患患者の心電図及び胸部X線写真の読影が出来る。	()	()

4. 心臓カテーテル検査及びそのデータを理解し、診断が出来る。	()	()
5. 心臓エコー図検査での正常解剖を理解し、 先天性心疾患患者の心エコー図が理解できる。	()	()
6. 小児患児を含む心臓手術の消毒法が出来る。	()	()
7. 開胸、閉胸操作の第一助手が出来る。	()	()
8. 基本的な皮膚縫合操作ができる。	()	()
9. 上級医師の指導下に小児患児の末梢 Line、動脈針の挿入が出来る。	()	()
10. 上級医師の指導下に CV カテーテルの挿入を経験する。	()	()
11. 上級医師とともに先天性心疾患患者の外科手術に 助手として参加することが出来る。	()	()
12. 上級医師の指導下に先天性心疾患患者の心臓術後管理を経験する。	()	()
13. 上級医師の指導下に小児例を含む 先天性心疾患患者の気管内挿管・抜管をすることが出来る。	()	()
14. 上級医師の指導で心肺蘇生法ができる。	()	()
15. 院内感染対策を理解し、実施できる。	()	()
16. CPC(臨床病理検討会)レポートを作成し、症例提示できる。	()	()

6. 研修方略 (LS)

ICU と病棟は教授以下のスタッフ、助教、研修医、ベッドサイド学生の全員が一つのチームとして臨床にあたる。さらに各研修医にはスタッフ医師が指導医として直接に指導にあたる。平日は朝 7 時 30 分から小児心臓科と合同で ICU および病棟の回診を行っている。火曜日の午後は小児心臓科・小児麻酔科部門・ME サービス部との合同カンファレンスを行い、手術適応に関する症例検討、次週の体外循環設定を含めた詳細な術式の検討を行っている。このようなカンファレンスだけではなく、研修医は指導医に対し治療方針について自由に討論できる体制を取っている。特に研修医にはカンファレンスにおいて患者の症例提示が適切にできるように指導している。研修医には術後管理だけではなく、積極的に手術に参加できるように配慮している。その他、救急処置の必要なカテーテル類の挿入手技や術後の全身管理も指導している。

7. 週間スケジュール (例)

	月	火	水	木	金	土
7:30~	ICU 回診	ICU 回診	ICU 回診	ICU 回診	ICU 回診	ICU 回診
8:00~	ICU 管理	手術	手術	ICU 管理	手術	ICU 管理
午後手術 終了後、随 時		術前・術後 合同カンファレンス (小児心臓科・麻酔科・ ME)	成人先天性心 疾患カンファレンス (小児心臓科・ 心臓内科・心臓 血管外科)			
16:30~	ICU 回診	ICU 回診	ICU 回診	ICU 回診	ICU 回診	

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター
 心臓病センター 小児心臓外科
 帆足 孝也 (診療部長、教授)

脳脊髄腫瘍科/小児脳脊髄腫瘍科

○ 脳脊髄腫瘍科の概要

1. 脳脊髄腫瘍科の特色

我が国最初の脳脊髄腫瘍に特化した診療科で、特に悪性脳腫瘍を中心として全国有数の症例数を誇っている。

2. 診療・教育スタッフ

三島 一彦（教授）：脳腫瘍の集学的治療、頭蓋底腫瘍、悪性リンパ腫
鈴木 智成（准教授）：小児脳腫瘍の集学的治療、内視鏡手術
白畑 充章（准教授）：脳腫瘍の集学的治療、神経膠腫ほか
高柳 俊作（准教授）：脳腫瘍の集学的治療、遺伝性腫瘍
江原 拓郎（助教）：脳腫瘍の集学的治療、下垂体腫瘍、
福岡 真惟（助教）：脳腫瘍の集学的治療、小児脳腫瘍

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者：三島 一彦（脳脊髄腫瘍科）、鈴木 智成（小児脳脊髄腫瘍科）
臨床研修指導医：三島 一彦、鈴木 智成、白畑 充章
上級医：江原 拓郎、福岡 真惟

4. 臨床研修プログラムの特色

臨床研修で脳脊髄腫瘍科を選択するのには二つの立場があると考えているため、2通りのプログラムを用意している。

- 1) 脳神経外科あるいは特に脳脊髄腫瘍科へ進むことを念頭に置いている場合、当科の他に、脳卒中外科、脳血管内治療科、および埼玉医科大学病院脳神経外科のうちの複数の診療科において研修することを強く推奨する。これによって脳卒中治療から機能的脳疾患までほぼすべての脳神経外科疾患を網羅することができる。基本的には手術を中心に学んでもらう。
- 2) 「がん」を専門にするために必要な研修として、脳腫瘍の研修を考えている場合、脳腫瘍は一般に馴染みがないが、当科ではふんだんに症例を経験することができる。また、小児脳腫瘍の症例も豊富である。他のがん関連診療科をローテートする一環として脳脊髄腫瘍科で研修を行う。手術のみならず放射線治療と化学療法といった集学的治療について学んでもらう。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 神経学的診察ができ、カルテへの記載ができる。	()	()
2. 頭部 CT、MRI にて緊急性を判断できる。	()	()
3. 病歴と画像所見より鑑別診断を述べるができる。	()	()
4. 手洗いをし開頭手術の助手として参加し、手術を間近にみる。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 神経学的診察ができ、カルテへの記載ができる。	()	()
2. 頭部 CT、MRI にて緊急性を判断できる。	()	()
3. 病歴と画像所見より鑑別診断を述べることができる。	()	()
4. 手洗いをし開頭手術の助手として参加し、手術を間近にみる。	()	()
5. グリオーマ、髄膜腫、中枢神経系原発悪性リンパ腫、転移性脳腫瘍など代表的な脳腫瘍について標準治療を説明できる。	()	()
6. 腰椎穿刺ができる。	()	()
7. 指導医の下で穿頭術や開閉頭ができる。	()	()
8. 脳血管造影所見の基本的読影ができる。	()	()
9. 脳腫瘍手術の周術期管理ができる。	()	()

6. 研修方略 (LS)

- ・ 上級医の指導のもと入院患者の診療を担当し、主体的に診療する。
- ・ 担当患者のカルテ記載、サマリー作成を行う。
- ・ 画像の読影、神経学的診察を行い、治療方針を指導医とともに検討する。
- ・ カンファレンスで担当患者のプレゼンテーションを行い治療方針や治療経過を発表する。
- ・ 上級医の行う術前インフォームドコンセントに同席する。
- ・ 担当患者の手術に助手、あるいは上級医の指導のもと術者として主体的に参加する。
- ・ 症例の検討を行いビデオカンファレンスや脳神経外科グラウンドラウンドで発表する。

7. 週間スケジュール (例)

月	火	水	木	金	土
手術	脳腫瘍カンファ、ビデオカンファ	病棟	脳腫瘍カンファ・回診	病棟	病棟
	抄読会あるいはリサーチカンファ		手術		
	グラウンドラウンド（月 1 回）				
	病理診断科との合同脳腫瘍病理カンファ（月 1 回）				

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター
 包括がんセンター 脳脊髄腫瘍科
 白畑 充章 (研修医長、准教授)

脳神経外科・脳卒中外科

○ 脳神経外科・脳卒中外科の概要

1. 脳神経外科・脳卒中外科の特色

当科は、脳卒中センター内の独立した診療科として、脳卒中内科や脳血管内治療科と密接な関係を保ちながら、脳卒中の外科治療を担っている。当科は脳卒中（脳血管障害）の開頭術に専門特化した診療科であり、スタッフ全員が脳卒中の外科手術に対する豊富な経験を有し、昼夜搬送される脳卒中の患者さんの緊急手術に24時間体制で対応している。

また、将来的な脳卒中を予防するための手術も、十分な安全性を確保した上で積極的に施行している。特に小型の未破裂脳動脈瘤に対しては、低侵襲の小切開による鍵穴手術(key hole surgery)を標準術式にしており、他院で治療困難と判断された巨大脳動脈瘤などの高難易度動脈瘤や脳動静脈奇形、血管腫の患者さんも積極的に受け入れている。外科治療が必要な脳血管障害の患者さんは原則として受け入れを「断らない」ことに誇りを持って、スタッフは皆、手術技術の維持・向上のために日夜努力している。

2. 診療・教育スタッフ

栗田 浩樹（教授、診療部長）：脳動静脈奇形の外科治療、高難易度脳血管障害直達術
寺西 亮雄（講師、診療副部長、研修医長、医局長）：頸部頸動脈病変の外科治療、脳動脈瘤
栢原 智道（講師、研究副主任）：脳血管障害の外科治療、脳動脈瘤に関する基礎研究
武 裕士郎（講師、病棟医長）：脳血管障害の外科治療、脳動脈瘤に関する基礎研究
大塚 宗廣（講師、外来医長）：脊椎・脊髄の外科治療
ほか、助教4名（うち脳血管 fellow：2名）、専攻医50名（他院出向中を含む）

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者：栗田 浩樹（診療部長）
臨床研修指導医：栗田 浩樹、寺西 亮雄、武 裕士郎、大塚 宗廣

4. 臨床研修プログラムの特色

脳卒中外科での初期研修期間中は、診療チーム（指導医、担当医、研修医）の一員として、5-10人の入院患者を診療し、固定の指導医が熱血指導を行う。また、入院時から検査、方針の決定、治療に至るまでを経験できるように調整する。特に以下の3点を重要視して研修を指導する。

1) 神経救急の初療を会得

将来どの診療科に進むにしても、医師として院内発症を含めた脳卒中や頭部外傷の急患に遭遇する機会が数多くある。神経救急では初療の善し悪しが患者の予後に直結する。当科における初期研修では神経救急疾患に関する初期治療法を短期間でも習得可能であり、将来必ず役立つ（“頭”に対する苦手意識を払拭できる）。

2) 心・血管系を含む全身管理

全身血管病の脳への現れである脳卒中の病態と治療は、将来循環器内科・心臓血管外科などを専攻する場合、その病態と治療に精通している必要がある。週2回の脳卒中内科とのカンファレンスを通じて、脳卒中の初療から先進治療まで学ぶことができる。

3) 脳神経外科医としての心得

将来の脳神経外科を牽引する人材を養成するために、脳神経外科医に必要な知識や手技について、徹底的に指導する。さらに「人生を手術する」脳神経外科医のために必要な、患者さんへの接し方や医師としての基本的態度に関しても厳しく指導する。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 急性期・慢性期に応じた神経学的診察ができ、カルテへの記載ができる。	()	()
2. 頭部 CT、MRI の読影ができる。	()	()
3. 急性期患者の病態に応じた治療を述べることができる。	()	()
4. 手洗いをして開頭手術の助手として参加し、手術を真直にみる。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 急性期・慢性期に応じた神経学的診察ができ、カルテへの記載ができる。	()	()
2. 頭部 CT、MRI の読影ができる。	()	()
3. 急性期患者の病態に応じた治療を述べることができる。	()	()
4. 手洗いをして開頭手術の助手として参加し、手術を真直にみる。	()	()
5. 腰椎穿刺ができる。	()	()
6. 指導医の下で穿頭術ができる。	()	()
7. 脳血管造影所見の基本的読影ができる。	()	()
8. 脳血管造影の周術期管理ができる。	()	()
9. 脳出血やくも膜下出血の急性期の診察を行い、検査・治療方針を述べることができる。	()	()
10. 急性期開頭手術に助手として参加する。	()	()
11. 脳血管障害開頭手術の術後管理が行える。	()	()

6. 研修方略（LS）

- ・指導医と共に救急外来にて急性期脳卒中患者の初期対応にあたり、採血・点滴の手技を実施し、カルテ記載や order を行う。
- ・病棟患者の診療を行い、指導医と共に指示・処方を行う。
- ・当科の特徴でもある開頭術に特化する環境に従事することで脳血管疾患に対する外科的治療に対する経験、知識を養う。
- ・助手あるいは一部術者として治療に直接関与し、手技を習得する。

7. 週間スケジュール（例）

MON: 8:30 救急カンファ、8:35 脳卒中カンファ、9:00 血管内合同カンファ、8:30 定時手術
TUE: 8:30 救急カンファ、8:35 ビデオカンファ、8:30 定時手術
WED: 8:30 救急カンファ、8:35 ビデオカンファ
THU: 8:30 救急カンファ、8:35 脳卒中カンファ、8:30 定時手術
FRI: 8:30 救急カンファ、8:35 リハビリテーションカンファ
(病棟回診毎日 9:00、17:00)

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学国際医療センター

救命救急センター 脳卒中センター

脳神経外科・脳卒中外科 栗田 浩樹（診療部長、教授）

寺西 亮雄（副診療部長、講師、研修担当医長、医局長）

脳血管内治療科

○ 脳血管内治療科の概要

1. 脳血管内治療科の特色

脳血管内治療とは、カテーテルによって脳血管疾患を治療する方法で、脳神経外科医の占める割合が多いが、神経内科医、救命救急医、放射線科医も脳血管内治療医として活躍している。当院脳卒中センターは、脳卒中内科、脳卒中外科、脳血管内治療科、リハビリテーション科の4科で脳卒中の診療を行っており、独立診療科として脳血管内治療科が存在する施設は全国的にも珍しい。当院の脳血管内治療症例数は全国トップクラスであり、脳血管内治療の研修のみならず、脳卒中全般を学ぶ場としても充実した環境である。

当科における初期研修においては、脳卒中診療を行うにあたって基本となる神経学的診察、画像診断、脳血管造影検査の基礎を習得するとともに一般的な脳卒中診療を習得することを目標とし、さらに脳血管造影をはじめとするカテーテルを用いての診断・治療の研修を行う。

2. 診療・教育スタッフ

神山 信也（教授）：日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医、日本脳神経外科学会専門医
芳村 雅隆（准教授）：日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医、日本脳神経外科学会専門医
松本 崇（講師）：日本脳神経血管内治療学会専門医、日本脳神経外科学会専門医
栢原 智道（講師）：日本脳神経外科学会専門医

ほか、助教3名

3. 研修責任者と臨床研修指導医

研修責任者：神山 信也（診療部長）

臨床研修指導医：神山 信也、芳村 雅隆

4. 臨床研修プログラムの特色

脳血管内治療科は、全国でもトップクラスの設備と症例数を誇る脳血管内治療専門医育成組織である。臨床研修においては、一般診療における脳卒中診療に不可欠な神経学的検査、画像診断、脳血管造影の読影、造影検査の基礎を習得する。神経内科、救命救急科、放射線科へ進む研修者においてはそれぞれの目標に合わせたさらに深い知識と経験を得ることが可能である。脳血栓回収術が標準的治療となった現在、脳卒中に関わる医師に脳血管内治療技術・知識の習得は必須であり、将来につながる研修を行う。

5. 目標と評価表

目標と評価票（研修期間に限らず共通した評価項目）

【評価 A：可 B：不可】		自己評価	指導医評価
1. 関連する各科（脳卒中外科、脳卒中内科、リハビリテーション科）と協調し、脳血管障害診療に参加する。		()	()
2. 急性期脳血管障害患者に対して適切な問診および神経学的診察ができる。		()	()
3. 急性期脳血管障害の画像診断を選択し、その読影ができる。		()	()
4. 急性期脳血管障害患者の病態に応じた治療を述べることができる。		()	()
5. 脳血管解剖について説明することができ、また脳血管造影所見について適切な読影ができる。		()	()
6. 脳血管造影検査後の管理が安全に行える。		()	()
7. 脳血管造影検査で使用するカテーテルやガイドワイヤーを適切に選択することができる。		()	()
8. 脳血管内治療の適応疾患について述べるができる。		()	()
9. 脳卒中患者の自宅退院に向けた地域連携の現状を理解し、説明できる。		()	()

目標と評価表（4 週研修した場合の評価項目）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 急性期脳血管障害患者に対して適切な診断と治療法を選択、提示できる。	()	()
2. 急性期脳血管障害患者に対して適切な診断と治療法を患者本人、家族へ説明できる。	()	()
3. 指導医の下、目的動脈へ安全にシース留置が行える。	()	()
4. 正常脳血管解剖だけでなく、血管破格や血管奇形など正確な知識がある。	()	()
5. 脳血管内手術の手技や内容について理解できる。	()	()

目標と評価表（8 週以上研修した場合の評価項目）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 急性期脳血管障害患者に対して適切な診断と治療法を選択、提示できる。	()	()
2. 急性期脳血管障害患者に対して適切な診断と治療法を患者本人、家族へ説明できる。	()	()
3. 指導医の下、目的動脈へ安全にシース留置が行える。	()	()
4. 正常脳血管解剖だけでなく、血管破格や血管奇形など正確な知識がある。	()	()
5. 脳血管内手術の手技や内容について理解できる。	()	()
6. 指導医の下、カテーテルを目的血管に安全に誘導でき、正確な脳血管造影撮影ができる。	()	()
7. 使用する血管撮影装置を適切に操作でき、かつ放射線被曝低減ができる。	()	()
8. 脳血管内手術後の周術期管理が適切に行える。	()	()
9. 脳血管内手術の合併症について理解でき、安全に治療を行える知識がある。	()	()
10. 各脳血管内手術のインフォームドコンセントを患者へ説明できる。	()	()

6. 研修方略（LS）

- ・急性期脳卒中患者の初期救急対応（神経診察、画像診断、採血、点滴など基本的手技）の習得
- ・各患者の適切なカルテ記載（SOAP の理解）。
- ・病棟患者の神経診察や処置、またスタッフへの指示・処方。
- ・脳血管撮影および脳血管内手術に参加して、デバイスに触れて機能や使用方法を理解。
- ・熟練度が上がってくれば助手あるいは一部術者として治療に直接関与し、手技を習得。

以上をかならず臨床研修指導医でかつ脳外科専門医以上の医師と相談しながら監視下で研修する。

7. 週間スケジュール（例）

毎朝、脳血管内治療科カンファレンスを行い、前日の脳血管撮影検査、救急患者、病棟重症患者につき確認。月・木曜日は 8 時 30 分より脳卒中センター合同カンファレンス。月曜日午前に術前症例検討会。月曜日朝は脳卒中外科合同カンファレンス。月一回月末に脳神経外科グランドラウンド（小研究会）。月一回月初め火曜日に心臓内科と合同の brain-heart カンファレンス。病棟回診は毎日、朝のカンファレンス後（月曜日はリハビリテーション科と合同）。初期研修医は、朝のカンファレンスと月曜日午前のカンファレンスを必須とする。症例に応じて、脳血管撮影の助手・術者（一部）と手術（脳血管内治療）の助手として参加する。

曜日	朝	午前	午後	夕方
月	当科カンファレンス・脳卒中センターカンファレンス・脳外科合同カンファレンス	術前カンファレンス	手術・脳血管造影	
火	当科カンファレンス 月初：Brain-Heart カンファレンス	脳血管造影	脳血管撮影	月末：グランドラウンド
水	当科カンファレンス	手術・脳血管造影	手術・脳血管造影	
木	当科カンファレンス・脳卒中センターカンファレンス・	脳血管造影	脳血管造影	
金	当科カンファレンス・脳卒中センターカンファレンス	脳血管造影	脳血管造影	
土	当科カンファレンス	脳血管造影・手術	病棟	

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学国際医療センター

救命救急センター 脳卒中センター

脳血管内治療科 芳村 雅隆（副診療部長、准教授）

精神腫瘍科

○ 精神腫瘍科の概要

1. 精神腫瘍科の特色

がんに罹患した患者の初診時から診断、治療、終末期にいたるまでの心の問題とその対処を学ぶことができる。また、患者のみならずその家族（「家族外来」）や遺族（「遺族外来」）の診療もおこなっており、患者家族・遺族に及ぶ精神腫瘍学的な問題も学ぶことが可能である。

がん医療にかかわる医師には、身体および精神腫瘍学的な問題解決能力が求められる。将来、がん患者を診察する際に必要な精神腫瘍学的知識・技術を提供する。なお、当科には心理学の専門家も教官として在籍しており、集団精神療法などを中心に心理学的視点に基づいた診察・アセスメントも学ぶことができる。

また、当科では精神腫瘍学にとどまらず、急性期の精神医療、リエゾン精神医学も学ぶこともできる。がん、心臓病などに関わる精神医学、さらには臓器移植に関わる精神医学まで幅広い臨床活動と研究に取り組んでいる。精神腫瘍科は、精神科リエゾンチーム、緩和ケアチームとしての活動も行っており、多職種協働のチーム医療についても学ぶことができる。

なお、臨床研修プログラムにおいては、緩和ケアチームの活動を通して精神腫瘍学・緩和医療学の双方を学ぶ。身体・精神を切り離さず、全人的医療としての考え方を習得するため、精神腫瘍科の研修には緩和医療科（支持医療科）での研修も含まれる。

※精神科リエゾンチームとは…

精神科医、精神看護専門看護師、臨床心理士/公認心理師らがチームとなり、主に精神・心理学的な側面から患者・家族を多職種でサポートする。

2. 必修研修期間

4 週以上

3. 診療・教育スタッフ

大西 秀樹（ONISHI Hideki、教授）精神保健指定医、精神科専門医
石田 真弓（ISHIDA Mayumi、教授）臨床心理士、公認心理師

4. 研修責任者と臨床研修指導医

研修責任者：大西 秀樹（診療部長）
臨床研修指導医：大西 秀樹

5. 臨床研修プログラムの特色

本臨床研修プログラムでは、全人的医療の実践を学び、精神腫瘍学をはじめ、精神科リエゾンチームとしての活動、多職種間のコミュニケーションを通じた医療を学ぶことができる。

将来、内科系・外科系に進む研修医にとって、がんという身体疾患が心身に及ぼす影響を知り、幅広い知識と技術をつけるためにも有用な臨床科目である。

6. 目標と評価表

目標と評価表（4 週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. がん患者に多くみられる精神疾患の理解と対応ができる。	()	()
2. がん患者の精神症状の捉え方ができる。	()	()
3. がん患者の心理学的問題の把握ができる。	()	()
4. がん患者の意識障害の捉え方および原因の検索ができる。	()	()
5. がん患者の社会復帰支援へのサポートを理解できる。	()	()
6. リエゾンチームで他職種と意見交換ができる。	()	()
7. 緩和ケアチームで他職種と意見交換ができる。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. がん患者に多くみられる精神疾患の理解と対応ができる。	()	()
2. がん患者の精神症状の捉え方ができる。	()	()
3. がん患者の心理学的問題の把握ができる。	()	()
4. がん患者の意識障害の捉え方および原因の検索ができる。	()	()
5. 緩和ケアチームで他職種と意見交換ができる。	()	()
6. がん患者の社会復帰支援へのサポートを立案できる。	()	()
7. アドバンス・ケア・プランニングを理解し、共有できる。	()	()
8. がん患者の家族の問題把握、および必要な介入をおこなうことができる。	()	()
9. がん患者の遺族の問題把握、および必要な介入をおこなうことができる。	()	()

7. 研修方略（LS）

- ・身体疾患患者の身体・精神症状・社会的な問題について学ぶ。
- ・せん妄についての知識を深める
- ・身体疾患患者の精神症状に関するアセスメントができる
- ・身体疾患患者の精神症状に関する治療計画の立案がcaのうになる。
- ・身体疾患患者家族の身体・精神症状・社会的な問題について学ぶ。
- ・がん患者遺族の身体・精神症状・社会的な問題について学ぶ。

8. 週間スケジュール（例）

	月	火	水	木	金
午前	PCT 回診 集団精神療法研修 (年 4 回)	PCT 回診	PCT 回診 集団精神療法研修 (月 1 回)	PCT 回診	PCT 回診
午後	リエゾン回診	リエゾン回診 PCT カンファレンス	リエゾン回診	リエゾン回診	自主研修
その他			死生学勉強会 (月 1 回)		

※PCT…Palliative Care Team 緩和ケアチーム

※リエゾン回診…

精神科リエゾンチームとしての活動（精神科医、臨床心理士、リエゾン看護専門看護師らとのカンファレンス、および回診）

※この他、各種研究会、学会に参加することが可能である。

9. 研修に関する問合せ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学国際医療センター

包括的がんセンター 精神腫瘍科

大西 秀樹（診療部長、教授）

小児腫瘍科

○ 小児腫瘍科の概要

1. 小児腫瘍科の特色

本邦では悪性新生物が小児病死の第 1 位を占めている。一方で、小児がんの新規発症は年間 2,000-3,000 人程度と極めて希少な疾患である。少子化が進む中、本邦としては国を挙げて対応すべき疾患の一つである。

小児がんは各々の疾患が希少であるため、以前から多施設共同研究が進められており、成人領域の悪性新生物とは異なった考え方を必要とする。また、疾患のみならず、小児科医として患者の成長・発達・養育環境についても考慮しつつ診療を進める必要がある。

さらに、近年クローズアップされている AYA 世代(Adolescent and Young Adult)がんもまた、成人領域の悪性新生物とは異なるアプローチを必要としており、当科ではこれらの疾患群の対応も行っている。

成人領域の悪性新生物とは異なり、生活習慣病の要素が少ないことが知られ、胚細胞系列の遺伝子疾患としてゲノム異常の役割が大きい。エピゲノム異常が関与する病態も明らかにされつつあり、今後の小児がん診断学・治療学が刷新される期待が持たれている。

2. 診療・教育スタッフ

福島 敬 (准教授)：総合小児医学、小児がん集学的治療

中尾 朋平 (准教授)：小児腫瘍学、血液学、分子遺伝学、遺伝性腫瘍、血液・免疫細胞治療

3. 研修責任者と臨床研修指導医

研修責任者：福島 敬 (診療部長)

臨床研修指導医：福島 敬、中尾 朋平

上級医：清水 優輝

4. 臨床研修プログラムの特色

本プログラムでは「正確な理学所見をとり、必要な高次の検査を順序立ててその適応を判断しつつ行う」という内科診断学の基本を学ぶことができる。

5. 目標と評価表

目標と評価表 (4 週研修した場合)

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 患者の年齢に合わせて接する技術を学ぶ。	()	()
2. 難治疾患の子供を抱える家族との接し方を学ぶ。	()	()
3. 患者の状態が緊急性を要するの可否かを判断する。	()	()
4. 他科の医師やコメディカルと連携した集学的な診断・治療を理解する。	()	()
5.カンファランスや回診で受け持ち患者のプレゼンテーションをする。	()	()

目標と評価表 (8 週以上研修した場合)

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 患者の年齢に合わせて接する技術を学ぶ。	()	()
2. 難治疾患の子供を抱える家族との接し方を学ぶ。	()	()
3. 患者の状態が緊急性を要するの可否かを判断する。	()	()
4. 他科の医師やコメディカルと連携した集学的な診断・治療を理解する。	()	()
5.カンファランスや回診で受け持ち患者のプレゼンテーションをする。	()	()
6.カンファランスや回診で受け持ち患者のプレゼンテーションをする。	()	()
7. 終末期の小児の医療に積極的に携わり、自分の人生観を内省する。	()	()

6. 研修方略 (LS)

2 チーム制の屋根瓦方式で行っている。入院患者数はそれほど多くないので全員がすべての患者の状態を把握することを心がける一方で、指示の混乱を避けるため主治医と指導医を明確にしている。

7. 週間スケジュール（例）

月曜日	病棟業務、小児腫瘍科カンファレンス、抄読会
火曜日	病棟業務、病棟多職種カンファレンス
水曜日	病棟業務
木曜日	病棟業務
金曜日	病棟業務
土曜日	病棟業務

＊病棟業務には、回診、病棟処置、鎮静、検鏡、生検など手術立ち合い、IC 同席などを含む。
また、場合によって外来を見学する。

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
埼玉医科大学国際医療センター
包括的がんセンター 小児腫瘍科
福島 敬（診療部長、准教授）

婦人科腫瘍科・産婦人科

○ 婦人科腫瘍科・産婦人科の概要

1. 婦人科腫瘍科・産婦人科の特色

埼玉県内の広い地域から紹介される症例や搬送される症例に恵まれているきわめて好適な施設である。婦人科腫瘍科では、包括的がんセンターの一部として癌治療に全人的取り組みを行っている。

2. 診療・教育スタッフ

長谷川幸清（教授）：婦人科腫瘍学
吉田 裕之（教授）：婦人科腫瘍学
黒崎 亮（准教授）：婦人科腫瘍学
藤原 恵一（客員教授）：婦人科腫瘍学

ほか、講師 2 名、助教 6 名

※多彩な専門的背景を有する、いずれも経験豊富な産婦人科専門医資格を有する医師が診療スタッフを構成する。入院症例の受け持ちは研修医を含む 3 人のチームで担当する。

3. 研修責任者と臨床研修指導医

研修責任者：長谷川幸清（診療部長）
臨床研修指導医：長谷川幸清、吉田 裕之、黒崎 亮、小笠原仁子

4. 臨床研修プログラムの特色

実践的な研修を重視しているので指導医の指導のもとで悪性腫瘍手術、外来診察の経験を多数積むことが可能である。

研修目標に準拠し、臨床医として必要な基本的事項をさらに研修する。これに加え、産婦人科専門研修に備えた必要な経験を蓄積する。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4 週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 不正出血の原因診断ができる。	()	()
2. 下腹痛の原因診断ができる。	()	()
3. 婦人科腫瘍患者の問診、理学的所見がとれる。	()	()
4. 経膈超音波による腹腔内出血・腹水貯留の診断ができる。	()	()
5. 子宮頸癌・体癌・卵巣癌の組織型について理解する。	()	()
6. 婦人科腫瘍の staging に必要な術前検査計画が立てられる。	()	()

目標と評価表（8 週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 不正出血の原因診断ができる。	()	()
2. 下腹痛の原因診断ができる。	()	()
3. 婦人科腫瘍患者の問診、理学的所見がとれる。	()	()
4. 経膈超音波による腹腔内出血・腹水貯留の診断ができる。	()	()
5. 子宮頸癌・体癌・卵巣癌の組織型について理解する。	()	()
6. 婦人科腫瘍の staging に必要な術前検査計画が立てられる。	()	()
7. 婦人科腫瘍患者に必要な検査および治療計画設定ができる	()	()
8. 経膈超音波、コルポスコピーによる診断ができる。	()	()
9. 指導医の指導下に基本的な手術の執刀できる。	()	()
10. 化学療法の用量計算および指導医の指導下に指示が書ける。	()	()
11. 化学療法の副作用（骨髄抑制等）を理解する。	()	()

6. 研修方略 (LS)

- ・平日は毎朝 treatment planning conference を 7 人の婦人科腫瘍専門医を含めた全員で行い、術前症例や入院患者の方針検討を行っている。
- ・月曜日午後には放射線腫瘍科や病理診断科と合同でカンファレンスを行い、様々な症例に対して、各診療科の専門医と討論を行っている。
- ・研修医は経験豊富な指導医と共に入院症例を担当する。
- ・研修医には多くの手術に参加できるように配慮しており、付属器切除術や単純子宮全摘術など基本的な手術手技をマスターできるだけでなく、ロボット手術（ダビンチサージカルシステム）を用いた手術に参加してもらい、低侵襲手術の実際を学ぶ。
- ・初診外来や、化学療法外来などの当科の特色ある外来で、患者対応の実際を学ぶ。

7. 週間スケジュール (例)

	月	火	水	木	金	土
午前	手術	外来	手術 (ロボット手術)	手術 病棟	手術 (ロボット手術)	病棟
午後	手術、 病棟、 放射線、 画像、 病理カンファ	外来	手術 病棟	手術 病棟	手術 病棟	

※月～金：毎朝 TPC (Treatment Planning Conference) を行う。

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター
 包括的がんセンター 婦人科腫瘍科・産婦人科
 長谷川 幸清 (診療部長、教授)

皮膚腫瘍科・皮膚科

○ 皮膚腫瘍科・皮膚科の概要

1. 皮膚腫瘍科・皮膚科の特色

皮膚疾患には患者の生命に関わる疾患群が含まれ、悪性黒色腫、有棘細胞癌、乳房外 Paget 病、血管肉腫などの皮膚悪性腫瘍は、その疾患群のひとつである。当科は腫瘍性皮膚疾患、とりわけ皮膚悪性腫瘍の診療を main work である。そのため、当科での臨床研修は、皮膚腫瘍患者に対する皮膚外科治療のみならず、化学療法、放射線療法、支持療法等のがんの集学的治療の修練を主目的とし、その研修内容が充実している。皮膚悪性腫瘍の診療に伴うダーモスコピー診断や病理組織診断は豊富な症例数を基盤に充実した指導体制のもと、その習得が可能である。特に手術については、多くの手術症例に伴い全国屈指の様々な難易度の手術が助手として経験できる。化学療法も免疫チェックポイント阻害薬、分子標的薬を含めた多種類のレジメンを経験できる。

2. 診療・教育スタッフ

中村 泰大（教 授）：皮膚腫瘍全般の臨床、皮膚科学

日本皮膚科学会皮膚科専門医、皮膚悪性腫瘍指導専門医、

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

小森 崇矢（講 師）：皮膚腫瘍全般の臨床、皮膚科学

日本皮膚科学会皮膚科専門医

井上 禎夫（助 教）：皮膚腫瘍全般の臨床、皮膚科学

日本皮膚科学会皮膚科専門医

ほか、助教（専攻医）3 名

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者：中村 泰大（診療部長）

臨床研修指導医：中村 泰大、小森 崇矢（副診療部長）

上級医：井上 禎夫、碓 真雄、宋 基旦、長谷川絢哉

4. 臨床研修プログラムの特色

外来・病棟における臨床研修を中心として、実際経験できる手技を積極的に経験するだけでなく、どのような理論的根拠や考えを基盤に診断を下し治療を決定して、具体的に患者へ説明するか、という細やかな内容にまで踏み込んだ研修が特色である。また、他診療科からの皮膚症状のコンサルテーションより、皮膚腫瘍以外の一般的皮膚疾患に対する診断・治療も学ぶことができる。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4 週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 皮膚悪性腫瘍患者の身体所見を取ることができる。	()	()
2. 典型的皮膚悪性腫瘍の臨床診断ができる。	()	()
3. 手術時に簡単な縫合ができる。	()	()
4. 臨床病理検討会でプレゼンできる。	()	()

目標と評価表（8 週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 皮膚悪性腫瘍患者の身体所見がとれる。	()	()
2. 典型的皮膚悪性腫瘍の臨床診断ができる。	()	()
3. 典型的皮膚悪性腫瘍の組織診断ができる。	()	()
4. 手術時に簡単な縫合ができる。	()	()
5. 標準的化学療法が説明できる。	()	()
6. 標準的放射線治療の適応を説明できる。	()	()
7. 臨床病理検討会でプレゼンし、意見を言える。	()	()

6. 研修方略 (LS)

- 病棟・外来診療では上級医のもとマンツーマンで実際の診療について指導する。
- 外来処置・外来手術を執刀・介助を通じて、実際の切開・皮膚縫合について指導する。
- カルテ記載を通じて発疹の記載について指導する。
- 症例カンファランスで実際の検査・治療計画について指導する。
- 症例カンファランスで実際の化学療法や放射線療法の適応について指導する。
- 抄読会等を通じて、皮膚疾患の知識を深めることができるよう指導する。

7. 週間スケジュール (例)

	月	火	水	木	金
8:30	病棟カンファ	病棟カンファ	手術	病棟カンファ	病棟回診
8:40	外来	外来		外来	外来
	病棟	病棟		病棟	病棟
13:00	病棟	外来	手術	外来	外来
14:00	外来手術	病棟		外来手術	外来手術
15:00	病棟			病棟	病棟
	外来				
16:00			手術	合同カンファレンス	
17:00	病棟	病棟		(病理・臨床・術前 カンファレンス ・化学療法)	病棟

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター
 包括的がんセンター 皮膚腫瘍科・皮膚科
 中村 泰大 (診療部長、教授)

骨軟部組織腫瘍科・整形外科

○ 骨軟部組織腫瘍科・整形外科の概要

1. 骨軟部組織腫瘍科・整形外科の特色

骨軟部腫瘍、転移性骨腫瘍など整形外科関連の腫瘍を扱う。これらは比較的稀な疾患であり、一般的な施設では十分な知識の習得は困難である。また症例数の多い転移性骨腫瘍においては、幅広く他科のがんに関する知識も必要である。加えて診療、治療においても他科の知識および共同作業が必要になる。これら効率よく学習・体験するには大学病院、がんセンターなど専門施設で行うのが最も良い。当科は埼玉県西部では唯一の骨軟部腫瘍専門診療科であり、多くの患者に接しながら学ぶことが出来る。

診断は病理医、放射線診断医との協議し、治療法はもちろん外科治療にかたよらず、腫瘍内科、小児腫瘍科、放射線腫瘍科等と共同して行う。外科治療においては形成外科、呼吸器外科、消化器外科、泌尿器科など他科との共同作業も多い。治療の意義を十分に理解実行し、その結果を鑑みて、さらに治療法を改善していく姿勢も学んで欲しい。研修医の先生には、まず講義を通して基礎知識を得て、そして実践でそれらを体験してもらい、その体験から学会発表、論文作成を通して、自分の考えを整理創造行く習慣付けて頂きたい。

2. 診療・教育スタッフ

鳥越 知明（教授、診療部長）：骨軟部腫瘍、骨再建術、ナビゲーションを用いた手術
渡邊 拓也（講師、診療副部長）：骨軟部腫瘍の診断と集学的治療

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者：鳥越 知明（診療部長）
臨床研修指導医：鳥越 知明

4. 臨床研修プログラムの特色

まず臨床経験をしていただく。次に研修を受けて臨床内容を理解する。さらにカンファレンスを通して問題点を認識し、自分から考える習慣を付ける。さらに学会報告、論文を作成することにより自ら考え自己研鑽出来る医師となることを目標とする。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 骨軟部腫瘍のレクチャーコースを受ける。	()	()
2. 骨軟部腫瘍の患者に接する。	()	()
3. 骨軟部腫瘍の手術に参加する。	()	()
4. 外来新患の診察に参加する。	()	()
5. 骨軟部腫瘍カンファレンスに参加する。	()	()
6. 手術参加(助手として)10件以上。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 骨軟部腫瘍のレクチャーコースを受ける。	()	()
2. 骨軟部腫瘍の患者に接する。	()	()
3. 骨軟部腫瘍の手術に参加する。	()	()
4. 外来新患の診察に参加する。	()	()
5. 骨軟部腫瘍カンファレンス・研究会に参加する。	()	()
6. 画像をみて鑑別を述べる。	()	()
7. 治療方針を作成する。	()	()
8. カンファレンスで症例を呈示する。	()	()
9. 手術参加(助手として)10件以上。	()	()
10. 学会・研究会で症例報告をする。	()	()

6. 研修方略 (LS)

- ・ 上級医と共に行動し外来、病棟で診療を学ぶ。
- ・ 手術に参加する。
- ・ 院内外のカンファレンスに参加する。
- ・ 機会があれば学会で発表する。

7. 週間スケジュール (例)

月曜	午前	病棟業務	午後	外来研修		
火曜	午前	外来研修	午後	病棟業務		
水曜	午前	外来研修	午後	病棟業務		
木曜	午前	カンファレンス参加、病棟業務			午後	病棟業務
金曜	午前	手術	午後	手術		
土曜	午前	手術	午後	手術		

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
埼玉医科大学国際医療センター
包括的がんセンター 骨軟部組織腫瘍科・整形外科
鳥越 知明 (診療部長、教授)
E-mail: ttorigoe@saitama-med.ac.jp

頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科

○ 頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科の概要

1. 頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科の特色

当科は頭頸部外科専門診療科である。上縦隔より鎖骨上で脳腫瘍・脊髄腫瘍などを除く全ての腫瘍性疾患を治療対象としている。頭頸部臓器は音声、嚥下や日常のコミュニケーションに密接に関連する部位である。治療方針は、手術治療を基本としているが、それにとらわれることなく、放射線治療、化学療法などを積極的に取り入れ、嚥下、構音機能および形態の温存を追求している。当科は、形成外科、放射線腫瘍科、臨床腫瘍科、外科、脳外科、口腔外科などが関与する頭頸部癌集学的治療チームの要として機能している。頭頸部腫瘍には様々な部位が含まれているが、短期間で頭頸部腫瘍を一通り経験することができる。

2. 診療・教育スタッフ

中平 光彦（教授）：頭頸部がん専門医・指導医、日本耳鼻咽喉科学会専門医・指導医
山崎 知子（教授）：がん薬物療法専門医・指導医、
蝦原 康宏（教授）：頭頸部がん専門医・指導医、日本耳鼻咽喉科学会専門医・指導医
松村 聡子（講師）：頭頸部がん専門医・指導医、日本耳鼻咽喉科学会専門医・指導医
岩城 弘尚（助教）：頭頸部がん専門医、日本耳鼻咽喉科学会専門医・指導医
榎木祐一郎（助教）：口腔がん専門医・指導医、口腔外科専門医・指導医

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者：蝦原 康宏（診療部長）
臨床研修指導医：蝦原 康宏、中平 光彦、山崎 知子、松村 聡子、岩城 弘尚
上級医：榎木祐一郎

4. 臨床研修プログラムの特色

将来、耳鼻咽喉科頭頸部外科医を目指す研修医は勿論のこと、腫瘍専門医を目指す者で、頭頸部腫瘍の基礎的知識を得たい者にも配慮した研修を行う予定である。気道、嚥下等の管理などについても学べる。また、当科におけるプログラムの特色としては、短期間で数多くの手術症例を経験できることである。特に頭頸部外科の基本手技である頸部郭清術は年間 150 例と極めて多い。また、血管吻合を用いた遊離皮弁再建も毎週コンスタントに施行されており全国有数の症例数を誇り、8 週間の研修期間でも相当数の手術症例を経験できる。あわせて、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬を含めた化学療法の全身管理についても経験できる。

研修の目標は次の 3 つである。1) 頭頸部進行がんの手術症例を担当し手術や周術期管理を経験する、2) 頭頸部進行がんに対する化学療法症例を担当し、副作用対策を中心とした全身管理を行う。3) 気道食道の機能評価ができる。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4 週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 耳鼻咽喉科領域（鼻腔、口腔、咽喉頭、頸部）の所見が取れる。	()	()
2. カルテに所見を記載できる。	()	()
3. 頸部 CT の読影ができる。	()	()
4. 喉頭ファイバー検査を実施できる。	()	()
5. 気道確保としての気管カニューレの仕組みを理解する。	()	()

目標と評価表（8 週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 耳鼻咽喉科領域（鼻腔、口腔、咽喉頭、頸部）の所見が取れる。	()	()
2. カルテに所見を記載できる。	()	()
3. 頸部 CT の読影ができる。	()	()
4. 喉頭ファイバー検査を実施できる。	()	()

5. 気道確保としての気管カニューレの仕組みを理解する。	()	()
6. 喉頭癌を経験し、治療方針を理解する。	()	()
7. 口腔癌症例を経験し、治療方針と術後嚥下リハビリを理解する。	()	()
8. 咽頭癌の部位別の特色、治療方針を理解する。	()	()
9. 頸部郭清の分類、概念、解剖を知る。	()	()
10. 頸部リンパ節生検を経験する。	()	()

6. 研修方略 (LS)

- ・病棟診療業務参加：チームの一員として、診療業務にあたる。
- ・手術参加(助手)：多数手術例に実際に参加する。
- ・担当症例：レポート作成

7. 週間スケジュール (例)

月曜日：	午前	8:30	処置
	午後		病棟業務
火曜日： 手術日	午前	8:00	手術カンファ 処置・病棟業務
	午後	16:30	多職種カンファ
			臨床カンファ (外来新患・病棟患者・問題症例)
水曜日：	午前	8:30	処置 病棟業務
	午後		病棟業務
木曜日：	午前	8:30	処置 病棟業務
	午後		病棟業務 クルズス
金曜日： 手術日	午前	8:00	手術カンファ 処置
	午後	16:00	放射線カンファ
			臨床カンファ (外来新患・病棟患者・問題症例)
土曜日：	午前	8:30	処置
	午後		各自フリー

病理カンファ 月 1 回 第 4 金曜 17:00

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学国際医療センター

包括的がんセンター 頭頸部腫瘍科・耳鼻咽喉科

蝦原 康宏 (診療部長、教授) あるいは中平 光彦 (教授)

形成外科

○ 形成外科の概要

1. 形成外科の特色

形成外科は、外科の基本となる創傷治療から組織欠損の再建や整容改善まで、全体表を幅広く診療する分野である。その中で当科の役割は、腫瘍切除や外傷による組織欠損の形態・機能的再建手術が主体である。包括的がんセンターにおいては、頭頸部腫瘍科、乳腺腫瘍科、骨軟部腫瘍科、消化器外科等との合同手術で腫瘍切除後の即時再建術を、心臓病センターにおいては、心臓手術後の縦隔炎や胸骨骨髓炎に対する創傷治癒を目的とした再建術、下肢などの難治性潰瘍に対する加療を、救命救急センターにおいては、外傷や熱傷に対する再建術を行っている。また、形成外科単科としては、これらの再建後の二次変形や原疾患治療後の創部後遺症に対する治療を行っている。

以上のように、遊離組織移植術、有茎組織移植術、植皮術といった再建手術が非常に多く、特にマイクロサージャリーの技術を用いた遊離組織移植術は年間 100 例前後である。そのみならず腫瘍切除術、瘢痕形成術等幅広い手術に対応しており、様々な手技を学ぶことが可能である。

また、当院は日本形成外科学会認定施設でもある。

2. 診療・教育スタッフ、ならびに研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者：去川 俊二（診療部長）

臨床研修指導医：去川 俊二

上級医：小松崎 孝

3. 臨床研修プログラムの特色

外科医としての基本を学ぶプログラムである。

全手術共通して必要とされる合併症の少ない創閉鎖技術、整容面に配慮した創傷ケアの習得を最優先目標とする。

複数科の合同手術、多彩な再建手術、多くの皮膚縫合の 3 つが特色である。

4. 目標と評価表

目標と評価表（4 週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 創部の状態を評価できる	()	()
2. 皮膚の正しい縫合ができる。	()	()
3. 再建手術で多用される遊離皮弁、有茎皮弁について理解する。	()	()
4. 創部や皮弁の術後管理および緊急時の対応を学ぶ。	()	()

目標と評価表（8 週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 皮膚の正しい縫合ができる。	()	()
2. 再建手術で多用される遊離皮弁、有茎皮弁について理解する。	()	()
3. 創部や皮弁の術後管理および緊急時の対応を学ぶ。	()	()
4. 欠損に応じた再建方法について、自分なりに評価できる。	()	()
5. 術後の創部や皮弁の状態を評価でき、 緊急時には速やかに上級医に連絡できる。	()	()
6. 練習用の顕微鏡を用いて、人工血管の縫合ができる。	()	()
7. 植皮術、リンパ節生検、良性腫瘍切除等、小手術を経験する。	()	()

5. 研修の方略（LS）

- ・手術に参加し縫合を始めとする形成外科の基本手技を習得する。
- ・術前の手術計画・実際の手術・術後の振り返り、など、手術に係る外科医同士の一連のコミュニケーションを体感し、習得する。
- ・病棟処置で創傷の管理の基本を習得する。
- ・教授外来見学を通じ、形成外科による再建手術の長期経過を知る。

6. 週間スケジュール（例）

月：午前	手術	午後	手術・外来・病棟
火：午前	病棟・手術	午後	手術・頭頸カンファレンス
水：午前	病棟	午後	外来・病棟
木：午前	外来	午後	手術・病棟
金：午前	手術	午後	手術・頭頸カンファレンス
土：午前	外来	午後	病棟

7. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
埼玉医科大学国際医療センター
包括的がんセンター 形成外科
去川 俊二（診療部長、教授）

緩和医療科

○ 緩和医療科の概要

1. 緩和医療科の特色

当院でのがん診療は手術や特殊な入院を要する治療以外はほとんどが外来でなされる。それに伴い当科では、外来で行われるいわゆる“早期からの緩和ケア”および入院での緩和ケアチームによる診療支援を実践している。当科の診療は臨床腫瘍学と緩和医療学との融合である、supportive oncology（or palliative oncology）の実践である。すなわち、がんに対して直接の治療（手術や抗がん剤）は行わないが、がん患者を総合的に診察し Quality of Life の維持をがん診療のすべての段階で支援する“総合腫瘍科”である。したがって、がんを総合的に知り治療にあたる必要があることが必要で、がんの生物学、がん予防の知識、診断・治療の原理、治療にともなう好ましくない症状に対する緩和療法、がんの進行にともなう身体および精神症状の緩和的治療、がん救急、がん患者の栄養サポート、コミュニケーション技術の向上、エンドオブライフディスカッションの理解と実践、補完代替医療の知識、地域や在宅医療と連携するための知識・実施方法、がんサバイバーシップへの対応など、多様な知識・技術が求められる。さらに最近では、がん以外の疾患（心不全、腎不全、呼吸不全、老衰など）を抱える患者の人生の最終段階における緩和ケアも社会的に求められるようになっており、エンドオブライフケアチームの整備を準備中である。将来がん患者を診る科に進むかどうかにかかわらず、基本的診療として必須の知識・技術を得ることができる。

なお、臨床研修プログラムにおいては、精神腫瘍学・緩和医療学の双方を学び、身体・精神を切り離さず、全人的医療としての考え方・取り組みを学ぶことが重要であるため、精神腫瘍科と共同して研修を行うこととする。

2. 診療・教育スタッフ

内田 望 (UCHIDA Nozomu、教授)：日本緩和医療学会認定医、日本専門医機構総合診療専門医、日本プライマリ・ケア連合学会認定医、日本在宅医療連合学会認定専門医、地域総合診療専門医、地域包括医療・ケア認定医

3. 研修責任者と臨床研修指導医

研修責任者：内田 望（診療部長）

臨床研修指導医：内田 望

4. 臨床研修プログラムの特色

本臨床研修プログラムでは、全人的医療の実践を学び、緩和医療・緩和医療学をはじめ、精神腫瘍学および緩和ケアチームとしての活動、多職種間のコミュニケーションを通じた医療を学ぶことができる。将来研修医がどのような診療科に進もうとも、がんという身体疾患が心身に及ぼす影響を知り、幅広い知識と技術をつけるためには有用であり必須の臨床科目である。

※緩和ケアチームとは…

医師（緩和医療医、精神腫瘍医、骨軟部腫瘍科医、放射線腫瘍科医、泌尿器腫瘍科医、乳腺腫瘍科医、総合診療科医、病院診療科医など）、看護師（緩和ケア認定看護師、精神専門看護師）、薬剤師、公認臨床心理士、リハビリテーションセラピスト、ソーシャルワーカー、管理栄養士など関連する職種がチームを組んで患者・家族をサポートする。

5. 目標と評価表（4週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. がん患者に多くみられる痛みの理解と対応が出来る。	()	()
2. がん患者の精神症状の捉え方が出来る。	()	()
3. がん患者の痛み以外の身体症状の理解と対応ができる。	()	()
4. がん患者の意識障害の捉え方および原因の検索が出来る。	()	()
5. 緩和ケアチームで他職種と意見交換ができる。	()	()
6. がん患者の緩和ケアについて理解と対応ができる。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. がん患者に多くみられる痛みの理解と対応が出来る。	()	()
2. がん患者の精神症状の捉え方が出来る。	()	()
3. がん患者の痛み以外の身体症状の理解と対応ができる。	()	()
4. がん患者の意識障害の捉え方および原因の検索が出来る。	()	()
5. 緩和ケアチームで他職種と意見交換ができる。	()	()
6. がん患者の緩和ケアについて理解と対応ができる。	()	()
7. がん患者へのアドバンス・ケア・プランニングを理解し対応できる。	()	()
8. がん患者のエンドオブライフにおける意思決定支援で必要な介入が出来る。	()	()
9. キャンサーサバイバーの問題把握、および必要な介入をおこなうことが出来る。	()	()

6. 研修方略（LS）

- ・オリエンテーション
- ・介入時アセスメント
- ・病棟業務（疼痛コントロール、意識障害の鑑別、治療）
- ・カンファランス
- ・緩和ケアチーム回診
- ・緩和ケア外来
- ・緩和医療外来

7. 週間スケジュール（例）

	月	火	水	木	金	土
午前	外来研修 PCT 病棟回診	外来研修 PCT 病棟回診	集団精神療法 研修（月 1 回） 外来研修	PCT 病棟回診	外来研修 PCT 病棟研修	
午後	丸木記念メディカルセンター緩和ケア病棟研修 リエゾン回診	緩和ケアチームカンファレンス・回診	病棟研修 リエゾン回診	病棟研修 リエゾン回診	病棟研修	
その他	集団精神療法研修（遺族外来）（年 4 回）		死生学勉強会（月 1 回）			

※PCT…緩和ケアチーム

※リエゾン回診…精神科リエゾンチームとしての活動（精神科医、臨床心理士、リエゾン看護専門看護師らとのカンファレンス、および回診）

※その他、各種研究会、学会に参加することが可能である。

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター
 包括的がんセンター 緩和医療科
 内田 望（診療部長、教授）

放射線腫瘍科

○ 放射線腫瘍科の概要

1. 放射線腫瘍科の特色

放射線治療はがん治療の3本柱の一つである。放射線腫瘍科では、放射線治療医、医学物理士、診療放射線技師、看護師がチームを組んで、さまざまながんに対して安全でかつ効果の高い放射線治療を行っている。

放射線治療は、さまざまながんに対する根治治療（がんを完全に治すことを目的とする治療）として用いられるだけでなく、進行したがんの症状を和らげる緩和治療としても広く用いられている。例えばがん終末期に起こる骨転移の痛みやがんからの出血などは、数分間の放射線治療を1日～2週間施行することにより、症状が軽減し、患者さんの生活の質（Quality of Life: QOL）の改善に重要な役割を果たしている。

放射線治療の方法には身体の外から放射線を照射する外部照射と、放射線を出す線源をがんのある臓器に挿入して治療する小線源治療がある。がんの種類によっていずれかの治療法を行うこともあれば、組み合わせて治療することもある。

当院では外部照射の装置として、最新鋭のリニアック2台と定位放射線治療装置サイバーナイフ1台およびMRIリニアック1台を備えており、すべての部位のがんの治療に対応している。これらの治療装置では強度変調放射線治療や定位放射線治療といった高精度の放射線治療が可能で、がん周囲の正常組織に対する放射線の線量は低く抑さえつつ、がんに対しては高線量をピンポイント照射することができ、副作用が少なくかつ効果の高い治療が実現できる。

また、小線源治療としては、子宮頸がんに対してイリジウム-192を用いた高線量率腔内・組織内照射を行っている。これらもがんに対して高線量を集中することができる優れた治療方法である。

本研修では腫瘍学の基盤の上に立って、癌の生物学的特徴と放射線の物理工学的特性に基づいて、がん患者に対して根治的な治療から対症的・緩和的な治療まで十分に学ぶことを目標としている。プログラムの修了時には、放射線の腫瘍への作用、放射線の正常組織への作用を理解して、放射線治療の適応（根治治療と緩和治療）を判断することができるようになっている。

2. 診療・教育スタッフ

野田 真永（教授）

熊崎 祐（准教授）：医学物理士

青鹿 友美、斎藤 哲、龍野 康弘、飯野 美咲（助教）

ほか、助教数名（医学物理士含む）

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者：野田 真永

臨床研修指導医：野田 真永

上級医：青鹿 友美、斎藤 哲、龍野 康弘、飯野 美咲

ほか、専攻医3名

4. 臨床研修プログラムの特色

本プログラムでは悪性腫瘍に対する放射線治療の基礎を学び、様々な悪性腫瘍における放射線治療の適応についての知識を得る。腫瘍を扱うどの診療科にいても、担当する患者において放射線治療の適応があるかどうか判断できるようにする。

また、外部照射の治療計画と照射方法（時間-線量-分割）を実習して放射線治療の全過程、また子宮頸癌に対する小線源治療を体験する。

プログラムの終了時には、様々な腫瘍に対する放射線治療効果、正常組織の放射線治療による早期反応および遅発正反応を理解して、放射線治療の適応（根治治療と緩和治療）を判断することができるようになっていることを目標にする。さらに手術療法や化学療法と放射線治療との併用療法を臨床各科との共同で行う。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 最新の放射線腫瘍学の基本概念について理解する。	()	()
2. 頭頸部癌と子宮癌の基本的診察手技を行える。	()	()
3. 放射線治療計画で標的体積およびDVHを説明できる。	()	()
4. 密封小線源治療の方法と適応について学ぶ。	()	()
5. 放射線治療の方法と使用する機器の対比ができる。	()	()
6. 放射線治療の根治治療と緩和治療の適応を判断できる。	()	()
7. 放射線治療の流れを患者や家族に説明できる。	()	()
8. 放射線治療による緩和ケアを説明できる。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 最新の放射線腫瘍学の基本概念について理解する。	()	()
2. 頭頸部癌と子宮癌の基本的診察手技を行える。	()	()
3. 放射線治療計画で標的体積およびDVHを説明できる。	()	()
4. 密封小線源治療の方法と適応について学ぶ。	()	()
5. 放射線治療の方法と使用する機器の対比ができる。	()	()
6. 放射線治療の根治治療と緩和治療の適応を判断できる。	()	()
7. 放射線治療の流れを患者や家族に説明できる。	()	()
8. 放射線治療による緩和ケアを説明できる。	()	()
9. 癌種別に対応する放射線治療法を選ぶことができる。	()	()
10. 放射線治療適応患者の照射開始までの指示が出せる。	()	()
11. 小線源治療のオペレーターの介助ができる。	()	()
12. 高精度照射のリスク臓器の線量制限を指示できる。	()	()

6. 研修方略（LS）

- ・将来がん診療を専門とするすべての研修医にとって放射線治療概要を理解できるプログラムの提供。
- ・上級医の外来診察や放射線治療計画に同席により、研修項目の効率的な習得。

7. 週間スケジュール

- (月) 午前：外来診察（新患）見学
午後：放射線治療計画（外部照射）、婦人科腫瘍カンファレンス
- (火) 午前：外来診察（新患）見学
午後：放射線治療計画（外部照射）、脳脊髄腫瘍カンファレンス
- (水) 午前：乳癌カンファレンス、外来診察（治療患者）見学
午後：小線源治療（子宮頸癌）
- (木) 午前：高精度治療計画見学
午後：小線源治療（子宮頸癌）、泌尿器腫瘍カンファレンス
- (金) 午前：外来診察（治療患者）見学
午後：放射線治療計画（外部照射）、頭頸部腫瘍カンファレンス、食道癌カンファレンス
- (土) 午前：肺癌カンファレンス

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
埼玉医科大学国際医療センター
包括的がんセンター 放射線腫瘍科
野田 真永（研修医長、教授）

病理診断科

○ 病理診断科の概要

1. 病理診断科の特色

病理診断科は、病理診断を主体として行う臨床部門の1つである。今日の集学的治療に必要な情報を提供するために、臨床医と密な連携のもと病理診断を行っている。主な業務は、組織診断、術中迅速診断、細胞診断、病理解剖で、直接患者と接する機会は少ない業務だが、いずれもなくてはならない医療業務であり、スタッフの病理医が、細胞検査士を含む専門の臨床検査技師とともにこれらの業務にあたっている。さらに、埼玉医科大学病院・中央病理診断部とも密に相互連携し共同して病理診断を行っている。病理診断は、広い分野・臓器の疾患に渡るが、本科には多分野の専門家が所属し、日本や世界の病理診断学をリードしている。診断や治療選択に直結する分子病理学的な検索を含めた最新の解析も日常診断に用いながら、各分野の専門家が最新の病理テクノロジーを駆使する、新世代型の病理診断科である。

2. 診療・教育スタッフ

本間 琢（教授）：神経病理
川崎 朋範（教授）：乳腺病理、内分泌病理、消化管病理
美山 優（講師）：泌尿器病理、婦人科病理
大森 悠加（助教）：口腔病理
松下 傑（助教）：外科病理
森松 歩（助教）：口腔病理

3. 研修責任者と臨床研修指導医

研修責任者：本間 琢（診療部長）
臨床研修指導医：本間 琢、川崎 朋範、美山 優

4. 臨床研修プログラムの特色

病理診断科で研修する臨床研修医には、将来、臨床医を目指しているものの、基礎的知識として病理学を経験したい先生と、将来、病理専門医を目指す先生がいる。本病理診断科では、それぞれの先生が目指す目標にあわせた研修プログラムを提供している。

病理診断科における主な病理診断業務は組織診断（術中迅速診断を含む）・細胞診・病理解剖であり、必要に応じて免疫組織化学的、分子病理学的、電子顕微鏡的解析を行うが、これらの業務をスタッフの指導の下、実地にて行い、その結果、各科にわたる種々の疾患を全般的に広く学び、幅広いものの見方・考え方を身につけることができる。

具体的には、

- ① 手術検体の取り扱い、適切な肉眼観察、切り出し
- ② 病理組織診断へのアプローチ、病理解剖に関わる基礎的知識や手法の習得
- ③ 代表的疾患の肉眼的・組織診断や、鑑別に挙がる疾患の推定
- ④ 剖検・CPCによる、解剖学の復習や系統的な疾患の捉え方の習得
- ⑤ 臨床各科とのカンファレンスへの参加による、臨床像と病理所見の対比
- ⑥ 学会での発表や学術誌への投稿

ができるようになる。

病理解剖があった場合には、臨床研修医は可能な限り参加し、剖検を通して個々の臓器所見から全身的な病態を、あるいは全身状態から各論的事項を考察していくという、他科では経験のできない修練が体験できる。ご遺体に対して敬虔な気持ちを抱きながら剖検に携わることで、医療従事者としての基本的な心構えを再確認する機会でもある。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 定型的な症例の手術標本の肉眼病変を的確に指摘でき、かつ、適切な切り出しが行える。	()	()
2. 定型的な症例の病理組織標本の組織学的病変を的確に指摘でき、診断名、所見を付すことができる。	()	()
3. 凍結切片作製、染色ステップを理解できる。	()	()
4. 免疫組織化学染色に関して、病理診断に有用な代表的抗体について説明できる。	()	()
5. 臨床各科との病理カンファレンスに参加し、適切なプレゼンテーション・ディスカッションが行える。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 定型的な症例の手術標本の肉眼病変を的確に指摘でき、かつ、適切な切り出しが行える。	()	()
2. 定型的な症例の病理組織標本の組織学的病変を的確に指摘でき、診断名、所見を付すことができる。	()	()
3. 凍結切片作製、染色ステップを理解できる。	()	()
4. 免疫組織化学染色に関して、病理診断に有用な代表的抗体について説明できる。	()	()
5. 臨床各科との病理カンファレンスに参加し、適切なプレゼンテーション・ディスカッションが行える。	()	()
6. 難解例に対して適切なコンサルテーションを行うことができる。	()	()
7. 一定の時間内に迅速病理診断を正しく行い、手術室に報告することができる。	()	()
8. 稀有でない症例における病理解剖の手技を説明できる。	()	()

6. 研修方略（LS）

- ・ 正常の組織像、解剖学を復習する。
- ・ 臨床医として担当した患者の既往標本を自ら検鏡して顕微鏡に馴染む。
- ・ 術中迅速診断を上級医の指導のもとに行い、組織診断、良悪性の判定や、その限界について学ぶ。
- ・ 手術検体の適切な取扱い、ホルマリン固定、切り出しを、上級医の指導のもとで行う。
- ・ 切り出し・病理診断に際して、必要な臨床情報を把握し、臨床と病理の連携の重要性を学ぶ。
- ・ 生検・手術検体の病理診断報告書を、上級医の指導のもとで自ら作成する。
- ・ 病理診断に必要な免疫組織化学や分子病理学的検索を行い、その結果を評価する。
- ・ 病理解剖に上級医とともに立ち会い、肉眼所見を記録する。
- ・ 病理業務におけるリスク管理や、コンサルテーションの重要性を学ぶ。
- ・ 適切な剖検症例(研修中に自ら担当した症例や志望する臨床科の症例など)を1例選択し、自ら検鏡して臨床的相関と考察を加え、CPC レポートを作成する。
- ・ 臨床病理カンファレンスや剖検症例検討会で病理側担当として症例提示を行い、病理所見を説明する。
- ・ 学会・研修会・セミナーに積極的に参加し、病理学的意義を有する症例の報告を行う。

7. 週間スケジュール（例）

月曜日	17:00-17:30	婦人科・病理カンファレンス（毎週）
火曜日	17:00-17:30	造血器腫瘍・病理カンファレンス（月例）
	17:00-17:30	泌尿器・病理カンファレンス（月例）
	16:00-16:30	心筋カンファレンス（月例）
	17:00-17:30	脳腫瘍・病理カンファレンス（月例）
水曜日	8:00-08:30	乳腺・病理術前術後カンファレンス（毎週）
木曜日	09:00-09:30	病理診断科連絡会（毎週）

	16:30-17:30	皮膚・病理カンファレンス（毎週）
	17:00-17:30	上部・下部消化器カンファレンス（月例）
	17:00-17:30	胆膵病理カンファレンス（月例）
	17:00-17:30	骨軟部腫瘍・病理カンファレンス（月例）
	17:00-18:00	剖検カンファレンス／病院 CPC（月例）
金曜日	17:00-17:30	頭頸部腫瘍・病理カンファレンス（月例）
土曜日	09:00-10:00	呼吸器・病理カンファレンス（月例）

その他、臨床各科とのカンファレンスが随時行われる。

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学国際医療センター

包括的がんセンター 病理診断科

本間 琢（診療部長、教授）

小児心臓科

○ 小児心臓科の概要

1. 小児心臓科の特色

小児心臓科は、先天性心臓病と小児心臓病の診断、治療（薬物、カテーテル、手術）を専門に行う。特にカテーテル治療数は国内でも常に上位に位置しており、Amplatzer 心房中隔欠損閉鎖栓、Amplatzer 動脈管閉鎖栓の認定施設には各閉鎖栓の認定開始初年度より認定施設の資格を取得しており、症例数も多い。また小児のカテーテルアブレーション、デバイス植込みを行うことのできる数少ない施設の一つである。さらに重症心不全小児例に対する補助循環治療も行われており、2023 年に本邦 7 施設目となる小児心臓移植の認定施設となった。このように小児心疾患すべての領域にわたる診断・治療を研修可能であり、個々の需要に合わせた幅広い臨床研修を提供できるものと自負している。

2. 診療・教育スタッフ

小島 拓朗(准教授)：小児循環器一般、カテーテル治療、成人先天性心疾患
戸田 紘一(講師)：小児循環器一般、心不全治療、心臓移植
鍋嶋 泰典(助教)：小児循環器一般、カテーテルアブレーション、デバイス治療

ほか、助教 5 名

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者：小島 拓朗（診療部長）
臨床研修指導医：小島 拓朗、鍋嶋 泰典
上級医：戸田 紘一、長岡 孝太

4. 臨床研修プログラムの特色

本プログラムでは基礎的な先天性心疾患の診断学と治療及び集中治療、不整脈学、治療学を学ぶことができる。

週 1 回のカテーテルアブレーションおよび、週 3 回の心臓カテーテルを通して、心臓カテーテルの基本的操作から診断・治療まで幅広く網羅できるようになっている。また、日々の回診および病棟業務を通して患者ごとの幅広い病態を理解し、自ら診察・心エコー検査を行う事で診断技術の向上が可能となる。病棟業務には PICU 研修も含まれることから、薬物治療や呼吸管理を中心とした周術期管理についても学ぶ事ができる。

毎週行われる外科/麻酔科との合同カンファレンスでは、患者の手術適応とその時期、方法を共に検討する事で、小児循環器チームが全体としてどのように機能しているのかを学ぶ事ができる。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4 週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 受け持ち症例の病状病態と把握が正確に出来る。	()	()
2. 受け持ち症例の病歴や治療歴の把握が出来る。	()	()
3. 採血や点滴、PI ライン確保など基礎手技が出来る。	()	()
4. 不整脈の診断ができる。	()	()
5. 心エコーによるスクリーニングが出来る。	()	()

目標と評価表（8 週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 受け持ち症例の病状病態と把握が正確に出来る。	()	()
2. 受け持ち症例の病歴や治療歴の把握が出来る。	()	()
3. 採血や点滴、PI ライン確保など基礎手技が出来る	()	()
4. 不整脈の診断ができる。	()	()
5. 複雑心奇形疾患に対する心エコー診断がある程度可能。	()	()
6. 中心静脈穿刺・確保が出来る。	()	()
7. 強心剤の薬効理解と使用法	()	()
8. プロスタグランディン製剤の選択と適切な使用。	()	()

9. 心臓カテーテル検査の基本的操作が出来る。	() ()
10. 不整脈に対する適切な薬物を選択する。	() ()
11. 重症心不全に対する補助循環の管理ができる。	() ()

6. 研修方略 (LS)

- ・病棟業務においては、教授以下全ての診療スタッフが、小児心臓外科と協働しながら1つの診療チームとして患者の治療にあたる。
- ・研修医は、チームの一員として患者に対する病状評価・治療方針の決定プロセスに関わる。
- ・先天性心疾患という、極めて複雑な循環動態に対する論理的なアプローチの方法を学び、個々の病態・患者に対する最も適切な管理方法を学ぶ。
- ・研修医に対しては、教授・准教授・講師のみならず、助教も積極的に指導に関わる。
- ・心臓カテーテル検査およびカテーテル治療にも参加し小児に対する心臓カテーテルの基本を学ぶ。
- ・研修終了時点で、研修医が基本的な先天性心疾患に対する診断・管理・治療について深く理解できているように指導する。
- ・不整脈治療や重症心不全に対する管理についても、病棟での研修を通じて包括的に学ぶ。

7. 週間スケジュール (例)

	月	火	水	木	金	土
午前	回診 カテーテル アブレーション	回診 心臓カテーテル	回診 病棟研修 心臓カテーテル	回診 病棟研修	回診 心臓カテーテル	回診 病棟・外来 研修 カテーテル レビュー
午後	病棟実習 カテーテル カンファレンス	心臓カテーテル 外科/麻酔科 合同カンファレンス	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター
 心臓病センター 小児心臓科
 小島 拓朗 (診療部長、准教授)

画像診断科

○ 画像診断科の概要

1. 画像診断科の特色

各種画像検査の実施及び読影、並びに interventional radiology (IVR) を行っている。X線撮影・CT・MRI・超音波検査・造影検査など、画像診断機器は急速に進歩しており、さまざまな疾患の画像所見についての新たな知見も次々と積み重ねられて、そこから得られる情報は日々増大の一途である。こうした高度の画像診断技術を最大限に駆使して得られた画像に含まれる膨大な情報を正確に読み解くことは、もはや一般診療の片手間に行い得るような時代ではなく、質の高い医療の提供のためには画像診断に特化したスペシャリストの存在が不可欠となっている。

当科では、放射線診断専門医と診療放射線技師・看護師などの医療チームで画像検査を適切に施行し、得られた画像をすみやかに読影してレポートを作成し主治医に報告している。こうした画像診断レポートの存在は、臨床各科における迅速・正確な診断、治療方針の決定、さらには治療効果の判定に重要な役割を果たしている。すべての画像と読影レポートは専用サーバーに保管され、院内ネットワークを通じて各科の外来・病棟の電子カルテ端末から閲覧できるようになっている。

IVR 部門では、画像診断検査で用いられる技術の治療に応用し、特に穿刺やカテーテルを用いたさまざまな治療を行う。当科では、悪性腫瘍の治療（動脈塞栓術など）・外傷による動脈性出血の緊急止血・診断不明の病変に対する CT ガイド下の穿刺針生検などを担当している。

2. 診療・教育スタッフ

馬場 康貴（教授、診療部長）：画像診断一般、IVR

中澤 賢（准教授）：IVR 全般

宇佐見陽子（講師）：画像診断一般、IVR

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者：馬場 康貴（診療部長）

臨床研修指導医：馬場 康貴、宇佐見陽子

上級医：中澤 賢

4. 臨床研修プログラムの特色

本プログラムでの研修内容については研修医の希望に沿った調整が可能である。画像診断の各種検査および IVR を体験し、施行検査の報告書を作成し、指導医による指導を受ける。各種学会や研究会に参加し、最新の知見にも触れることができる。また、各種カンファレンスにも参加可能であり、実地診療に即応する知識を得ることができる。研修終了時には、指導医のもとで、症例報告を行う。

CT、MRI、など高度な画像診断装置が発達した現在医療では、将来どの診療科に所属するにしても画像診断との深いかわりを避けることはできないうえ、ある一定のレベルの画像診断能力は必須である。また、画像診断の深い知識を持っていることは臨床医にとって強みともなる。多くの研修医は、初期研修で広く全身、全分野を診る研修を希望しているが、画像診断部門の研修では、毎日頭部から足まであらゆる領域の疾患の画像を通し、全身をくまなく、またランダムに診ることができ、一人の患者さんを1つの臓器対象だけではなく、常に全身を対象にして診る訓練ができる。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 造影 CT、MRI の血管確保ができる。	()	()
2. 造影時の合併症に対応できる。	()	()
3. CT、MRI の適切な検査オーダーを出せる。	()	()
4. CT、MRI での画像解剖を理解し、病変の存在を指摘できる。	()	()
5. 頭部 CT、MRI で脳出血、脳梗塞の診断ができる。	()	()
6. 胸部 CT で肺癌のステージング診断ができる。	()	()
7. 腹部 CT で肝腫瘍の良悪性診断ができる。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 造影 CT、MRI の血管確保ができる。	()	()
2. 造影時の合併症に対応できる。	()	()
3. 造影剤使用禁忌について説明できる。	()	()
4. CT、MRI の適切な検査オーダーを出せる。	()	()
5. CT、MRI での画像解剖を理解し、病変の存在を指摘できる。	()	()
6. 頭部 CT、MRI で脳血管障害の診断ができる。	()	()
7. 胸部 CT で肺癌のステージング診断ができる。	()	()
8. 大動脈 CT で大動脈瘤、大動脈解離の読影ができる。	()	()
9. 腹部 CT で肝腫瘍の良悪性診断ができる。	()	()
10. 腹部 CT で消化器癌の読影ができる。	()	()
11. 腹部 CT で腎細胞癌、尿路上皮癌の読影ができる。	()	()
12. 骨盤 MRI で子宮頸癌、子宮体癌の読影ができる。	()	()
13. 腹部 CT で急性腹症の読影ができる。	()	()

6. 研修方略（LS）

- ・指導医とともに CT、MRI の検査現場に立ち会い、診療放射線技師・看護師とともに検査の実施に携わる。
- ・得られた多数の症例の画像を読影し、画像解剖の基本、所見の拾い上げ方、鑑別診断の考え方などについて、実際の画像に即して指導を受ける。
- ・カンファレンスなどを通じて、必要な周辺知識の習得に努め、症例のプレゼンテーションについても経験する。
- ・IVR の研修を希望する研修医の場合は、指導医とともに実施現場に入って助手を務め、治療方針の考え方や基本手技について指導を受ける。

7. 週間スケジュール（例）

上級医とともに CT、MRI、IVR の実施を経験し、安全・確実な検査を行うために必要な知識を学ぶ。
多数の症例を自ら読影し、画像解剖の知識、基本的な疾患の画像所見について指導を受ける。

（火）16:45-17:15 泌尿器腫瘍科画像カンファレンス

（火）17:30-18:00 画像診断症例カンファレンス

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学国際医療センター

画像診断科 宇佐見陽子（研修医長、講師）

核医学科

○ 核医学科の概要

1. 核医学科の特色

埼玉医科大学国際医療センターは、がん、心臓病に対する高度専門医療に特化し、かつ高度の救命救急医療を提供することを使命としている。そのため、悪性腫瘍、心疾患、脳血管障害を多く扱っており、核医学検査も腫瘍系、心臓系、脳神経系が主体となっている。当科では、SPECT/CT 装置 2 台、PET/CT 装置 3 台で診療を行っている。また医用サイクロトロン、ホットラボを有しており、院内で PET 製剤を合成して使用することができる。また、外来や入院での核医学治療も行っている。

2. 診療・教育スタッフ

久慈 一英（教授）：核医学
松坂 陽至（准教授）：核医学
瀬戸 陽（講師）：核医学

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者：久慈 一英（診療部長）
臨床研修指導医：久慈 一英、松坂 陽至
上級医：瀬戸 陽

4. 臨床研修プログラムの特色

当科での研修内容については研修医の希望に沿った調整が可能である。各種核医学検査および心臓画像診断を体験し、施行検査の報告書を作成し、指導医による指導を受ける。核医学治療の経験も得られる。研修期間中には各種学会や研究会に参加し、最新の知見にも触れることができる。研修終了時には、指導医のもとで症例報告を目指す。

核医学は放射線科領域の中でも専門性の高い分野であり、サブスペシャリティとしても重要である。当科では、専門指導医のマンツーマン指導の下で核医学の経験や知識を当院の豊富な臨床症例から広範に得ることができ、将来放射線科専門医のサブスペシャリティとして核医学専門医を志す研修医にとっては理想的な環境である。研修医は希望に応じて基本的な核医学診断から高度な研究的内容の核医学まで研修することができるので、核医学専門医として地域病院の担当専門医から高度専門病院での第一線の指導医まで将来のキャリアを目指すことも可能である。

また当科では心臓病センター兼務者が循環器分野の CT・MRI を一部担当しているため、核医学に加え CT、MRI の循環器画像診断に触れることも可能である。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4 週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 簡単な核医学検査の放射性医薬品投与ができる。	()	()
2. 核医学検査時の良くあるトラブルに対応できる。	()	()
3. 件数の多い核医学検査の適切な検査指示を出せる。	()	()
4. 件数の多い核医学検査での異常所見を指摘できる。	()	()
5. FDG-PET/CT で悪性腫瘍のレポート記載ができる。	()	()
6. 骨シンチグラフィで骨転移のレポート記載ができる。	()	()
7. FDG-PET/CT の検査の前処置を説明できる。	()	()

目標と評価表（8 週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 核医学検査の放射性医薬品投与が確実にできる。	()	()
2. 核医学検査時の大抵のトラブルに対応できる。	()	()
3. 5 種類以上の核医学検査の適切な検査指示を出せる。	()	()

4. 5 種類以上の核医学検査での異常所見を指摘できる。	()	()
5. 5 種類以上の核医学検査で種々の疾患のレポート記載ができる。	()	()
6. FDG-PET/CT で種々の疾患のレポート記載ができる。	()	()
7. 種々の核医学検査の前処置を説明できる。	()	()
8. 読影画像で重要性の高い所見を指摘できる。	()	()
9. 核医学治療を 2 つ以上挙げて、対象疾患と放射性医薬品をいえる。	()	()

6. 研修方略 (LS)

- ・核医学検査実施を見学する。
- ・核医学検査実施の要点のレクチャーを受ける。
- ・核医学検査の放射性医薬品投与を行う。
- ・核医学検査の正常画像と生理的集積についてテキストを参照しながら学ぶ。
- ・実際の核医学画像をみて 1 次レポートを記載する。
- ・記載した 1 次レポートについて指導医の修正とフィードバックを受ける。
- ・専門用語や所見については、読影しながらテキスト等を参照してきちんと調べる。
- ・核医学検査の放射性医薬品、実施方法、主要所見、対象疾患などをまとめる。
- ・興味深い症例があれば、指導医に相談して症例報告にまとめる。

7. 週間スケジュール (例)

	月	火	水	木	金	土
午前	脳血流 SPECT FDG-PET	負荷心筋 FDG-PET	MIBG、DAT FDG-PET	負荷心筋 FDG-PET	脳血流 SPECT FDG-PET	骨シンチ FDG-PET
午後	読影	読影	読影	読影	メチオニン 読影	読影 研究

・画像診断科や当該診療科が開催しており、興味があれば参加可能

- (月) 16:30-18:00 婦人科病理カンファレンス
- 16:30-18:00 脳卒中カンファレンス
- (火) 15:00-16:30 脳・脊髄腫瘍カンファレンス
- 18:00-18:50 泌尿器科カンファレンス
- 18:00-19:30 脳腫瘍病理カンファレンス 1 回/月
- (水) 7:30- 8:00 成人先天性心疾患カンファ (1 回/月)
- 18:00-19:00 乳腺腫瘍合同カンファレンス 1 回/月
- (木) 18:00-19:00 肝胆膵病理カンファレンス 1 回/月
- (金) 7:30- 8:30 肝胆膵カンファレンス
- 19:00-20:30 頭頸部病理カンファレンス 1 回/月
- (土) 8:30-10:00 呼吸器センター・放射線科・病理合同呼吸器肺縦隔腫瘍カンファレンス

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター
 核医学科 久慈 一英 (診療部長、教授)

リハビリテーション科

○ リハビリテーション科の概要

1. リハビリテーション科の特色

リハビリテーションは、障害をもった人々を最適な身体的、精神的、社会的、職業的、経済的な能力を発揮できる状態にし、可能な限り高い QOL を実現することを目標とする。すなわち、疾病による障害を十分に理解し、医学的治療と訓練、教育、経済的あるいは社会的援助を通じて、生活機能の回復を図る。リハビリテーション医療に必要な幅広い知識や技術は、医療全体をより人間的、社会的観点から捉えるため、必要不可欠である。当科の研修では、装具、嚥下造影検査、筋電図検査などの医療技術の見学、習得が可能である。入局者のみならず、全ての診療科からの研修を歓迎する。

リハビリテーション科が担当する疾患としては、脳卒中、心臓病、がん、の 3 大成人病が中心で、特に脳卒中、心臓病の患者さんは超急性期からの介入を行なっているのが特徴である。また、がんは、脳腫瘍、乳がん、骨軟部腫瘍、子宮がんなど、多くのがんに対応したリハビリテーションを早期から介入している。

2. 診療・教育スタッフ

高橋 秀寿（教 授）：脳卒中・がん・心臓リハビリテーション、小児リハビリテーション
田中 尚文（教 授）：脳卒中・がん・心臓リハビリテーション、認知症リハビリテーション
丸山 元（准教授）：脳卒中・がん・心臓リハビリテーション

ほか、専攻医 2 名

3. 研修責任者と臨床研修指導医

研修責任者：高橋 秀寿（診療部長）

臨床研修指導医：高橋 秀寿、田中 尚文、丸山 元

4. 臨床研修プログラムの特色

臨床研修プログラムにおいて自由選択研修または保健・医療行政としてリハビリテーション科を選ぶことができる。

国際医療センターは救命救急センター、心臓病センター、包括的がんセンターから構成され、先端医療の中で、急性期よりリハビリテーション臨床を実践できる世界でも数少ない施設である。発症早期よりリスク管理を行いながら、早期に社会復帰を行うべく、効率的なリハビリテーションプログラムを立案し、実践していけるような知識を身につける。

また、基幹病院としての役割を果たすべく、地域連携の中でリハビリテーション医療を研修できるようにする。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4 週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. リハビリ評価、計画、立案、リスク管理ができる。	()	()
2. 適切なリハビリ診療ができる。	()	()
3. 患者へのリハビリの予後の説明ができる。	()	()
4. 義肢装具の処方ができる。	()	()
5. 嚥下造影検査が実施できる。	()	()
6. 脳卒中の合併症と対応を実施できる。	()	()
7. 心臓リハビリテーションが理解できる。	()	()
8. がんのリハビリテーションが理解できる。	()	()
9. 標準感染予防策を実施することができる。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. リハビリ評価、計画、立案、リスク管理ができる。	()	()
2. 適切なリハビリ診察と処方ができる。	()	()
3. リハビリカンファレンスの司会ができる。	()	()
4. 患者へのリハビリの予後の説明ができる。	()	()
5. 義肢装具の処方、適合判定ができる。	()	()
6. 嚥下造影検査を実施し、初見を正確に読影できる。	()	()
7. 筋電図検査を理解し、神経伝導検査が実施できる。	()	()
8. 介護保険、障害者手帳の記入ができる。	()	()
9. 脳卒中の合併症と対応を実施できる。	()	()
10. 心臓リハビリテーションを理解して処方できる。	()	()
11. がんのリハビリテーションを理解して処方できる。	()	()
12. 標準感染予防策を実施することができる。	()	()

6. 研修方略（LS）

- ・患者さんと対面して、礼節をわきまえて、迅速で正確なリハビリ診察ができる。
- ・患者さんの障害の問題点を機能障害、能力低下、社会的不利に分けて記載できる。
- ・筋電図、嚥下造影検査の手技を理解し、検査結果を理解することができる。
- ・患者さんに必要な評価法を運動障害、知覚障害、嚥下障害、高次脳機能に分けて指示する。
- ・上記検査、評価を参考にして、適切なリハビリテーション処方ができる。
- ・患者さんの環境要因、社会的背景を理解して、適切なゴール設定ができる。

7. 週間スケジュール（例）

	月	火	水	木	金	土
午前	脳卒中合同カンファレンス 脳卒中リハビリ診察 リハビリ研究 テーマ検討会	回復期リハビリ 病院の見学 装具外来 ボツリヌス注射 見学	心臓リハビリ 診察 がんリハビリ 診察 CPX 見学 脳卒中リハビリ カンファレンス	合脳卒中合同 カンファレンス 嚥下造影検査 リハビリ 勉強会	脳卒中外科 カンファレンス 脳卒中リハビリ 診察 薫風園で回復期 リハビリ見学	病棟回診 がんリハビリ 診察 CPX 見学
午後	リハビリ講義	理学療法見学 嚥下造影検査	作業療法見学	回復期リハビリ 病院の見学 嚥下造影検査	言語療法見学 リハビリ診察	理学療法見学

脳卒中センター合同カンファレンス（週2回、月・木）

脳卒中リハビリカンファレンス（週1回）、脳卒中外科リハビリカンファレンス（週1回）

脳脊髄腫瘍科リハビリカンファレンス（月1回）

骨軟部腫瘍科カンファレンス（月1回）、造血管腫瘍科カンファレンス（隔週）

学外講師による統計学勉強会（月1回）、心臓リハビリテーション勉強会（月1回）

CPX：心肺運動負荷試験

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学国際医療センター

リハビリテーション科

高橋 秀寿（診療部長、教授）

麻酔科

○ 麻酔科の概要

1. 麻酔科の特色

手術中の麻酔科の役割は循環管理、呼吸管理、疼痛管理をすることである。意識のない患者に対し、生体モニターからの情報を元に判断し、適切な処置を行う。

またこれらの手技を習得することで手術麻酔以外にもペインクリニック、集中治療、緩和医療など多くの分野で応用することができる。

手術患者の術中管理を経験し、習得することは、病棟での患者の急変などの対応にも役立ち、どの科に進むことになっても役に立つと思われる。

2. 診療・教育スタッフ

北村 晶（教授）：総合麻酔部門、輸液・体液の研究、自律神経系機能の研究

辻田 美紀（教授）：小児心臓麻酔

中川 秀之（准教授）：心臓麻酔、神経ブロック

釜田 峰都（准教授）：小児心臓麻酔

関口 淳裕（講師）：心臓麻酔、麻酔全般

能美 隆臣（講師）：心臓麻酔、麻酔全般

ほか、助教 13 名

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者：北村 晶（診療部長）

臨床研修指導医：北村 晶、辻田 美紀、中川 秀之、釜田 峰都、関口 淳裕、能美 隆臣

足立 佳也

上級医：高橋有里恵、鈴木 真純、内田賢太郎

4. 臨床研修プログラムの特色

麻酔科研修の意義は、刻一刻と変化する生体情報を感知し、これに臨機応変に対処できる能力を習得する事である。気管挿管など気道確保の経験を積むと同時に、手術中の麻酔管理を通じて、循環動態の把握と適切な循環管理ができるようになることを研修の目標としている。

当院はがんセンター、心臓病センター、脳卒中センター、救急センターから成り立っており、各科様々な手術が行われている。ハイリスク患者の手術も多い。リスクの低い麻酔管理から重症患者や侵襲の大きな手術の麻酔管理まで経験することができる。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4 週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 手術患者の術前評価をし、麻酔計画を立てることができる。	()	()
2. 静脈、動脈穿刺カニューレーションができる。	()	()
3. マスクを用いた用手換気ができる。	()	()
4. 気管挿管ができる。	()	()
5. 人工呼吸器による呼吸管理ができる。	()	()
6. 麻酔中に使用する薬剤の説明ができる。	()	()
7. 術中の輸液管理ができる。	()	()

目標と評価表（8 週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 手術患者の術前評価をし、麻酔計画を立てることができる。	()	()
2. 静脈、動脈穿刺カニューレーションができる。	()	()
3. マスクを用いた用手換気ができる。	()	()

4. 気管挿管ができる。	()	()
5. 人工呼吸器による呼吸管理ができる。	()	()
6. 麻酔中に使用する薬剤の説明ができる。	()	()
7. 術中の輸液管理ができる。	()	()
8. 手術、患者の合わせたモニタリングができる。	()	()
9. 硬膜外麻酔を経験する。	()	()
10. 中心静脈ライン確保ができる。	()	()
11. 重症患者および心臓血管手術の麻酔管理を経験する。	()	()

6. 研修方略 (LS)

- ・全身麻酔の流れを把握する。
- ・担当患者の術前状態を把握し、上級医と相談し麻酔計画を立てる。
- ・手技がうまくいかなかった時は、できていなかったところを上級医に確認する。
- ・麻酔中に使用する薬剤の投与法、禁忌などを知る。

7. 週間スケジュール (例) ※毎日朝 8 時からカンファレンス

	月	火	水	木	金	土
午前	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔	手術麻酔
午後	手術麻酔 術前術後回診	手術麻酔 術前術後回診	手術麻酔 術前術後回診	手術麻酔 術前術後回診	手術麻酔 術前術後回診	手術麻酔 術前術後回診

- ・初期研修医の麻酔科当直はなし。

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター
 麻酔科 北村 晶 (診療部長、教授)

集中治療科

○ 集中治療科の概要

1. 集中治療科の特色

当科は集中治療を専門とした診療科であり、おもに ICU での重症患者、術後患者などの診療にあたる。現在は救命救急 ICU、心臓血管外科 ICU、がんセンターHCU での診療サポート業務が中心だが、RRS/RST、他の病棟、診療科からのコンサルテーションなどにも随時対応している。

集中治療室での診療は、呼吸管理、循環管理をはじめとして、中枢神経系、代謝系、血液凝固系、栄養管理など全身管理が特徴で、このような病態の治療には多くの職種、医療スタッフがかかわって進められている。多職種と連携してチーム医療を実践しつつ、これらの全身管理を学んでいく点が集中治療科の最大の特徴である。

また、研修中は他科で学ぶ機会の少ない高度な人工呼吸器管理について修得するよう特に努めている。

2. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者：古田島 太（診療部長、教授）

臨床研修指導医：古田島 太

3. 臨床研修プログラムの特色

重症患者、術後患者などの全身管理や、呼吸管理、循環管理、代謝管理などの基本を学ぶことができる。これらに必要な基礎的（生理学的、薬学的など）な知識、技術を身につけ、人工呼吸器は基礎的から高度な管理までを習得することができるプログラムである。

4. 目標と評価表

目標と評価表（4 週研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 循環系パラメータ（動脈圧、肺動脈圧、CVP、心拍出量など）の評価ができる。	()	()
2. 血液ガス分析を実施し、評価ができる。	()	()
3. 適切な酸素療法ができる。	()	()
4. 各種換気モードの違いを説明できる。	()	()
5. 指導医のもとで人工呼吸器ウィーニング、抜管ができる。	()	()
6. 指導医のもとで循環作動薬の調節ができる。	()	()
7. 人工呼吸中の鎮痛・鎮静を実施できる。	()	()
8. 動脈カニューレを留置し、観血的血圧測定の特徴を理解できる。	()	()
9. 各種血液浄化法を理解できる。	()	()
10. 感染予防対策を理解できる。	()	()

目標と評価表（8 週以上研修した場合）

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 循環系パラメータ（動脈圧、肺動脈圧、CVP、心拍出量など）の評価ができる。	()	()
2. 血液ガス分析を実施し、評価ができる。	()	()
3. 適切な酸素療法ができる。	()	()
4. 各種換気モードの違いを説明できる。	()	()
5. 指導医のもとで人工呼吸器ウィーニング、抜管ができる。	()	()
6. 指導医のもとで循環作動薬の調節ができる。	()	()
7. 人工呼吸中の鎮痛・鎮静を実施できる。	()	()
8. 動脈カニューレを留置し、観血的血圧測定の特徴を理解できる。	()	()
9. 各種血液浄化法を理解できる。	()	()
10. 感染予防対策を理解できる。	()	()
11. 指導医のもとで CV カテーテル留置ができる。	()	()
12. 指導医のもとで人工呼吸器の設定調節ができる。	()	()

13. 指導医のもとで PA カテーテルの留置ができる。	() () ()
14. 指導医のもとで FDL カテーテルの留置ができる。	() () ()
15. 指導医のもとで気管挿管ができる。	() () ()
16. ARDS を理解し、指導医のもとで基本的な呼吸管理ができる。	() () ()
17. 敗血症性ショックを理解し、 指導医のもとで国際ガイドラインに準拠した治療ができる。	() () ()
18. PCPS、VAS などの動作を理解できる。	() () ()
19. ペースメーカーの動作を理解できる。	() () ()
20. 栄養評価を行い、指導医のもとで適切な栄養管理ができる。	() () ()
21. 腎機能評価を行い、各種血液浄化法の適応を理解できる。	() () ()

5. 研修方略 (LS)

- ・ ICU 入室患者の診療とカルテ記載
- ・ 呼吸サポートチーム回診への参加 (火)
- ・ ICU リハビリテーションカンファレンスの参加 (火、金)
- ・ 救命救急科の朝、夕の引継ぎに参加
- ・ 心臓血管外科の回診への参加 (金)
- ・ ミニレクチャー、人工呼吸器実習

6. 週間スケジュール (例)

	8:30	午前	午後
月	引継ぎ、回診	ICU 診療	ICU 診療、引継ぎ
火	引継ぎ、回診	ICU 診療	RST 回診、引継ぎ
水	引継ぎ、回診	ICU 診療	ICU 診療、ミニレクチャー、引継ぎ
木	引継ぎ、回診	ICU 診療	ICU 診療、人工呼吸器実習、引継ぎ
金	7:30～心臓外科回診	ICU 診療	ICU 診療、まとめ、引継ぎ
土	引継ぎ、回診	ICU 診療	

7. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター
 集中治療科 古田 島 太 (診療部長、教授)

臨床検査医学

○ 臨床検査医学の概要

1. 臨床検査医学の特色

臨床検体を用いた血液、凝固、生化学、感染症、細菌、輸血検査などを高感度かつ高精度で実施できる臨床検査医学の体制を技師と一緒に構築している。生理機能検査の心電図、腹部超音波検査、心臓超音波検査、脳波などを臨床側のニーズに合う形で提供できる体制を整備する努力をしている。

現在、医師は3名（兼担1名）、検査技師は50余名で構成されている。

医師が日常的に行っている業務は、新しい検査導入のための基礎的検討における技師指導、腹部超音波検査・表在超音波検査の検査報告書の作成、骨髄像検査の報告書作成、検査トラブル発生時の臨床側への速やかな対応、部内の精度管理委員会と医療安全委員会の指導、院内の安全で適正な輸血管理や細胞療法などを担当している。

また、医学部5年生のBSL指導、医療学部生の卒業研究指導・大学院修士学生の指導（造血・再生医学に関する論文紹介）も行う。

一番大切にしたいと考えている医師の役割は、日常検査の中で遭遇した解析難解症例の解明に向けた取り組み、特徴のあるデータを集めて解析する研究活動を指導することである。臨床検査医学にふさわしいテーマを決めて残余検体を用いた臨床研究、あるいは若干の介入を伴う前向き臨床研究も推進している。

2. 診療・教育スタッフ

海老原康博（教授）

石田 明（輸血・細胞移植部：教授）

松岡佐保子（輸血・細胞移植部：准教授）

3. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医

研修責任者：海老原康博

臨床研修指導医：海老原康博

上級医：石田 明

松岡佐保子

4. 臨床研修プログラムの特色

a) 骨髄像、細菌検査、輸血検査など検体検査の実技が習得できるコース

b) 腹部・表在・心臓・血管超音波検査の実技を習得することを主たる目的とするコース。

以上の2つのコースがある。

5. 目標と評価表

目標と評価表（4週研修した場合）aコース

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 検査の原理が理解できる。	()	()
2. 検査の基本的な実技ができる。	()	()
3. 骨髄像が読める。	()	()
4. 細菌のグラム染色と顕微鏡観察ができる。	()	()
5. 輸血検査が間違いなくできる。	()	()
6. 臨床病理検討会に参加する。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）aコース

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 検査の原理が理解できる。	()	()
2. 検査の基本的な実技ができる。	()	()
3. 骨髄像が読める。	()	()
4. 白血病の骨髄像診断ができる。	()	()
5. 細菌のグラム染色と顕微鏡観察ができる。	()	()

6. 輸血検査が間違いなくできる。	()	()
7. 自己血採血ができる。	()	()
8. 臨床病理検討会に参加する。	()	()

目標と評価表（4週研修した場合）bコース

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 検査の原理が理解できる。	()	()
2. 検査の基本的な実技ができる。	()	()
3. 腹部超音波検査が支援できる。	()	()
4. 心臓超音波検査が支援できる。	()	()
5. 臨床病理検討会に参加する。	()	()

目標と評価表（8週以上研修した場合）bコース

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 検査の原理が理解できる。	()	()
2. 検査の基本的な実技ができる。	()	()
3. 腹部超音波検査が一人でできる。	()	()
4. 心臓超音波検査が一人でできる。	()	()
5. 臨床病理検討会に参加する。	()	()

6. 研修方略（LS）

- ・診療科の性質上、まずは中央検査部で通常行っている業務を見学する。
- ・臨床検査技師の指導とともに検査のその原理を理解し、手技の習得に努める。
- ・研修医の興味のある分野を重点的に研修することも可能である。
- ・指導医や技師とのコミュニケーションを大切にして、自由に討論して、自身の能力向上に努める。

7. 週間スケジュール（例）

本人の希望を聞き、研修計画を立案し、a) b) それぞれのコースに沿って研修する。

①骨髄像検査、②細菌検査、③検体検査、④輸血検査、⑤腹部エコー、⑥心臓エコー検査を、可能な範囲で並行して研修できるスケジュールを立てる。

一例として、前半を腹部・表在、後半を心臓・血管超音波検査と系統立てて研修する。

	AM	PM
月	腹部超音波検査	腹部超音波検査
火	腹部超音波検査	表在・甲状腺超音波検査
水	乳腺超音波検査	乳腺超音波検査
木	心臓超音波検査	心臓超音波検査
金	心臓超音波検査	血管超音波検査
土	腹部または心臓超音波検査	自習

研修期間の前半を腹部・表在、後半を心臓・血管超音波検査と系統立てて研修することも可能。

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
 埼玉医科大学国際医療センター
 臨床検査医学 海老原 康博（教授）

3. 補 足

埼玉医科大学病院（協力型臨床研修病院）

1. 埼玉医科大学病院の概要

埼玉医科大学病院は昭和 47 年 8 月に埼玉県入間郡毛呂山町に開設、埼玉県西部及び北部地域を中心に埼玉県全域を守備範囲とする特定機能病院で、日本医療機能評価機構による認定病院でもある。「すべては患者さんのために (Patient Oriented)」をスローガンに全人的で安心を与える質の高い医療の提供に全医療スタッフの最大限の努力がなされている。平均在院日数 11.9 日の急性期病院として、また地域医療基幹病院として地域医療にも力を入れている。年間の入院患者数も多く、救急患者の割合も多いことから、新しい臨床研修制度の目標とするプライマリ・ケアや全人的医療の研修を行うに最適と考えられる。毎月研修医委員会が行われており、診療部長クラスの医師が参加し、研修医を全病院で指導する体制が整っている。

2. 病院長および研修実施責任者

病院長：篠塚 望（臨床研修指導医）

研修実施責任者：井上 勉（臨床研修指導医）

3. 診療科

血液内科、感染症科・感染制御科、リウマチ膠原病科、呼吸器内科、消化器内科・肝臓内科、内分泌内科・糖尿病内科、脳神経内科・脳卒中内科、腎臓内科、総合診療内科、神経精神科・心療内科、小児科（小児科、新生児科）、消化器・一般外科、乳腺腫瘍科、小児外科、脳神経外科、整形外科・脊椎外科、形成外科・美容外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、神経耳科、産科・婦人科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、臨床検査医学、中央病理診断部、輸血・細胞移植部、緩和医療科

※ 各診療科における指導医については、埼玉医科大学病院臨床研修プログラムを参照。

4. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターのすべての臨床研修プログラムでは、埼玉医科大学病院の診療科を研修することができる。

※ 各診療科における研修プログラムの詳細は、埼玉医科大学病院臨床研修プログラムを参照。

5. 研修に関する問い合わせ先

〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

埼玉医科大学病院

臨床研修センター

TEL : 049-276-1862

FAX : 049-276-2149

埼玉医科大学総合医療センター（協力型臨床研修病院）

1. 埼玉医科大学総合医療センターの概要

埼玉医科大学総合医療センターは高度医療を提供する医師の医育機関として昭和 60 年に開設され、国内でも有数の規模を誇る三次専門の高度救命救急センターと総合周産期母子医療センターを併せ持つ地域支援型の第三次医療施設である。標榜診療科数 38 科、病床数 1,053 床、外来患者は 1 日 1,900 名を超える埼玉県有数の総合病院として、高度医療を幅広く提供するばかりでなく、急性期医療を幅広く受け入れ、地域救急医療や災害時医療においても中核的役割を果たしている。

2. 病院長および研修実施責任者

病院長：別宮 好文（臨床研修指導医）

研修実施責任者：高橋 健夫（臨床研修指導医）

3. 診療部門

消化器・肝臓内科、内分泌・糖尿病内科、血液内科、リウマチ・膠原病内科、心臓内科、呼吸器内科、腎・高血圧内科（血液浄化センター）、脳神経内科、総合診療内科/感染症科・感染制御科、メンタルクリニック（精神科）、小児科・新生児科、消化管外科・一般外科、肝胆膵外科・小児外科、呼吸器外科、心臓血管外科、血管外科、ブレストケア科、脳神経外科、整形外科、形成外科・美容外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科（画像診断科・核医学科、放射線腫瘍科）、麻酔科（麻酔科、産科麻酔科）、高度救命救急センター・救急科（ER）、病理部、輸血部

※ 各診療科における指導医については、埼玉医科大学総合医療センター臨床研修プログラムを参照。

4. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センター（基幹型臨床研修病院）の臨床研修プログラムにおける協力型臨床研修病院として、3 病院自由選択プログラムをはじめとする全プログラムにおいて研修 1 年目より選択が可能である。

当院における臨床研修プログラムは、一般臨床医に求められるプライマリ・ケアに必要な基礎的知識・技能を修得すると共に、患者ならびに家族から信頼される医師としてふさわしい態度と倫理観を養い、同時に診療行為における厳しい責任と義務を理解することを目的としている。

※ 各診療科における研修プログラムの詳細は、埼玉医科大学総合医療センター臨床研修プログラムを参照。

5. 研修に関する問い合わせ先

〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981

埼玉医科大学総合医療センター

臨床研修センター

TEL：049-228-3802

社会医療法人財団慈泉会 相澤病院（協力型臨床研修病院）

1. 相澤病院の概要

病院名	社会医療法人財団慈泉会 相澤病院
病院長名	相澤 克之
住 所	〒390-8510 長野県松本市本庄 2-5-1
電 話	0263-33-8600 F A X 0263-32-6763
U R L	https://aizawahospital.jp/
病院開設日	昭和 27 年 1 月 16 日
病床数	460 床
職員数	2,063 人
常勤医師	164 人（指導医養成講習会受講指導医 76 人）

< 公的機関認定・指定／救急・災害医療認定・指定／病院機能に基づいた認定・指定 >

地域医療支援病院
地域がん診療連携拠点病院
関東甲信越地域小児がん連携病院
地域災害拠点病院
基幹型臨床研修病院
卒後臨床研修評価機構認定施設
日本医療機能評価機構認定施設
救急告示病院
二次救急医療指定施設
救命救急センター
長野県災害派遣医療チーム（長野県 DMAT）指定病院

< 2024 年実績 >

一日平均外来患者数	824.0 人
平均在院日数	12.3 日
手術件数	4,989 件
救急患者数	35,395 人
救急車搬送台数	7,406 台
ヘリコプター飛来数	102 機

2. 病院長および研修実施責任者

病院長：相澤 克之（臨床研修指導医）
研修実施責任者：宮内 直人（臨床研修指導医）

3. 標榜診療科

内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、呼吸器内科、人工透析内科、腎臓内科、疼痛緩和内科、総合内科、糖尿病内科、内視鏡内科、外科、気管食道外科、呼吸器外科、形成外科、歯科口腔外科、消化器外科、小児外科、心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、乳腺外科、眼科、救急科、産婦人科、腫瘍精神科、耳鼻いんこう科、小児科、精神科、泌尿器科、病理診断科、放射線診断科、放射線治療科、皮膚科、麻酔科、リウマチ科、リハビリテーション科、臨床検査科

※ 各診療科における指導医については、相澤病院臨床研修プログラムを参照。

4. 臨床研修プログラムの特色

相澤病院の臨床研修の特徴は以下の通りである。

- (1) 救急患者の初期診療を重視している。
- (2) 地域の中核病院であり、臨床症例が豊富である。
- (3) チーム医療を通じて全人的医療を身につける研修を行う。
- (4) カンファレンスの充実によって、研修のまとめ・目標を再確認しつつ効果を上げる。
- (5) シミュレーション施設が充実している。
- (6) 医学英語研修を重視することにより最新情報の習得ならびに将来の医学研究者・グローバルな

感覚を持った医師を育成している。

(7) 個人面談やチューター制等、精神面を含めた個別的サポート体制が整っている。

(8) 研修医の自主性を重視している。

(9) 指導医有資格者の増員に努め、質の高い研修を目指している。

※ 各診療科における研修プログラムの詳細は、相澤病院卒後臨床研修プログラムを参照。

5. 研修に関する問い合わせ先

〒390-8510 長野県松本市本庄 2-5-1

社会医療法人財団慈泉会 相澤病院

医学研修部門 事務課

TEL : 0263-33-8600

FAX : 0263-33-8716

独立行政法人国立病院機構 埼玉病院（協力型臨床研修病院）

1. 独立行政法人国立病院機構埼玉病院の概要

当院は地域に根ざした中核病院として、国や埼玉県より地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、循環器病基幹医療施設、肝疾患診療地区拠点病院として指定を受けている。また2015年10月より地域周産期母子医療センターに指定され、小児・周産期医療も推進している。そして更なる機能向上のため、2018年11月に新館200床を開棟し、2021年には救命救急センターに指定された。また地元医師会と連携し、MRIやCTの共同利用を推進するとともに、定期的に合同カンファレンスを実施するなど、近隣病院、診療所から紹介される患者数も増加している。現在職員一丸となって質の高い医療を行っており、東京都に近接する和光市にあるため、都心からのアクセスも良好である。

2. 病院長および研修実施責任者

病院長：細田 泰雄（臨床研修指導医）

研修実施責任者：上牧 勇（副院長、臨床研修指導医）

3. 診療科

総合診療科、内科、緩和ケア内科、精神科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腫瘍内科、腎臓内科、外科、乳腺外科、小児科、小児外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、リハビリテーション科、麻酔科、放射線科、病理診断科、救急科、腎臓内科、血液・膠原病内科、糖尿病内科、歯科口腔外科

※ 各診療科における指導医については、独立行政法人国立病院機構埼玉病院 臨床研修プログラムを参照。

4. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターのすべての臨床研修プログラムでは、独立行政法人国立病院機構埼玉病院の診療科（消化器内科、神経内科、小児科）を研修することができる。

※ 各診療科における研修プログラムの詳細は、独立行政法人国立病院機構埼玉病院 臨床研修プログラムを参照。

5. 研修に関する問い合わせ先

〒351-0102 埼玉県和光市諏訪 2-1

独立行政法人国立病院機構 埼玉病院

医療支援室 研修医事務担当

TEL：048-462-1101

FAX：048-464-1138

さいたま市立病院（協力型臨床研修病院）

1. さいたま市立病院の概要

人口 134 万人を有するさいたま市の基幹病院である当院は、プライマリ・ケアから各専門領域での高いレベルの医療まで幅広い医療サービスを提供しており、common disease から学会発表につながる稀な疾患まで豊富な症例を経験することができる。内科は消化器、循環器、脳神経、呼吸器、腎内分泌代謝、血液、膠原病、感染の各分野をカバーしており、外科は一般・血管外科、消化器外科、小児外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科が高いレベルの手術を行っている。地域周産期母子医療センターを設置し周産期医療、小児医療にも力を入れている。救急医療では一次・二次救急に加え、令和 2 年 12 月に救命救急センターが開設され、幅広い疾患に対応している。そのほか、緩和ケア病棟、精神科身体合併症病棟の設置など充実した医療設備を持ち、安心して安全な医療を提供している。

2. 病院長および研修実施責任者

病院長：朝見 淳規

研修実施責任者：明石 真幸（臨床研修指導医）

3. 診療科

内科、血液内科、消化器内科、呼吸器内科、精神科、脳神経内科、循環器内科、小児科、新生児内科、外科、消化器外科、血管外科、呼吸器外科、整形外科、リハビリテーション科、脳神経外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、救急科、病理診断科、緩和ケア内科

※ 各診療科における指導医については、さいたま市立病院初期臨床研修プログラムを参照。

4. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターの臨床研修プログラムでは、さいたま市立病院の診療科（呼吸器内科、脳神経内科、産婦人科、小児科）を研修することができる。

※ 各診療科における研修プログラムの詳細は、さいたま市立病院初期臨床研修プログラムを参照。

5. 研修に関する問い合わせ先

〒336-8522 埼玉県さいたま市緑区三室 2460 番地

さいたま市立病院

病院総務課職員係

TEL：048-873-4217

FAX：048-873-5451

社会医療法人 熊谷総合病院（協力型臨床研修病院）

1. 社会医療法人 熊谷総合病院の概要

当院は、地域の中核病院として、周辺医療機関との地域医療連携に努めており、プライマリ・ケアをはじめとした様々な疾患を経験する事で、基本的診療能力をより効率的に研修医が身に付けられるように企画されている。病床数に対し比較的少ない研修医定員としており、密度の高い研修を受けることができる。

2. 病院長および研修実施責任者

病院長：今野 慎（臨床研修指導医）

研修実施責任者：濱田 英明（臨床研修指導医）

3. 診療科

内科一般、消化器内科、腎臓内科、呼吸器内科、循環器内科、神経内科、総合診療科、外科、整形外科、脳神経外科、小児科、産婦人科、泌尿器科、皮膚科、形成外科、耳鼻咽喉科、眼科、放射線科

※ 各診療科における指導医については、熊谷総合病院臨床研修プログラムを参照。

4. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターの臨床研修プログラムでは、熊谷総合病院の診療科（消化器内科、循環器内科、整形外科、脳神経外科、小児科、産婦人科（※周産期は取り扱っていない）、麻酔科）を研修することができる。

※ 各診療科における研修プログラムの詳細は、熊谷総合病院臨床研修プログラムを参照。

5. 研修に関する問い合わせ先

〒360-8567 埼玉県熊谷市中西 4-5-1

社会医療法人 熊谷総合病院

総務課 医局秘書

TEL：048-521-0065

FAX：048-523-5928

社会医療法人社団 埼玉巨樹の会 新久喜総合病院（協力型臨床研修病院）

1. 社会医療法人社団 埼玉巨樹の会 新久喜総合病院の概要

当院は埼玉県久喜市、利根医療圏に位置する病院である。平成 28 年 4 月に移譲を受け新久喜総合病院として新たにスタートした。

埼玉県は人口あたりの医師数が少ない県であり、さらに当院が位置する利根医療圏は其中でも医師の少ない地域といわれている。その中で地域に根ざした救急医療と各科の専門の医療に力をいれるべく体制を整えており、さらに地域医療機関と連携を図りつつ急性期医療の診療を行っている。

当院の研修では救急医療を中心として多くの症例を研修医がファーストタッチを行う。common disease はもちろんのこと、各科の専門の医療も経験でき、研修医が主体性を持って研修を行っている。多くの症例を経験し、基本的な診療能力を身に付け、ジェネラルな対応を求められる場面でも対応出来る医師を目指している。

2. 病院長および研修実施責任者

病院長：秋元 寿文（臨床研修指導医）

研修実施責任者：信太 薫（統括診療部長兼形成外科部長、臨床研修指導医）

3. 診療科

内科、外科

※ 各診療科における指導医については、新久喜総合病院臨床研修プログラムを参照。

4. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターのすべてのプログラムにおいて、内科は総合内科、消化器内科、循環器内科、神経内科を選択し研修が可能である。外科は心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、外科を選択し研修が可能である。当院は特に救急医療に力をいれており各科、救急科と連携した高度な医療を学ぶことができる。

※ 各診療科における研修プログラムの詳細は、新久喜総合病院臨床研修プログラムを参照。

5. 研修に関する問い合わせ先

〒346-8530 埼玉県久喜市上早見 418-1

社会医療法人社団 埼玉巨樹の会 新久喜総合病院

総務課 臨床研修担当

TEL：0480-26-0033

FAX：0480-44-8026

社会医療法人壮幸会 行田総合病院(協力型臨床研修病院)

1. 社会医療法人壮幸会 行田総合病院の概要

当院は地域医療支援病院、災害拠点病院、がん診療指定病院、埼玉県救急搬送困難事案受入病院の指定を受けている。一部診療科を除き、大学からの派遣はなく総合医局制度を敷いているため、診療科の横断的なコミュニケーションが可能でやりたい治療を実践できる環境である。

北部メディカルコントロール（MC）の埼玉県救急搬送困難事案受入病院に指定され、埼玉県北西部・北部の救急搬送の広域を担っているため、救急受け入れ件数は地域 No. 1（年間 5,500 件以上）であり、多様な症例を経験することができる病院である。また、地域のかかりつけ医として感冒や各種諸症状の初期診療の体制も充実、ケアミックス型の病院で、急性期から慢性期まで完結型の医療を行っている。

2. 病院長および研修実施責任者

院長：坂野 孝史（臨床研修指導医）

研修実施責任者：林 暁（臨床研修指導医）

3. 研修可能な診療科

内科、外科、泌尿器科

※ 各診療科における指導医については、行田総合病院臨床研修プログラムを参照。

4. 臨床研修プログラムの特色

埼玉県北部の中核病院のため、症例が集まり、採用する研修医は少人数の為、一人一人が多くの手技を経験できる環境にある。また、外科系の指導医や専門医が多数在籍しているため、多角的な視点で指導を受けられる。

その他、内科系も各専門医が揃っているため、「身近にあって、何でも相談にのってくれる総合的な医療」「プライマリ・ケア」を経験することができる。

※ 各診療科における研修プログラムの詳細は、行田総合病院臨床研修プログラムを参照。

5. 研修に関する問い合わせ先

〒361-0056 埼玉県行田市持田 376 番地

社会医療法人壮幸会 行田総合病院

医療推進課

TEL：048-552-1111

日本赤十字社 小川赤十字病院（協力型臨床研修病院）

1. 日本赤十字社 小川赤十字病院の概要

設立：昭和 14 年 5 月 27 日

病床数：302 床（一般 252 床、精神 50 床（休床））

2. 病院長および研修実施責任者

病院長：竹ノ谷 正徳

研修実施責任者：吉田 佳弘（臨床研修指導医）

3. 標榜診療科

内科、循環器科、呼吸器科、リウマチ科、精神・神経科、外科、消化器科、乳腺・内分泌外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、麻酔科、放射線科

※ 各診療科における指導医については、小川赤十字病院臨床研修プログラムを参照。

4. 臨床研修プログラムの特色

地域の中核病院として初診から最終転帰に至るまで当院で一貫して診察を行うケースも多く、全人的な医療、プライマリ・ケアを研修することに適している環境にある。また、赤十字病院としての特色を活かし、救護班（医療チーム）を被災地へ派遣するなど、災害に備えた体制を整え、職員への教育を行っている。当院での臨床研修の目標は、赤十字の使命である「人道」に基づき展開される全人的医療を行う中で、将来にわたり必要となってくる基本的診療能力（知識・技能・基本的態度）及び医師としての人格の涵養にある。

※ 各診療科における研修プログラムの詳細は、小川赤十字病院臨床研修プログラムを参照。

5. 研修に関する問い合わせ先

〒355-0397 埼玉県比企郡小川町小川 1525

日本赤十字社 小川赤十字病院

事務部 総務課

TEL：0493-72-2333

FAX：0493-72-2755

日本赤十字社 栃木県支部 足利赤十字病院（協力型臨床研修病院）

1. 日本赤十字社 栃木県支部 足利赤十字病院の概要

当院は、栃木県南西部に位置し、隣接の佐野市から群馬県桐生市・館林市に及ぶ両毛医療圏の中核病院である。最新設備を整えた3次救命救急センター、一般病棟全室個室、ハイブリッド手術室、回復期リハ病棟を備えた540床の総合病院である。実態として1次医療から3次医療まで併せ持つ高機能病院として県内外の医療ニーズに対応している。

紹介率は約74%以上を維持しており、平均在院日数も14.5日以内となり、地域の医療機関の機能分担と連携の促進がなされている地域医療支援病院である。

独立採算であり、良好な経営病院である。

2. 病院長および研修実施責任者

院長：室久 俊光（臨床研修指導医）

研修実施責任者：室久 俊光（臨床研修指導医）

3. 標榜診療科

神経内科、消化器内科、腎臓内科、呼吸器内科、総合診療科、神経精神科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、麻酔科、歯科口腔外科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、緩和ケア内科、救急科、病理診断科

※ 各診療科における指導医については、足利赤十字病院臨床研修プログラムを参照。

4. 臨床研修プログラムの特色

医師としての人格を涵養し、将来の専門性にかかわらず、医学・医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対処できるよう、プライマリ・ケアの基本的能力（態度、技能、知識）を身につける。

本院は、近代医療設備を整えた第一線の病院であるとともに日本内科学会の専門医教育指定病院をはじめ、23学会の教育・研修施設として認定されている地域基幹病院である。さらにエイズ診療拠点病院の指定を受け、県内外からのエイズ診療も行っている。このように、臨床研修プログラムを実行する上で、十分に対応できる体制にある。

研修プログラムによって、救命救急を含めた先進医療についても学ぶことが出来る。そしてプライマリ・ケアを中心とした基礎的臨床を学ばせ、豊富な臨床症例をもとに迅速かつ適切な判断力と診断能力がつくようにプログラムされている。チーム医療の中で協調性を培い、全人的医療を実行できる研修医の育成も目的としている。卒後2年間の臨床研修として将来、プライマリ・ケアに対処し得る第一線の優秀な臨床医の育成を目指し、医師として成長するために心技両面からの教育を行うことを目的とする。

※ 各診療科における研修プログラムの詳細は、足利赤十字病院臨床研修プログラムを参照。

5. 研修に関する問い合わせ先

〒326-0843 栃木県足利市五十部町 284-1

日本赤十字社 栃木県支部 足利赤十字病院

事務部 教育研修管理課

TEL：0284-21-0121

FAX：0284-22-0225

横浜市立市民病院（協力型臨床研修病院）

1. 横浜市立市民病院の概要

当院は令和2年5月に新病院に移転し、横浜市の基幹病院としてさらに急性期医療に積極的に取り組むとともに、救命救急センター、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療連携病院、第一種感染症指定医療機関、国の地域周産期母子医療センターに指定されているなど、日常よく遭遇するcommon diseaseから高度な医療を必要とする重症患者や難治性疾患まで十分な経験を積むことができる。また、34の診療科があり、各分野の専門医にconsultationができ、直接の指導を受けることができる。当院はやる気のある研修医にとって最高の研修環境の提供ができる病院である。

2. 病院長および研修実施責任者

病院長：中澤 明尋

研修実施責任者：仲里 朝周（臨床研修指導医）

3. 標榜診療科

【内科系】腎臓内科、糖尿病リウマチ内科、血液内科、腫瘍内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、感染症内科、緩和ケア内科

【外科】消化器外科、炎症性腸疾患（IBD）科

【小児科】小児科

【救 急】救急診療科

【麻酔科】麻酔科（ICU）

【その他】乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、救急脳神経外科、脳血管内治療科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、神経精神科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、歯科口腔外科、病理診断科

（全 34 診療科）

※ 各診療科における指導医については、横浜市立市民病院臨床研修プログラムを参照。

4. 臨床研修プログラムの特色

研修理念「自ら学ぶ志高き医師であり、全ての人々の想いを慮る誠実な人間であれ」のもと、医師として基本的な診療能力を身につけ、一社会人として感謝の気持ちを忘れず日々成長する初期研修医の育成を目的としている。

埼玉医科大学国際医療センターの臨床研修プログラムでは、当院の診療科（小児科、産婦人科）を研修することができる。

※ 各診療科における研修プログラムの詳細は、横浜市立市民病院臨床研修プログラムを参照。

5. 研修に関する問い合わせ先

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町 1 番 1 号

横浜市立市民病院

総務課職員係

TEL：045-316-4580

医療法人立川メディカルセンター 立川総合病院（協力型臨床研修病院）

1. 医療法人立川メディカルセンター 立川総合病院の概要

平成 28 年 11 月に新築移転。長岡市救急受け入れ 3 病院の中の一隅を成し、年間で約 4,000 件の救急搬送件がある。なかでも循環器系は 2 次医療圏外からの救急搬送も多い。屋上にヘリポートを備えており、月に約 10 件のドクヘリ搬送がある。循環器・脳血管センターを擁し、入院、外来ともに循環器疾患患者の占める割合が高い。80 列&320 列マルチスライス CT や 1.5T&3T の MRI 等の最新医療機器の導入に努力している。新潟県内で初となるハイブリッド手術室を設置し、TAVI 認定施設県内第 1 号となっている。

医師の半数は新潟大学以外の出身で占められ、県外の情報も得やすい。医局はオープンフロアオフィス型で研修医もこの中にデスクがあり、年代や科を越えてのコミュニケーションが取りやすい環境である。コメディカルが協力的である。

2. 病院長および研修実施責任者

病院長：岡部 正明（臨床研修指導医）

研修実施責任者：遠藤 彦聖（臨床研修指導医）

3. 診療科

内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、緩和ケア内科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、放射線科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科

※ 各診療科における指導医については、立川総合病院臨床研修プログラムを参照。

4. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターの臨床研修プログラムでは、立川総合病院の診療科（小児科、産婦人科）を研修することができる。

※ 各診療科における研修プログラムの詳細は、立川総合病院臨床研修プログラムを参照。

5. 研修に関する問い合わせ先

〒940-8621 新潟県長岡市旭岡 1 丁目 24 番地

医療法人立川メディカルセンター 立川総合病院

人事開発課

TEL : 0258-33-3111

FAX : 0258-33-8811

SUBARU 健康保険組合 太田記念病院（協力型臨床研修病院）

1. SUBARU 健康保険組合 太田記念病院の概要

当院のある太田市は、群馬県東毛地区にある人口約 22 万人の工業都市である。当院は太田市最大の総合病院であり、市民病院のないこの地域での中心的施設である。したがって、各科とも common disease から専門的治療を必要とする疾患をバランスよく経験することができる。各科とも救急患者が多く、年間約 5,900 台の救急車を受け入れており、研修医が内科や小児科を中心としたプライマリ・ケアを学ぶのに非常によい環境である。さらに循環器内科、消化器内科、外科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科などの専門的治療のレベルも高く、多くの手術症例もある。また、若年人口の割合が比較的高く、小児救急医療の需要が非常に多い地域である。

- ・総病床数 404 床
一般 400 床（一般 354 床、ICU・CCU 12 床、NICU 6 床、HCU 10 床、健診 18 床）
感染症病床 4 床
- ・職員数 1,060 名

2. 病院長および研修実施責任者

病院長：有野 浩司（臨床研修指導医）

研修実施責任者：長野 拓郎（臨床研修指導医）

3. 標榜診療科

内科、消化器内科、呼吸器内科、内分泌内科、循環器内科、脳神経内科、心療内科、腎臓内科、泌尿器科、産婦人科、小児科、小児外科、外科、乳腺外科、呼吸器外科、血管外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、腎臓外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、救急科、リハビリテーション科、麻酔科（ペインクリニック）、放射線科、病理診断科、歯科口腔外科、精神科、臨床検査科

※ 各診療科における指導医については、太田記念病院臨床研修プログラムを参照。

4. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターの臨床研修プログラムでは、当院の診療科（消化器内科、循環器内科、脳神経外科、小児科）を研修することができる。

3 次救急病院でありながら、年次 7 名を上限として少数精鋭、実践重視で密度の高い研修指導を行っている。

また「人間性豊かな臨床の実践」を目指し、いわゆるプライマリ・ケアを行うための基本的な知識と技術を習得すると共に患者様とのコミュニケーションを大切にする意識を養成する。各専門科の基本的な知識も学び、それらの知識を統合し、あたたかい思いやりの心を持った全人的な疾患を持つ人の見方を習得し、実践できる医師の養成を目標としている。

※ 各診療科における研修プログラムの詳細は、太田記念病院臨床研修プログラムを参照。

5. 研修に関する問い合わせ先

〒373-8585 群馬県太田市大島町 455 番地 1

SUBARU 健康保険組合 太田記念病院

企画管理部 人事課

TEL：0276-55-2200

FAX：0276-55-2205

地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立循環器・呼吸器病センター（協力型臨床研修病院）

1. 地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立循環器・呼吸器病センターの概要

当センターは、埼玉県における循環器系疾患及び呼吸器系疾患の中核医療機関として高度専門医療を担当するため、原則として医療機関からの紹介に基づくものとしており、当センターでの専門的な診断及び治療を終えたときは紹介元の医療機関に逆紹介し経過観察とすることで、地域の医療機関との役割分担を図っている。

また、地域医療支援病院として知事の承認を受け、紹介患者に対する医療提供、医療機器の共同利用等の実施を通じて埼玉県北部地域の医療機関を支援し、効率的な医療提供体制の構築を図っている。

＜センターの性格と役割＞

- ① 循環器疾患に関する中核機関としての役割を果たすため、心臓疾患、大血管疾患、脳血管疾患等循環器系疾患に関する高度医療を担当する専門病院とする。
- ② 呼吸器系疾患に関しては、公的な結核医療施設としての機能を残しながら、呼吸器系疾患全般についての高度医療を担当する施設として、一層の整備をしていくこととする。
- ③ 循環器系疾患及び呼吸器系疾患に関する医療の中核機関としての機能を十分に発揮するため、医師の紹介制とする。
- ④ 診断・治療法の研究並びに地域医療の向上を図るため、疫学調査の実施に努めることとする。
- ⑤ 医療の向上や効率化に資するため、病院や診療所との連携を図り、いわゆる病診連携を強固なものにする。さらに、オープンシステムを目指すこととする。
- ⑥ 循環器系疾患の特殊性を考慮し、重症で緊急な処置を必要とする患者に対応するため、診療時間外でも対応できるものとする。

＜業務の特色＞

院内では、検査・診断・治療などが分野ごとに専門分化するとともに、これらを綿密な連携の下に統合し、患者の全体像を把握・判断していくことが要求されている。このため、当センターでは、クリニカル・カンファレンスや病棟カンファレンスなどにより医療スタッフ間のコミュニケーションを図るなど、医師や看護、検査、放射線、薬剤、栄養等の医療スタッフが協力して治療に当たるチーム医療を実践している。

病棟業務に関しては、高度医療の提供はもとより、患者のクオリティ・オブ・ライフにも配慮した「患者さん中心の医療」を実現するため、チーム医療を推進するとともに、患者及び家族の社会的、経済的問題にも適切に対処できるよう医療ソーシャルワーカーが相談に応じ、患者サイドに立った総合的な医療を行っている。

2. 病院長および研修実施責任者

病院長：池谷 朋彦

研修実施責任者：藤井 真也（臨床研修指導医）

3. 標榜診療科

循環器内科、腎臓内科、心臓外科、血管外科、放射線科、呼吸器内科、緩和ケア内科、呼吸器外科、消化器外科、脳神経外科・脳卒中外科、脳血管内治療科、リハビリテーション科、麻酔科、病理診断科

※ 各診療科における指導医については、臨床研修プログラムを参照。

4. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターの臨床研修プログラムでは、埼玉県立循環器・呼吸器病センターの診療科（循環器内科、心臓外科、呼吸器外科、脳神経外科）を研修することができる。

※ 各診療科における研修プログラムの詳細は、臨床研修プログラムを参照

5. 研修に関する問い合わせ先

〒360-0197 埼玉県熊谷市板井 1696

埼玉県立循環器・呼吸器病センター

人事担当

TEL：048-536-9900

FAX：048-536-9920

社会医療法人さいたま市民医療センター（協力型臨床研修病院）

1. 社会医療法人さいたま市民医療センターの概要

当院は地域における医療・福祉の向上を目的として2009年3月に設立されたさいたま市における中核病院との機能分担・連携強化で効率的効果的医療の提供を行う、急性期・救急指定医療機関である。さいたま市民医療センターにおける医療は、「患者中心の医療を目指す総合医」と「専門的技術と視野をかねた専門医療支援」のホスピタリスト（病院総合医）による医療の実践を目標としている。医療需要が増加している「さいたま医療圏」の地域医療支援病院であり、地域医療の司令塔としての役割を担っている。年間約7,000台を超える救急搬送に加え、地域の診療所や病院からの紹介を受け、超急性期から回復期までを担当し、患者さんを住み慣れた自宅や施設などに復帰させている。また、さいたま市の小児二次救急の中核として、さいたま市の救急搬送の約2分の1近くを受け入れ、埼玉県内では最も多い年間約3,000台を超える小児救急搬送を受けており、地域医療に貢献している。災害拠点病院としてDMATを有しており、近年増えている局所災害への積極的な災害支援に加え、近隣の医療機関や医師会、歯科医師会、薬剤師会等と協力して、災害に強い地域づくりを目指している。当院は地域医療に貢献していきたいという医師を育てる理想的な教育環境を備えている。

・病床数 340床

2. 病院長および研修実施責任者

院長：塩谷 猛（臨床研修指導医）

研修実施責任者：塩谷 猛（臨床研修指導医）

3. 標榜診療科

内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科、外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、脳神経外科、整形外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、リハビリテーション科、アレルギー科、内科（化学療法）、外科（化学療法）、麻酔科、救急科

※ 各診療科における指導医については、さいたま市民医療センター臨床研修プログラムを参照。

4. 臨床研修プログラムの特色

深い人間性に基づく、かつ優れたプライマリ・ケア能力を修得した医師養成を目指している。年間入院患者約8,000名以上、救急搬送数は約7,000名を超える幅広い豊富な患者数に支えられ多様な疾患の経験ができる。さらに総合的な視野を有する各専門領域のサブスペシャリティの指導医を備えていることも当院の特徴である。特に当院では大学病院では経験できない、都会型の地域医療に密着した内科、外科、小児科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、麻酔科、リハビリテーション科疾患を経験できる。放射線科、病理診断科における診断学研修レベルは高度で、これらの特色をもとに、将来あらゆる領域のキャリア形成にも対応可能な多能性医師養成プログラムを提供する。内科系のみならず外科系領域においても総合医マインドを備えた臨床研修（内科系、外科系ジェネラリスト）プログラムでプロフェッショナル医師を養成する。

※ 各診療科における研修プログラムの詳細は、さいたま市民医療センター臨床研修プログラムを参照。

5. 研修に関する問い合わせ先

〒331-0054 埼玉県さいたま市西区島根 299-1

社会医療法人さいたま市民医療センター

総務課

TEL：048-626-0011

FAX：048-799-5146

日本赤十字社 深谷赤十字病院（協力型臨床研修病院）

1. 日本赤十字社 深谷赤十字病院の概要

埼玉県北部地域の急性期医療を担う中核病院として、救命救急センターが設置され、がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院等の多くの指定を受けており、地元医師会や地域の病医院等との医療連携を進めながら、質の高い、安全・安心な医療の提供に努めている。

また、赤十字の重要な使命である「災害時における救援活動」においては、迅速に救護班を派遣し、緊急時にはヘリポートを使用した患者搬送を可能とした体制となっている。

- ・総病床数 474 床（うち、ICU・CCU・救急 50 床）、感染症病床 6 床
- ・職員数 954 名（令和 7 年 4 月 1 現在）

2. 病院長および研修実施責任者

院長：石川 文彦（臨床研修指導医）

研修実施責任者：石川 文彦（臨床研修指導医）

3. 標榜診療科

内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、腎臓内科、脳神経内科、外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、脳神経外科、整形外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、リハビリテーション科、アレルギー科、内科（化学療法）、外科（化学療法）、麻酔科、救急科

※ 各診療科における指導医については、深谷赤十字病院臨床研修プログラムを参照。

4. 臨床研修プログラムの特色

当院は、地域の基幹病院としての高い専門性と、バラエティにとんだ症例を有し、比較的少ない研修医ということもあり、豊富な臨床経験を積めることを売りとしている。

臨床研修期間は、将来どのような医師になるのかを決める（決まる）大切な期間であり、研修の 3 つの要素である「知識」「技能」「態度・習慣」のうち、臨床研修時に最も培うべきは「態度・習慣」と思っている。

患者さんに直接足を運ぶ習慣などはこの時期に身につけねば、データからのみの判断で指示を出すような医師となってしまうであろう。知識と技能は臨床研修、専門研修、専門分野と研鑽を積むにつれ確実に増えて行くが、態度・習慣は逆に疎かになることさえある。

当院では、研修医に実践してもらうことを原則とし、技術的 skill up が体感できると共に、研修医一人一人に応じた融通性のあるプログラム、一言でいえば“暖かみのある研修環境”を目指している。

※ 各診療科における研修プログラムの詳細は、深谷赤十字病院臨床研修プログラムを参照。

5. 研修に関する問い合わせ先

〒366-0052 埼玉県深谷市上柴町西 5-8-1

日本赤十字社 深谷赤十字病院

教育研修推進室

TEL：048-571-1511

FAX：048-573-5351

社会福祉法人恩賜財団済生会支部 埼玉県済生会 加須病院（協力型臨床研修病院）

1. 社会福祉法人恩賜財団埼玉県済生会 加須病院の概要

A 基本的目標

1. 医療全般において基本的診察能力（知識、技術、態度、判断力）を習得する。
2. プライマリ・ケア診療の基本を習得する。
3. 救急患者への対処を習得する。
4. 患者、家族へのインフォームド・コンセントを尊重した医療を習得する。
5. 末期患者への対処を習得する。
6. 生涯にわたる自己学習の習慣を身につける。

B 基本の方針

1. 2年間の研修は、各診療科および協力施設との連携のもとに、病院長が責任をもって行う。
2. 知識、技術のみならず、意欲、コメディカルとの協調性、患者とのコミュニケーション能力も重視する。
3. 臨床研修管理委員会において、指導医の評価、研修の到達状況を定期的にチェックし、必要に応じて面談を実施する。また、研修に必要な勉強会を含めた講習を実施する。
4. 各診療科で研修医を指導する体制を整えている。

2. 病院長および研修実施責任者

病院長：板橋 道朗（臨床研修指導医）

研修実施責任者：速水 宏樹（臨床研修指導医）

3. 標榜診療科

内科、呼吸器内科、消化器内科、脳神経内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、血液内科、循環器内科、小児科、外科、呼吸器外科、乳腺外科、心臓血管外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、整形外科、形成外科、救急科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

※ 各診療科における指導医については、埼玉県済生会 加須病院臨床研修プログラムを参照。

4. 臨床研修プログラムの特色

厚生労働省より提示された必修項目を、十分に研修できるように配慮している。

当院の臨床研修プログラムを通じて、研修医のプライマリ・ケア診療、救急医療の基本が習得できるように配慮している。

各診療科の指導医も多く、研修医に指導できる十分な体制を整えている。

※ 各診療科における研修プログラムの詳細は、埼玉県済生会 加須病院臨床研修プログラムを参照。

5. 研修に関する問い合わせ先

〒347-0101 埼玉県加須市上高柳 1680 番地

埼玉県済生会 加須病院

臨床研修センター

TEL：0480-70-0888

FAX：0480-70-0889

医療法人財団明理会 イムス富士見総合病院（協力型臨床研修病院）

1. 医療法人財団明理会イムス富士見総合病院の概要

当院は、埼玉県南西部医療圏（富士見市、ふじみ野市、三芳町、志木市、新座市、朝霞市、和光市）にある急性期総合病院である。1972 年、鶴瀬病院として開設され、2009 年、富士見市役所並びに新築移転したことを契機にイムス富士見総合病院と名称変更している。2015 年、120 床増床のため新病棟を増築、2024 年、周産期病棟を新築し周産期診療を開始している。

2 次救急医療機関として多くの救急車を受け入れ、地域からの専門診療科へ紹介、大規模な小児診療、周産期診療の開始など、地域の基幹病院としての役割を担っている。

外科系診療科はバラエティに富んでおり、各診療科は週に 5～8 件の手術を行っている。カテーテル手術、内視鏡手術、ロボット支援手術、経皮的手術などの低侵襲な手術の割合が大きい。

小児科・新生児科 13 名、小児外科 2 名のもと 45 床の小児病棟をもち、小児 2 次救急医療を担当していて、入院患者、紹介患者も多い。小児こころの診療も充実していて、学校、行政、児童相談所との連携も密である。

- ・病床数 341（一般 219、ハイケア 17、小児 45、周産期 20、回復期 40）
- ・常勤医 64 名、職員数 885 名
- ・平均在院日数 10.3 日（回復期除く）
- ・救急車受入 534 件／月、紹介件数 869 件／月、入院件数 640 件／月

2. 病院長および研修実施責任者

病院長：鈴木 義隆（臨床研修指導医）

研修実施責任者：赤嶺 斉（臨床研修指導医）

3. 標榜診療科

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、腎臓内科、神経内科、人工透析内科、外科、心臓血管外科、消化器外科、呼吸器外科、小児外科、小児泌尿・生殖器外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、内視鏡外科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、血管外科、病理診断科、脊椎・脊髄外科

※ 各診療科における指導医については、イムス富士見総合病院臨床研修プログラムを参照。

4. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターの臨床研修プログラムでは、当院の診療科（小児科、産婦人科）を研修することができる。

臨床医にとって必須な初期診療を含む基本的診療の知識、技能を習得するとともに、医師としてふさわしい態度と責任感を養うことを目的とする。

※ 各診療科における研修プログラムの詳細は、イムス富士見総合病院臨床研修プログラムを参照。

5. 研修に関する問い合わせ先

〒354-0021 埼玉県富士見市大字鶴馬 1967-1

医療法人財団明理会 イムス富士見総合病院

総務課

TEL：049-254-1295

FAX：049-254-1224

医療法人慈正会 丸山記念総合病院

○ 医療法人慈正会 丸山記念総合病院の概要

1. 医療法人慈正会 丸山記念総合病院の特色

当院は、地域の皆様がいつも安心して健康な生活を送れるよう土曜日・日曜日（平成19年11月より第1日曜日は休診）も通常どおり診察を行っている。

また、救急医療にも力を注ぎ24時間体制で夜間の急患も常時受け付けるなど、患者様の立場に立って、総合病院としての機能をフルに発揮し、良質な医療の提供に努めている。

また、健診施設「レインボークリニック」及び訪問看護ステーション「いわつき」も運営し、健康チェックから診断・治療、その後のフォローとしての在宅医療サービスの提供まで、健康管理全般にわたり、サポートする体制を整えている。

このほか、関連施設として、特別養護老人ホーム「多賀谷寿光園」（老人性認知症専門）および介護老人保健施設「虹の園」との連携により、高齢者の方々の長期ケアのご要望にもお応えしている。

2. 診療・教育スタッフ

掛札 敏裕（病院長）：血管外科

大畑 昌彦（外科部長）：消化管内視鏡検査・消化管治療・肛門、大腸疾患・炎症性疾患

石井 博（消化器科部長）：膵、胆道系疾患・ERCP 関連手技・消化器内視鏡検査

嶋田 一也（内科部長）：内科一般

室之園悦雄（産婦人科部長）：産婦人科全般

木村 重吉（脳神経外科部長）：脳神経外科一般

村田 升（救急科部長）：救急科全般

3. 研修責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：丸山 正統

臨床研修指導医：掛札 敏裕、大畑 昌彦、石井 博、丸山 正統、室之園悦雄、木村 重吉
村田 升

4. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターのすべてのプログラムにおいて研修が可能である。

5. 目標と評価表

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 患者の訴えを適切に理解できる。	()	()
2. 患者の社会的な状況を聞いて理解できる。	()	()
3. 患者の理学的所見を正確にとれる。	()	()
4. 指導医に正確に症例呈示を行える。	()	()
5. 検査計画を立てられる。	()	()
6. 指導のもと検査・治療を実施できる。	()	()
7. 健康増進のための生活指導を行える。	()	()
8. 患者に必要な介護、福祉との連携を提案できる。	()	()
9. 患者に対して必要な経済的支援を提案できる。	()	()

6. 週間スケジュール（例）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	内 科	外 科		人工透析科	脳神経外科	内 科	産婦人科
午後	救急科	訪問同行		訪問同行	救急科	地域連携	

7. 研修に関する問い合わせ先

〒339-8521 埼玉県さいたま市岩槻区本町 2-10-5

医療法人慈正会 丸山記念総合病院

総務課 野村 義孝

TEL：048-757-3511

FAX：048-756-6061

地域医療

1. 地域医療の特色

臨床研修の到達目標のほかに、臨床医として基本的に周知しておくべき医療とその運用などについて、施設に出向いてスタッフの一員として現場での実務経験を積むための実地研修プログラムである。今回の研修プログラムの大半は、「かかりつけ医」の活躍の場である一般病院や診療所など大学病院を離れた施設で実施されるが、いずれも社会的な要請に基づく研修項目である。将来、臨床医としてどのような診療科を専攻するにしても、地域社会に根ざした活躍を目指すためには大いに役立つ内容となる。

2. 必修研修期間

8 週以上（一般外来研修 4 週含む）

3. 地域医療研修（一般外来研修）実施施設と研修実施責任者

臨床研修協力施設	研修実施責任者	地域医療研修	一般外来研修	在宅医療研修 (医師同行必須)
医療法人徳洲会 宮古島徳洲会病院	兼城 隆雄	○	○	○
特定医療法人俊仁会 埼玉よりい病院	藤田 尚己	○	○	-
医療法人社団輔正会 岡村記念クリニック	高根 裕史	○	○	-
社会医療法人刀仁会 坂戸中央病院	加藤 雅也	○	○	-
医療法人花仁会 秩父病院	坂井 謙一	○	○	-
社会医療法人東明会 原田病院	杉 徳臣	○	○	○
医療法人社団シャローム シャローム病院	狩野 契	○	○	○
秩父市立病院	加藤 寿	○	○	○
医療法人慈桜会 瀬戸病院	瀬戸 理玄	○	○	-
医療法人ゆうの森 たんぼぼクリニック	永井 康德	○	○	○
社会医療法人埼玉医療福祉会 在宅療養支援施設診療所HAPPINESS館クリニック	齋木 実	○	○	○
社会福祉法人京悠会 葵クリニック	出口 一郎	○	○	-
東松山市立市民病院	野村 恭一	○	○	○
国民健康保険 町立小鹿野中央病院	山下 拓斗	○	○	○
医療法人徳洲会 喜界徳洲会病院	小林 奏	○	○	○
医療法人徳洲会 瀬戸内徳洲会病院	高松 純	○	○	○
医療法人徳洲会 徳之島徳洲会病院	新納 直久	○	○	○
医療法人徳洲会 名瀬徳洲会病院	満元洋二郎	○	○	○

4. 各施設における研修の目的と到達目標

〔目的〕 診療所および病院の現場を経験し、一般外来や地域医療における関係スタッフの役割についての理解を深め、第一線のプライマリ・ケアや予防医療の実践に参画する。

一般外来を経験することで、頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を、主な慢性疾患については継続診療を行えるようになる。

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できるようになる。

〔到達目標〕

（１）病診連携のなかで「かかりつけ医」の役割を理解する。

（２）医療保険制度を理解し、医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を活用する。

- (3) チーム医療の一員としての役割を理解する。
- (4) 社会資源とその利用を理解する。
- (5) 患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療（在宅医療を含む。）について理解し、必要な対策を提案し、実践する。
- (6) 指導医がそばにいても、必要時には連絡が取れる状況下であれば、単独で一般外来診療を行える。
- (7) 診療所の役割（病診連携への理解を含む。）について理解し、実践する。
- (8) へき地・離島医療について理解し、実践する。

医療法人徳洲会 宮古島徳洲会病院

○ 医療法人徳洲会 宮古島徳洲会病院の概要

1. 医療法人徳洲会 宮古島徳洲会病院の特色

当院は 53 床の急性期病床、10 床の回復期病床（包括ケア病床）、36 床の慢性期病床（身体障害者病床）を持ち、一般外来、訪問診療、血液透析、健診・人間ドック、通所リハビリを行い、さらに敷地内に 50 床の介護施設（特定施設みやとく）がある。

予防医療から急性期・慢性期医療、在宅緩和ケアを含めた終末期医療まで、地域の幅広いニーズに柔軟に対応している。周囲をエメラルドグリーンの海に囲まれた宮古島の人口は 55,000 人。島の健康と福祉の発展・向上への思いをベースに、地域医療への更なる貢献を目指している。

2. 研修可能な診療科

内科、外科、整形外科、救急科、総合診療科

3. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：兼城 隆雄（院長）

臨床研修指導医：兼城 隆雄（院長）

4. 臨床研修プログラムの特色

当院は常勤スタッフ 4 名と少数精鋭であり、家庭的な雰囲気の中で研修が受けられる。

同時期に複数名の研修医や専攻医が在籍し、自然環境の素晴らしい離島で充実した研修生活を送ることができる。

5. 目標・到達目標

離島における地域性を考慮しながら、幅広い患者様のニーズに応えられる柔軟な対応と医療提供を身につける。

【評価 A：可 B：不可】		自己評価	指導医評価
1. 担当医への報告・連絡・相談	()	()	()
2. 患者、家族のニーズを理解し対応できる柔軟さ	()	()	()
3. 外来診療に多い創部消毒や採血の手技、外傷・熱傷などの的確な処置	()	()	()
4. 看護師やコメディカルなど医療職スタッフとのチームワーク	()	()	()
5. 基本的な薬物治療及び処方箋の作成	()	()	()
6. 診療録の記載・管理、紹介状や返書など文書の作成	()	()	()

6. 週間スケジュール

		月	火	水	木	金	土
1W	午前	勉強会 外来	回診 病棟	回診 健診	勉強会 外来	勉強会 外来	外来
	午後	外来	病棟	病棟	病棟	病棟	—
2W	午前	勉強会 健診	回診 外来	回診 外来	勉強会 外来	勉強会 病棟	健診
	午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	—
3W	午前	勉強会 外来	回診 病棟	回診 外来	勉強会 外来	勉強会 外来	健診
	午後	外来	病棟	病棟	病棟	病棟	—

4W	午前	勉強会 健診	回診 外来	回診 外来	勉強会 外来	勉強会 病棟	外来
	午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	—

7. 研修に関する問い合わせ先

〒906-0014 沖縄県宮古島市平良字松原 552-1

医療法人徳洲会 宮古島徳洲会病院

医局秘書 高里 美香

TEL : 0980-73-1100

FAX : 0980-74-2076

特定医療法人俊仁会 埼玉よりい病院

○ 特定医療法人俊仁会 埼玉よりい病院の概要

1. 特定医療法人俊仁会 埼玉よりい病院の特色

当院は、平成15年5月に開設して以来、地域の基幹病院として急性期および救急医療（2次救急指定病院）から高齢者医療まで広範な医療サービスを提供する病院である。病床数145床（一般病床・回復リハビリテーション病床・医療療養病床）で、ケアミックス型の病院である。現在も、地域の基幹病院としての役割を担っている。内科は、消化器内科、循環器内科、神経内科の各専門内科による、専門医療を提供している。消化器内科においては、消化器内視鏡指導医を中心とした内視鏡診療を提供している。小児科は、予防接種、一般小児科診療を提供している。整形外科は、主に四肢外傷による手術が多く、大腿骨頸部骨折がその大半を占めている。大学病院と連携して腰椎椎間板ヘルニア手術を行なっている。脳神経外科は、外科的治療は行わず急性期医療機関での治療後のリハビリテーションを中心に行っている。歯科口腔外科では、かかりつけ歯科医院と連携して、外来手術及び全身麻酔下での手術を行っている。泌尿器科、神経内科等の地域のニーズに即した専門治療の提供を行なっている。

2. 研修可能な診療科

内科、消化器内科、整形外科、脳神経外科、リハビリテーション科、麻酔科

3. 診療・教育スタッフ

藤田 尚己：消化器内科
後藤 建：整形外科
近山 琢：消化器内科
本徳 浩二：脳神経外科・リハビリ科
河原 玲：整形外科
三島 賢：麻酔科

4. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：藤田 尚己（院長）
臨床研修指導医：藤田 尚己、後藤 建

5. 臨床研修プログラムの特徴

埼玉よりい病院では、埼玉医科大学国際医療センターのすべてのプログラムにおいて、上記の診療科を選択し、地域医療研修（在宅医療含む）、一般外来研修が可能である。

6. 目標と評価表

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる	()	()
2. 医療保険、公費負担医療、介護保険を理解し、適切に診療できる。	()	()
3. 医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。	()	()
4. 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。	()	()
5. 死生観・宗教観や告知をめぐる諸問題への配慮ができる。	()	()
6. 虐待に配慮した小児の診療ができる。	()	()
7. 指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。	()	()
8. 上級医や他の医療従事者と連携し患者中心の医療を提供できる。	()	()
9. 医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うための インフォームド・コンセントが実施できる。	()	()
10. 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。	()	()
11. 保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成できる。	()	()
12. QOL (Quality of Life) を考慮にいれた総合的な管理計画（リハビリ テーション、社会復帰、在宅医療、介護を含む。）へ参画する。	()	()

13. 学校、家庭、職場環境に配慮し、地域との連携に参画できる。	()	()
14. ターミナルケアを含んだ在宅医療を理解し実践できる。	()	()
15. 食事・運動・休養・飲酒・禁煙指導とストレスマネジメントができる。	()	()
16. 母子健康手帳を理解し活用できる。	()	()
17. 予防接種を実施できる。	()	()
18. 健康診断や検診の目的を理解し、健診や事後指導をすることができる。	()	()
19. 行政と連携し、地域の保健活動に参加、立案が出来る。	()	()
20. デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する。	()	()
21. 老人保健施設、療養病棟で生活する高齢者の診療について理解し、実践する。	()	()
22. 病診連携のなかで、診療所や「かかりつけ医」の役割を理解し、実践する。	()	()

7. 週間スケジュール（例）

		月	火	水	木	金	土
1W	午前	外来	外来	外来	外来	外来	—
	午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	
2W	午前	外来	外来	外来	外来	外来	—
	午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	
3W	午前	外来	外来	外来	外来	外来	—
	午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	
4W	午前	外来	外来	外来	外来	外来	—
	午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	

※週間スケジュールは状況により変更になる場合があります。

8. 研修に関する問い合わせ先

〒369-1201 埼玉県大里郡寄居町用土 395 番地
 特定医療法人俊仁会 埼玉よりい病院
 事務長 金井 智里
 TEL：048-579-2789
 FAX：048-579-2797

医療法人社団輔正会 岡村記念クリニック

○ 医療法人社団輔正会 岡村記念クリニックの概要

1. 医療法人社団輔正会 岡村記念クリニックの特色

急性期から亜急性期の幅広い疾患に対応することを目標にする有床診療所である。1 日平均外来患者数は約 300 名で、地域での「かかりつけ医」としての役割を担っている。入院治療においては外科手術から緩和治療にいたる診療を行っている。

また、埼玉医科大学に最も近い立地にある入院施設であり、埼玉医科大学との患者の連携のみならず、医師・コメディカルの連携も密に行われ、各科専門外来の強化を図り、病診連携、あるいは地域の他医療施設との診診連携も積極的に行われている。

2. 研修可能な診療科

消化器・一般外科、眼科、内科（心臓内科、消化器内科、腎臓内科、膠原病内科、糖尿病内科、総合内科）、泌尿器科、脳神経外科、形成外科、美容外科、救急科、人工透析

3. 診療・教育スタッフ

<外科>

岡村 維摩（院長）：消化器外科

<内科>

高根 裕史（副院長）：腎臓内科、人工透析

<眼科>

鯨澤 知子（副院長）：眼科

4. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：高根 裕史（副院長）

臨床研修指導医：岡村 維摩（院長）、高根 裕史（副院長）

5. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターのすべてのプログラムにおいて、上記の診療科を選択し、地域医療研修、一般外来研修が可能である。当院は疾患や診療科の専門によることなく「患者の QOL 向上をめざすための社会福祉のなかでの地域医療連携」の重要性を学ぶことができる。

6. 目標・評価表

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 患者の主訴をしっかりと聞き分ける。	()	()
2. 各医療施設の社会的責任を理解する。	()	()
3. 患者に提供できる医療を知る。	()	()
4. 外科的処置において皮膚縫合ができる。	()	()
5. 術後患者の適切な消毒・包帯交換ができる。	()	()
6. 確実に静脈確保 (IVH 挿入を含む) ができるようにする。	()	()
7. 上部内視鏡の操作を覚える。	()	()
8. ベッドサイドでの気道確保 (気管挿管・気管切開) を実施する。	()	()
9. 腹腔穿刺・胸腔穿刺 (トロカール挿入を含む) を安全に実施できる。	()	()
10. 終末期患者の看取り・家族への説明を行う。	()	()

7. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	外来 内視鏡検査	訪問診療	眼科手術 (希望者)	内視鏡検査	外来	外来
午後	病棟回診 外科手術	外来 透析回診	病棟回診	透析回診 外来	病棟回診	—

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1245 埼玉県日高市栗坪 230-1

医療法人社団輔正会 岡村記念クリニック

管理本部長 並木 昭光

TEL : 042-986-1110

FAX : 042-986-1130

社会医療法人刀仁会 坂戸中央病院

○ 社会医療法人刀仁会 坂戸中央病院の概要

1. 社会医療法人刀仁会 坂戸中央病院の特色

坂戸中央病院は、昭和 36 年に坂戸の地に設立され、平成 8 年に既存の地に新設移転した。当院は、和顔愛語（和らいだ笑顔で愛情のある穏やかな言葉を交わすことの意味）を理念とし、患者の視点に立ってできる限り良質な医療を提供するように努めている。

当院は外科・内科・整形外科に常勤医をおき、当地の医療に携わっている。平成 27 年に地域の救急医療を司るべく社会医療法人として認可され、可能な範囲で救急医療の対応を行い、2024 年は約 2,000 件の救急搬送応需の実績がある。

そのため、当院で治療が困難と判断した場合は、速やかに埼玉医科大学病院をはじめ、高度急性期医療病院を紹介し、その後引き続き急性期医療の必要な患者が当院に入院できるような連携を行っている。

2. 研修可能な診療科

外科、内科、整形外科

3. 診療・教育スタッフ

土屋 長二（病院長）
加藤 雅也（院長補佐）
高田 伸樹（副院長）

4. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：高田 伸樹（副院長）

<外科>

臨床研修指導医：土屋 長二（病院長）
上級医：廣岡 映治（外科医長）

<内科>

臨床研修指導医：高田 伸樹（副院長、診療部長、内科医長）
上級医：山岡 昭治

<整形外科>

臨床研修指導医：加藤 雅也（院長補佐、整形外科医長）
上級医：池田 信

5. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターのすべてのプログラムにおいて、上記の診療科を選択し、地域医療研修、一般外来研修が可能である。

- ・地域に密着した医療の実践を学ぶことが出来る。
- ・二次救急病院としての救急医療の実戦を学ぶことが出来る。
- ・中小規模病院であり、各科の隔たりが少なく、科をまたがった情報取得が出来る。
- ・リハビリテーション、地域連携・相談支援室での実習も予定されている。

6. 目標と評価表

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 守秘義務を果たしプライバシーへの配慮ができる。	()	()
2. 上級医へ適切なタイミングでコンサルテーションができる。	()	()
3. 他科医師とのコンサルテーション、情報提供ができる。	()	()
4. 臨床上的の問題点を解決する為の情報収集ができる。	()	()
5. 症例提示ができる。	()	()

7. 週間スケジュール（例）

		月	火	水	木	金	土
1W	午前	挨拶・ 院内案内 外来	内視鏡	外来	外来 or 手術	外来	内視鏡
	午後	病棟	外来		手術 or 腹部エコー	手術 or 内視鏡	病棟 CT カンファ (隔週)
2W	午前	外来	外来	外来	外来	内視鏡	内視鏡
	午後	病棟			病棟	病棟	病棟
3W	午前	病棟	腹部エコー	外来	病棟	病棟	内視鏡
	午後	外来	手術	地域連携 相談支援室	外来	手術	病棟 CT カンファ (隔週)
4W	午前	外来	リハビリ	外来	病棟	外来	外来
	午後	病棟	病棟		手術	病棟	病棟

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-0219 埼玉県坂戸市南町 30-8
 社会医療法人刀仁会 坂戸中央病院
 医局秘書 伊藤
 TEL：049-283-0019
 FAX：049-283-5515

医療法人花仁会 秩父病院

○ 医療法人花仁会 秩父病院の概要

1. 医療法人花仁会 秩父病院の特色

当院は地域の中核病院として二次救急を担うとともに消化器外科、消化器内科においては専門性の高い診療を行っている。地域柄あらゆる分野の患者さんが来院するので、地理的特性や地域の医療環境上、地域完結型医療が求められると同時に、疾患によっては大学病院等への転院を適確に行わなければならない。特に超救急性処置が求められる疾患に対応すべく、敷地内にヘリポートを併設し対応している。多様な医療が求められる当地での研修は、今後の臨床医としての経験に多大な経験と知識が得られるものとする。

2. 研修可能な診療科

総合診療科、外科、内科、消化器外科、消化器内科、肝臓内科、肛門外科、麻酔科

3. 診療・教育スタッフ

花輪 峰夫（理事長）：消化器外科、総合診療

坂井 謙一（院長）：消化器内科、総合診療

大野 哲郎（副院長、外科部長、内視鏡センター長）：消化器外科、総合診療

4. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：坂井 謙一

臨床研修指導医：花輪 峰夫、坂井 謙一、大野 哲郎

5. 臨床研修プログラムの特色

臨床研修医の先生方にとって地域医療研修は、今後の長い医師人生の進路を決める上で重要な臨床経験となるでしょう。医学の進歩に従い、医療はより広くより深く、日々進化を続けている。臨床の場では診療科目は細分化し、より深い専門知識が必要となっている。

一方で縦割り診療や偏った診療の弊害も指摘されており、現在は総合診療科の必要性が重要視されている。「分化と統合」「学問と実践」医療に限らず、すべての分野で必須のことである。

臨床研修の段階で地域医療を肌で感じて頂く事は臨床研修医の先生方にとって後に必ず大きな影響をもたらすに違いない。医療者として大切なことは「医療とは疾患を診るにあらず、人を診るものである」。医学を基盤とし医療の全体像を知る上で地域医療知することは、臨床医としての義務でもあり、自己の成長に不可欠なことである。

6. 目標・評価表

秩父地域には大学病院のような全ての専門科がそろった総合病院はなく、可能な限り自院、あるいは、地域内で対応する必要がある。このことは、とりも直さず、「地域医療に役に立つ医師」の必要性を迫られるものであり、同時に当院の目指す医師の育成のための環境が整っているといえる。

最近の医学教育は極端な専門医教育が顕著である。その結果、「臓器を診て全身を診ず、病気を診ても人を診ず」医療技術の先端のみを追いかけ、歴史や経緯、医療技術における基礎教育が余りにも疎かである。

このような背景から、「専門外は診ないとする」風潮が強まっている。一方、医療資源の乏しい多くの臨床の場では、医師の心は委縮する一方である。このような環境下において当院では、地域医療を支える観点から、（専門性を併せ持ちながら幅広い疾患に対応でき、一人の人として患者と向き合える）総合医の育成に取り組んでいる。又、病気を未然に防ぐことや早期に発見し早期治療に結びつけるため総合健診事業に積極的に取り組んでいる。研修の際には健康管理やその指導をも含め、医師としての業務も経験することが可能である。病棟管理ではガン、非ガンを問わず終末期医療の研修が可能である。

ご自分で今後医師として求められるものは何かを十分に考え、キャリアに合わせた幅広い研修を行うことが可能である。

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 様々な救急患者において初期対応を理解する	()	()
2. 保険制度を理解し制度に基づいた診療ができる	()	()
3. 医療保険、公費負担制度、介護保険を理解しその上で適切な診療ができる	()	()
4. 医の倫理、生命倫理について理解し適切に行動できる	()	()
5. 守秘義務を理解し、プライバシーへの配慮ができる	()	()
6. 生死観・宗教観や告知をめぐる諸問題へ配慮することができる	()	()
7. 小児の初期診療ができる	()	()
8. 指導医や上級医に適切なタイミングでコンサルテーションができる	()	()
9. 指導医、上級医と連携し患者中心の医療が提供できる	()	()
10. 多くの医療従事者と連携し患者中心の医療が提供できる	()	()
11. 医師、患者、家族が共に納得できる医療を行うためのインフォームドコンセントが実践できる	()	()
12. 患者、家族のニーズを身体、心理、社会的側面から把握できる	()	()
13. 保険、医療、福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成できる	()	()
14. QOL を考慮に入れた総合的な管理計画が立案できる	()	()
15. 食事、運動休養、飲酒、禁煙指導とストレスマネジメントができる	()	()
16. 健診や人間ドックの目的を理解し、指導を担当することができる	()	()
17. 基本的な緩和ケアを理解し実践することができる	()	()
18. 病診連携の中で診療所と病院の役割分担の理解ができる	()	()

7. 週間スケジュール（例）

	月	火	水	木	金	土
午前	医師会議 外来	内視鏡	健診	外来	病棟	内視鏡
午後	外来	外来	手術	検査	手術	外来 多職種カンファレンス

8. その他

- * 月 2 回行われている院内勉強会への出席
 - * 月 1 回行われている地元医師会が開催している症例検討会への参加
 - * 月 1 回行われている医師会中心の（外科医会）への参加
 - * 地域病院の見学（秩父市立病院・町立小鹿野中央病院見学）
- 注）コロナ渦において中止やリモートとなっている場合あり

9. 研修に関する問い合わせ先

〒369-1874 埼玉県秩父市和泉町 20 番
 医療法人花仁会 秩父病院
 事務長 近藤 和彦
 TEL：0494-22-3022（代表）
 FAX：0494-24-9633

社会医療法人東明会 原田病院

○社会医療法人東明会 原田病院の概要

1. 社会医療法人東明会 原田病院の特色

当院は、歴史と文化を誇る入間市中核的医療機関として、質の高い効率的な医療を提供するとともに、地域のみなさんが安心でき、笑顔があふれる病院を目指している。市民の皆様の健康に寄与するために、専門診療機能の強化、総合的な医療ニーズに対応するための診療科の充実、救急医療体制の整備、また地域の医療機関等との連携なども踏まえて、地域に密着した医療を提供している。

救急医療、地域医療連携、在宅サービスを通じて地域の皆さまに信頼される病院を常に目指している。訪問診療、訪問リハビリ、訪問看護、訪問介護の体制を強化している。

2. 研修可能な診療科

総合診療科、脳神経外科、神経内科、消化器外科、整形外科、循環器科、呼吸器内科、内分泌糖尿病科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科

3. 診療・教育スタッフ

総合診療科	織田、青木、原田
脳神経外科	梅澤、小林、和田、徳重
脳神経内科	竹野下
外科・消化器科	青木、原田、林、村上
整形外科	高橋
循環器内科	織田
呼吸器内科	吉森
内分泌糖尿病内科	里村
泌尿器科	川上
耳鼻咽喉科	宇野
放射線科	佃、松成

4. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：杉 徳臣
臨床研修指導医：原田 佳明

5. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターのすべてのプログラムにおいて、上記の診療科を選択し、地域医療研修、一般外来研修が可能である。

6. 目標・評価表

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から理解ができる。	()	()
2. 穿刺法（腰椎・胸腔・腹腔）を実施できる。	()	()
3. 気道確保（気管挿管）を実施できる。	()	()
4. 診療所の役割（病診連携への理解を含む）について理解し、実践できる。	()	()
5. 告知をめぐる諸問題への配慮ができる。	()	()
6. 専門医への適切なコンサルテーションができる。	()	()

7. 週間スケジュール（例）

		月	火	水	木	金	土
1W	午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来
	午後	外来 病棟回診					
2W	午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来
	午後						
3W	午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来
	午後	外来 病棟回診					
4W	午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来
	午後						

8. 研修に関する問い合わせ先

〒358-0003 埼玉県入間市豊岡 1-13-3

社会医療法人東明会 原田病院

TEL : 04-2962-1251

FAX : 04-2968-7533

医療法人社団シャローム シャローム病院

○ 医療法人社団シャローム シャローム病院の概要

1. 医療法人社団シャローム シャローム病院の特色

当院は、1994年に19床の有床診療所としてスタートした。2014年10月から55床の病院になった。55床のうち30床が緩和ケアベッド、25床が一般患者のためのベッドとして認可された。一般ベッド25床の中には救急用に2ベッド、在宅患者の急変時等への対応用に7ベッドが含まれる。2016年7月から緩和病棟がオープンした。

病院の理念は、聖書の教えに基づき、“病める患者と家族に寄り添う”医療をめざしている。

1994年開院当初から、緩和ケア、看取り、訪問診療、救急診療に積極的に関与してきた。入院患者の7～8割が緩和ケアを必要とする方である。年間の看取りは400例を超え、がん患者の看取りが6割、がん以外の看取りが4割である。がん以外の看取りには4つの特別養護老人ホームの看取りも含まれる。看取りの約4割が在宅死である（在宅に老人ホームを含めると）。訪問診療は毎月200名以上を行っている。常勤医全員参加型の訪問診療であり、これによって、患者の初診から死までを一人の医師が関与できる。医師全員参加型往診システムによって、医師の疲弊なく、24時間体制で在宅患者を支えることができています。

外来は総合診療科を主体とする。常勤医3名が教育ワークショップ研修を終えて指導医となっている。

日本外科学会認定関連施設、日本消化器内視鏡学会指導連携施設、日本緩和医療学会認定研修施設として登録されている。2014年10月から救急告示病院となり、救急搬送を受け入れている。2016年4月に日本医療機能評価機構による「病院機能評価の認定」を受けている。

併設する事業体には、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、ヘルパーステーションがある。14年前から、坂戸に分院（シャロームにつさい医院）が開設され、外来と訪問診療、隣接する特別養護老人ホームへの診療協力がなされている。希望があれば、どの事業所でも研修可能である。

東松山、坂戸、鴻巣、吉見の4つの特別養護老人ホーム、隣接する高齢者施設の配置医である。

東京農大三校の校医であり、7つの事業所ないし会社の産業医である。

介護認定審査会メンバーとして委員会に出席している。

研修医には原則、個室をあてがい、休息も十分できるように配慮している。個室は常勤医全員にもあてがわれている。研修医には昼食を無料でサービスしている。

研修医にはできるだけ医療行為を、上級医師指導の元、実践させることを考えている。身につけた臨床技能を実践発展させる機会が多い。

2. 研修可能な診療科

内科、外科、総合診療、消化器内視鏡、肝臓、消化器病全般、緩和医療、小児科、皮膚科、透析、救急、予防接種、健診、ドック、地域包括ケア、外来小手術、入院症例、臨床検査（主として生理機能）、放射線科（技師による検査）、社会福祉士、チャプレン（グリーフケア）、訪問部門（在宅診療、産業医としての会社訪問、老人ホーム回診、訪問看護、居宅介護支援、介護認定審査会）

3. 診療・教育スタッフ

＜一般外来＞

鋤柄 稔（理事長）：総合診療

狩野 契（病院長）：総合診療

金子 仁人：内科

小竹 文秋：総合診療

石田 博徳：総合診療

＜緩和ケア科＞

加藤 修一：緩和ケア、神経難病

<皮膚科>

江田 二葉：皮膚科

<小児科>

中村小百合：小児

<在宅診療>

鋤柄 稔、狩野 契、加藤 修一、江田 二葉、中村小百合、金子 仁人、小竹 文秋、石田 博徳

4. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：狩野 契（病院長）

<一般外来>

臨床研修指導医：鋤柄 稔、狩野 契

<緩和ケア科>

臨床研修指導医：加藤 修一

5. 臨床研修プログラムの特色

当院は救急、在宅、緩和を三本柱としていて、地域に密着した医療を学ぶことができる。

6. 目標と評価表

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 地域医療について説明できる	()	()
2. 地域医療の問題点を指摘できる	()	()
3. 他職種連携について理解できる	()	()
4. プライマリケアを実践できる	()	()
5. 内視鏡（上部、下部）の操作に慣れ、指導医の元で実践できる	()	()
6. 小手術を理解し、実践できる	()	()
7. 保険医療法規を理解し行動できる	()	()
8. 医療保険、公費負担制度、介護保険制度を理解し適切に診療できる	()	()
9. 医療、医学の学びに積極的に関わる	()	()
10. 医の倫理について理解し、適切に行動できる	()	()
11. 守秘義務とプライバシー配慮ができる	()	()
12. 死生観、宗教観への配慮ができる	()	()
13. 終末期医療を理解し実践できる	()	()
14. 緩和ケアと麻薬を含めた薬剤使用を理解できる	()	()
15. 説明と同意の大切さを理解し実践できる	()	()
16. 指導医に適切なタイミングで助言を求めることができる	()	()
17. 上級医師や他職種と連携して医療を進めることができる	()	()
18. 在宅医療を理解、実践できる	()	()
19. 老人ホームでの看取りに理解できる	()	()
20. 学校医としての働きを理解、実践できる	()	()
21. 産業医としての働きを理解、実践できる	()	()
22. 病診、病病連携について理解できる	()	()
23. 予防接種を実施できる	()	()
24. 健診やドックの目的を理解し、健診を担当できる	()	()

7. 週間スケジュール（例）

		月	火	水	木	金	土
1W	午前	病棟	外来	病棟	往診	外来	—
	午後	外来	病棟	外来	外来	病棟	—
2W	午前	病棟	外来	病棟	病棟	外来	—
	午後	外来	病棟	外来	往診	病棟	—
3W	午前	病棟	外来	病棟	病棟	外来	—
	午後	外来	病棟	外来	往診	病棟	—
4W	午前	病棟	外来	病棟	病棟	外来	—
	午後	外来	病棟	外来	往診	病棟	—

8. 研修に関する問い合わせ先

〒355-0005 東松山市松山 1496

医療法人社団シャローム シャローム病院

病院長 狩野 契

TEL : 0493-25-2979

FAX : 0493-25-2723

秩父市立病院

○ 秩父市立病院の概要

1. 秩父市立病院の特色

当院は秩父市にある唯一の公立病院であり、人口約 10 万人の秩父医療圏の中心を担う 2 次救急病院である。内科、循環器内科、消化器内科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、小児科、麻酔科を診療科目として標榜しており、一般病床 100 床、地域包括ケア病床 36 床で構成される秩父医療圏としては最大の医療機関である。

当院は、年間 1,900 台の救急車を受け入れており、当地域の救急医療の中核を担っている。当院の内科は総合的に何でも診ることを基本とした臓器別に限らない総合内科であるが、消化器内科に関しては内視鏡的治療を中心とした専門的な診療を行っている。また、当院では診療が完結しない場合には高次医療機関へとつなぎ、治療が終了したらリハビリ・退院調整目的での転院を受け入れることで、高次医療機関も含めた地域医療のハブ的な役割も担っている。中でも地域包括ケア病棟では急性期治療及び術後のリハビリのみならず、末期癌患者や心不全患者への緩和ケアも行われ、亜急性期から慢性期、終末期にかけての診療、地域医療連携室を介した質の高い退院支援を実践している。さらに、当院は総合診療科を中心に在宅医療や在宅看取りも実施しており、診療の幅広さが強みとなっている。

2. 研修可能な診療科

内科、外科、整形外科、泌尿器科、小児科、総合診療科

3. 診療・教育スタッフ

＜病 院 長＞ 島村 寿男
＜副病院長＞ 神山 英範
＜内 科＞ 中原 守康 ＜外 科＞ 井上 亨悦 ＜小 児 科＞ 猪野 直美
＜整形外科＞ 大坪 隆 ＜泌尿器科＞ 川口 拓也
＜総合診療科＞加藤 寿、神山 英範

4. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：加藤 寿（内科、総合診療科）

臨床研修指導医：加藤 寿（内科、総合診療科）、中原 守康（内科）、神山 英範（連携室長）、
島村 寿男（麻酔科）

5. 臨床研修プログラムの特色

秩父市立病院での地域研修は内科を中心として行うが、外科、整形外科、泌尿器科（透析を含む）、消化器内科、小児科、麻酔科をそれぞれの診療科の専門医の協力のもとで、病院職員が一丸となって指導にあたっており、臨床研修医の希望に沿ってオーダーメイドの研修プログラムを提供することができる。

＜研修内容＞

研修の中心となる内科初診外来では、特定の臓器に偏ることなく common disease を中心とした外来診療が経験でき、多くの研修医から大変好評である。症状、身体所見、検査所見から自ら診断を導き、外来ベースでの治療マネジメントを学ぶことができる。また、疾患のみならず、健診異常精査・地域開業医との連携などの幅広い診療実践を経験することが出来る。

入院診療にあたっては、自らが初診外来もしくは救急にて入院させた患者の病棟主治医として診療にあたる。主治医として、検査、治療の計画を立て、患者・家族への医療面談も実践することで、後期研修に向けた自らが責任を持つ診療を、指導医の指導のもとで身につける。臓器別でない一般内科としての急性期治療から退院支援、末期癌患者への緩和ケアや終末期医療、在宅医療まで、幅広い診療を経験することができる。

上記のように、当院では外来診療でも入院診療でも、臨床研修医が「主体的に診療に関わること」を

重要視している。臨床研修医療機関では実践できない経験を積み、後期研修に向けたより実戦に強い医師の育成を目指している。

6. 目標と評価表

【評価 A：可 B：不可】		自己評価	指導医評価
1. 地域中核病院における外来・病棟診療を経験する。		()	()
2. 地域の救急医療体制における地域中核病院の役割を経験する。		()	()
3. 地域中核病院の人的資源を活用したチーム医療を経験する。		()	()
4. 臓器横断的に全身を診ることができるジェネラリストの役割を経験する。		()	()
5. 地域医療における急性期・亜急性期・維持期におけるジェネラリストの役割を経験する。		()	()
6. 年齢・性差によらずプライマリ・ケアを支えるジェネラリストの役割を経験する。		()	()
7. 指導医の監督下で初診外来の診療を行うことができる。		()	()
8. 指導医の監督下で総合内科の入院診療を行うことができる。		()	()
9. 多職種と連携し、適切な退院支援を行うことができる。		()	()
10. 患者の心理社会面を配慮した診療を行うことができる。		()	()

7. 週間スケジュール（例）

<内科>

	月	火	水	木	金	土
午前	初診外来	初診外来	初診外来	初診外来	初診外来	休み
午後	検査・病棟	検査・病棟	訪問診療	検査・病棟	検査・病棟	休み
夕方	新患カンファ	チームカンファ	チームカンファ	新患カンファ	チームカンファ	
病棟カンファ	摂食嚥下	緩和ケア	褥瘡	退院支援	リスク	
救急		当番日		当番日	当番日	

- ・上記週間スケジュールを基本に、研修医の希望のオプションをいれるようにしている。
- ・小児科外来、整形外科外来の研修も希望に応じて対応可能。
- ・入院患者は2～3名担当する予定にしている。
- ・火曜日、木曜日、金曜日の夜間は救急当直となる。希望に応じて救急研修を受けられる。
- ・リハビリやMSW研修あり。その他、希望者は薬剤指導、栄養指導などにも参加可能。
- ・手術や麻酔の研修を希望の場合は、可能な範囲で変更できる。
- ・夜間に医師会症例検討会、小鹿野町立病院の緩和ケアカンファランス、ちちぶ圏域ケア連携会議など地域連携に関わるイベントがあり、自由参加となっている。
- ・協定書に則った地域病院の見学（国保町立小鹿野中央病院）

8. 研修に関する問い合わせ先

〒368-0025 埼玉県秩父市桜木町 8-9

秩父市立病院

臨床研修管理室

TEL：0494-23-0611

FAX：0494-23-0650

医療法人慈桜会 瀬戸病院

○ 医療法人慈桜会 瀬戸病院の概要

1. 医療法人慈桜会 瀬戸病院の特色

当院は、所沢市にある産婦人科・小児科・内科・麻酔科・乳腺外科・遺伝診療科を中心とした二次救急医療機関である。病床数は78床で年間の分娩数は無痛分娩を含め1,100件、産婦人科手術は内視鏡手術を含め800件を数える。また、IVF-ET、ICSIを中心とした高度生殖医療や無侵襲的出生前遺伝学的検査を始めとした出生前診断も行っている。更に、婦人科検診にも力を入れており、年間5,000人を超える受診者が検診を受けている。

小児科では一般的な外来診療に加え小児心臓外来、発達外来、小児外科も実施している。

当院は生殖補助医療から分娩、出産後の育児支援まで、地域に根差した医療を提供している。

2. 研修可能な診療科

産婦人科、小児科

3. 診療・教育スタッフ

＜産婦人科＞

瀬戸 裕：産婦人科全般

瀬戸 理玄：産婦人科全般、腹腔鏡手術

ほか、常勤医10名

＜小児科＞

白石 美香：小児科全般

瀬戸 比呂木：小児科全般

4. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：瀬戸 理玄（院長）

臨床研修指導医：瀬戸 理玄、瀬戸 裕（理事長）、木村 周平、川邊 絢香

5. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターのすべてのプログラムにおいて、上記の診療科を選択し、地域医療研修、一般外来研修が可能である。当院は医師としての人格をかん養し、必要なプライマリーケアの知識・技術・経験を学ぶことはもとより、臨床医として求められる基本的臨床能力を身につけることができる。

6. 目標・評価表

＜産婦人科＞

一般的な産婦人科臨床について経験し、他科・他職種との連携について研修をし、周産期・分娩・産褥期を通じ、母体と胎児・新生児の特徴を学ぶ。婦人科や生殖内分泌で必要な診断・手技を修得する。

受診者及び家族との良好な人間関係の構築。患者の訴えや診察所見から適切な評価を行い、要領をよくまとめ診療録に記載。妊娠週数に応じた母体・胎児の状況を診断。分娩進行について理解し、正常分娩における分娩・産褥期の管理。異常分娩の可能性の理解。産科出血に対する処置。婦人科手術・腹式帝王切開術の助手。婦人科疾患の理解。

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 産科・婦人科の視診・内診ができる。	()	()
2. 正常分娩を管理できる。	()	()
3. 新生児の診察（アプガールスコア他）ができる。	()	()
4. 産科・婦人科の超音波ができる。	()	()
5. 手術の助手ができる。	()	()
6. 産科・婦人科の一般診察（外来）ができる。	()	()
7. 婦人科疾患について診断・手術適応の流れを理解できる。	()	()

8. 患者・家族と良好な人間関係の構築ができる。 () ()

<小児科>

小児医療の特性や、地域社会における小児医療の役割や特性を学び、それぞれの年齢に特有の診察方法を学ぶ。予防接種に関して正しい知識と適切な手技を習得し、あわせて予防医療の重要性を認識する。受診者及び家族との良好な人間関係の構築。患者の訴えや診察所見から適切な評価を行い、要領をよくまとめ診療録に記載。乳児健診に参加し、多くの正常児に触れるとともに、そうでない児への対応を学ぶ。予防接種に立ち会い知識と手技を習得する。小児科特有の急性疾患の理解と治療方針を学ぶ。小児慢性疾患の診察に立ち会い、発育途上の慢性疾患児の病態や治療理念を学ぶ。その他心エコー、腹部エコー等の検査に立ち会い、各検査手技を学ぶ。

【評価 A：可 B：不可】		自己評価	指導医評価
1. 小児一般外来診療ができる。		()	()
2. 軽症児の小児救急外来診療ができる。		()	()
3. 予防注射を理解し、実施できる。		()	()
4. 乳児健診を理解し、実施できる。		()	()
5. 虐待を見逃さない診断ができる。		()	()
6. 診療で行った事を全て診療録に整理して記録できる。		()	()
7. 患者・家族と良好な人間関係の構築ができる。		()	()

7. 週間スケジュール（例）

<産婦人科>

		月	火	水	木	金	土
1W	午前	病棟回診 手術	病棟回診 手術	病棟回診 手術	病棟回診 手術	病棟回診 手術	病棟回診
	午後	外来 胎児超音波	外来	外来	外来 1ヶ月健診	外来	外来
2W	午前	外来	外来	ART	外来	外来	外来
	午後	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
3W	午前	病棟回診 手術	病棟回診 手術	病棟回診 手術	病棟回診 手術	病棟回診 手術	病棟回診
	午後	外来 胎児超音波	外来	外来	外来 1ヶ月健診	外来	外来
4W	午前	外来	外来	ART	外来	外来	外来
	午後	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診

<小児科>

		月	火	水	木	金	土
1W	午前	外来	予防接種	外来	予防接種	予防接種	外来
	午後		外来 乳児健診	外来 乳児健診	外来 1ヶ月健診	外来	予防接種 1ヶ月健診

2W	午前	外来	予防接種	外来	予防接種	予防接種	外来
	午後		外来 乳児健診	外来 乳児健診	外来 1ヶ月健診	外来	予防接種 1ヶ月健診
3W	午前	外来	予防接種	外来	予防接種	予防接種	外来
	午後		外来 乳児健診	外来 乳児健診	外来 1ヶ月健診	外来	予防接種 1ヶ月健診
4W	午前	外来	予防接種	外来	予防接種	予防接種	外来
	午後		外来 乳児健診	外来 乳児健診	外来 1ヶ月健診	外来	予防接種 1ヶ月健診

8. 研修に関する問い合わせ先

〒359-1128 埼玉県所沢市金山町 8-6

医療法人慈桜会 瀬戸病院

地域医療連携室 河合 謙介

TEL : 04-2922-0221

FAX : 04-2929-0589

医療法人ゆうの森 たんぽぽクリニック

○ 医療法人ゆうの森 たんぽぽクリニックの概要

1. 医療法人ゆうの森 たんぽぽクリニックの特色

2000 年 10 月、当時全国的にもまだ稀であった在宅医療専門クリニックとして開設。患者様にご自宅で安心して療養してもらうための 24 時間・365 日対応、重症やターミナルの方に積極的に係わること、患者様の視点に立ったサービスを行うこと、多職種で多方向から患者の在宅療養を支えること等々を特長とし、現在は 600 名を超える在宅患者様に関わらせて頂いている。当初 4 人でスタートしたクリニックも現在の職員数は医療法人全体で 100 名を数えるに至り、法人内には、松山市内の在宅医療専門クリニックの他、西予市のへき地診療所、訪問看護ステーション、介護支援事業所、訪問介護事業所、マッサージ施術院等々を併設し、在宅医療専門の医療法人としてさらなる発展を目指す活力あふれる組織である。

医 師	10 名（常勤 4 名）	
看護師	28 名	
理学療法士・作業療法士	6 名	
事 務	20 名	※法人全体職員 100 名

2. 研修可能な診療科

内科（在宅医療）

3. 診療・教育スタッフ

理事長 永井 康徳
院 長 矢野 博文
副院長 佐野 正浩
副院長 宇都宮裕士
医 師 濱崎 圭三
医 師 家木 聡
医 師 岡本 翔
医 師 草永 真志
医 師 宇田 可奈
医 師 樋元 主税

4. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：永井 康徳
臨床研修指導医：濱崎 圭三

5. 臨床研修プログラムの特色

在宅医療全般について講義と在宅での臨床研修を行い、併せて在宅ターミナルケアについても当該患者宅での臨床研修を行う。また訪問看護、訪問リハビリテーションなど、在宅医療を補完する関りについても同行研修等において学ぶ。

また併せて、へき地医療についても当方のへき地診療所において学び、いずれも、患者様中心の視点で、「生活の中の医療」を心がけ、「病気ではなく人を診る」ことの大切さを、身を持って感じるができる。

6. 目標と評価表

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 在宅医療の特性（求められるもの）を理解する。	()	()
2. 在宅医療の診療の知識・スキルを身につける。	()	()
3. 在宅医療を取り巻く制度を理解する。	()	()

4. 多職種で関わる意義を理解し協働できる。	()	()
5. 家族へのアプローチについて学び、実践できる。	()	()
6. 一般外来における一般的診療能力を身につける。	()	()
7. 緩和ケアの意義、知識、スキルを学び、理解する。	()	()
8. アドバンス・ケア・プランニングについて理解する。	()	()

7. 週間スケジュール（例）

		月	火	水	木	金	土
1W	午前	外来診療	訪問診療 同行	外来診療	訪問診療 同行	外来診療	—
	午後	訪問診療 同行	訪問診療 同行	講義	へき地 診療所	訪問診療 同行	
2W	午前	外来診療	訪問診療 同行	外来診療	訪問診療 同行	外来診療	—
	午後	訪問診療 同行	訪問診療 同行	講義	訪問看護 同行	訪問診療 同行	
3W	午前	外来診療	訪問診療 同行	外来診療	へき地 診療所	外来診療	—
	午後	訪問診療 同行	訪問診療 同行	講義	へき地 診療所	訪問診療 同行	
4W	午前	外来診療	訪問診療 同行	外来診療	訪問診療 同行	外来診療	—
	午後	訪問診療 同行	訪問診療 同行	講義	訪問リハビリ 同行	訪問診療 同行	

※へき地診療所：2 コマ

8. 研修に関する問い合わせ先

〒791-8056 愛媛県松山市別府町 444-1

医療法人ゆうの森 たんぽぽクリニック

事務局 前島

TEL：089-911-6333

FAX：089-911-6334

社会福祉法人埼玉医療福祉会 在宅療養支援診療所 HAPPINESS 館クリニック

○ 社会福祉法人埼玉医療福祉会 在宅療養支援診療所 HAPPINESS 館クリニックの概要

1. 社会福祉法人埼玉医療福祉会 在宅療養支援診療所 HAPPINESS 館クリニックの特色

当院は、埼玉医科大学の母体病院である丸木記念福祉メディカルセンター（旧社会福祉法人毛呂病院）の関連施設であり、毛呂山町初の在宅療養支援診療所として、埼玉県西部の広域的な地域包括ケアの中心的役割を担っている。埼玉県初の緊急往診車両・ホスピスカーを運用し、24 時間 365 日体制で質の高い在宅医療の提供、普及啓発に努めている。また、内科全般を中心に、神経内科、呼吸器内科、糖尿病、循環器疾患等の外来診療を行っている。その他、整形外科の外来診療も行っている。

2. 研修可能な診療科

内科、整形外科、在宅医療

3. 診療・教育スタッフ

齋木 実（管理者）

4. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：齋木 実

臨床研修指導医：齋木 実、名古屋 春満、山本 理子

5. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターのすべてのプログラムにおいて、内科を選択し、研修が可能である。当院は一般診療を学ぶことができる。また、内科外科を問わず、一般外来、地域医療（在宅医療）の研修を行うことができる。

6. 目標・評価表

【評価 A：可 B：不可】		自己評価	指導医評価
1.	予防医療の理念を理解し、地域や臨床の場での実践に参画する。	()	()
2.	医療モデルと生活モデルを理解し、地域在宅医療の実践に参画する。	()	()
3.	病診連携のなかで、診療所や「かかりつけ医」の役割を理解し、実践する。	()	()
4.	在宅医療における多職種連携の重要性を理解し、顔の見える連携を実践する。	()	()
5.	アドバンスケアプランニングを理解し、死生観や死の寄り添い方を学ぶ。	()	()

7. 週間スケジュール（例）

		月	火	水	木	金	土
1W	午前	外来	在宅	在宅	外来	在宅	在宅
	午後	在宅	外来	外来	在宅	外来	—
2W	午前	外来	在宅	在宅	外来	在宅	在宅
	午後	在宅	外来	外来	在宅	外来	—
3W	午前	外来	在宅	在宅	外来	在宅	在宅
	午後	在宅	外来	外来	在宅	外来	—
4W	午前	外来	在宅	在宅	外来	在宅	在宅
	午後	在宅	外来	外来	在宅	外来	—

※希望者は状況によりオンコールによる 24 時間体制の緊急往診・在宅看取りに立ち会うことも可能。

※指導医のスケジュールにより変更あり

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-0451 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 1006 番地

社会福祉法人埼玉医療福祉会

在宅療養支援診療所 HAPPINESS 館クリニック

管理者 齋木 実

TEL : 049-276-1852

FAX : 049-276-1853

社会福祉法人京悠会 葵クリニック

○ 社会福祉法人京悠会 葵クリニックの概要

1. 社会福祉法人京悠会 葵クリニックの特色

当院は、脳血管疾患やアルツハイマー病やパーキンソン病などの変性疾患および高血圧や糖尿病、脂質異常症など内科全般を中心に外来診療を行っている。また関連施設である特別老後老人ホームや障害者支援施設の利用者の診察も行っており、超高齢者から脳性麻痺などの障害をもつ若年者まで幅広い患者を診察することで、多くの知識を身に着けることが可能である。

2. 研修可能な診療科

内科

3. 診療・教育スタッフ

出口 一郎（院長）

4. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：出口 一郎（院長）

臨床研修指導医：出口 一郎

5. 臨床研修プログラムの特色

一般的な外来患者だけでなく、特別養護老人ホームや障害者支援施設への同行研修を行う。これら利用者さんたちがどのように生活しているか身を持って感じることができる。

6. 目標と評価表

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。	()	()
2. 医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うための インフォームド・コンセントが実施できる。	()	()
3. 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。	()	()
4. 「かかりつけ医」の役割を理解し、実践することができる。	()	()
5. 患者の訴えや診察所見から適切な評価を行い、 要領をよくまとめ診療録に記載できる。	()	()
6. 外来診療における基本的な知識と手技を習得することができる。	()	()

7. 週間スケジュール（例）

		月	火	水	木	金	土
1W	午前	外来	外来		外来	外来	外来
	午後	外来	外来		外来	施設往診 外来	
2W	午前	外来	外来		外来	外来	外来
	午後	外来	外来		外来	施設往診 外来	
3W	午前	外来	外来		外来	外来	外来
	午後	外来	外来		外来	施設往診 外来	

4W	午前	外来	外来		外来	外来	外来
	午後	外来	外来		外来	施設往診 外来	

8. 研修に関する問い合わせ先

〒359-0001 埼玉県所沢市下富 1202-1

社会福祉法人京悠会 葵クリニック

TEL : 042-975-3300

東松山市立市民病院

○ 東松山市立市民病院の概要

1. 東松山市立市民病院の特色

当院は、東松山市（人口約9万人）が運営する公立の地域密着型の急性期病院です。一般病床146床、感染症病床6床を有する総合病院です。診療科は、内科（神経内科、呼吸器内科、脳卒中内科、消化器肝臓内科、血液内科、循環器内科、糖尿病内科、リウマチ膠原病内科、総合診療内科）、外科（消化器外科、肛門外科、呼吸器外科）、整形外科、泌尿器科、脳神経外科、眼科、皮膚科、リハビリテーション科、放射線科、耳鼻咽喉科、小児科、麻酔科があります。その他、在宅診療、人間ドックを併設しています。

当院の立地する比企地域においては、住民の高齢化に伴い、老人医療、慢性疾患の急性増悪、脳血管障害などの医療ニーズが高まり、内科、整形外科の患者が年々増加しています。

【令和6年度実績】

- ・年間入院症例数 31,032人、年間外来症例数約 94,788人、1日平均外来症例数 324人。
- ・年間救急車受け入れ 1,905人（2025年度）
- ・年間手術件数約 899件、手術室 4室
（内科19件、整形外科476件、眼科265件、外科103件、脳神経外科36件）

医療機器：MRI、CT、エコー（心・頸部・腹部）、内視鏡（消化管・気管支）、呼吸器機能、生理機能（脳波・神経筋）、脳心血管撮影器（血管内治療）。その他の施設 図書館、宿泊施設あり。

2. 研修可能な診療科

内科、外科、整形外科

3. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：野村恭一（院長）

臨床研修指導医：野村恭一、吉田典史、田島孝士、稲田紀子、清水 学、朱 宰弘、中村 巧

4. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターのすべての臨床研修プログラムにおいて、内科、外科、整形外科を選択し、地域医療、一般外来研修が可能である。

5. 目標と評価表

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 保健医療法規と制度を理解し、適切に行動できる。	()	()
2. 医療保険、公費負担医療、介護保険を理解し、適切に診療できる。	()	()
3. 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。	()	()
4. 指導医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。	()	()
5. 患者・家族が納得できる医療を行うためのICができる。	()	()
6. 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画が作成できる。	()	()
7. 学校、家庭、職場環境に配慮し、地域との連携に参加できる。	()	()
8. 予防接種を実施できる。	()	()
9. 健診の目的を理解し、事後指導を担当することができる。	()	()
10. 病診連携のなかで、診療所、かかりつけ医の役割を理解する。	()	()

6. 週間スケジュール（例）

		月	火	水	木	金	土
1W	午前	外来診療 (初診患者)	内視鏡検査 (上部消化管)	外来診療 (再診患者)	新患者カン ファレンス 内科・外科・ 脳外科カン ファレンス 新薬説明会	病棟診療	
	午後	病棟診療 救急外来	病棟診療 整形外科手術	病棟診療 消化器外科 手術 電気生理学的 検査	ERCP 外科・泌尿器 手術 脳血管内治療	内視鏡検査 (下部消化管) 病棟診療 救急外来診療	
2W	午前	外来診療 (初診患者)	内視鏡検査 (上部消化管)	外来診療 (再診患者)	新患者カン ファレンス 内科・外科・ 脳外科カン ファレンス 新薬説明会	病棟診療 在宅診療	
	午後	病棟診療 救急外来	病棟診療 整形外科手術	病棟診療 消化器外科 手術 電気生理学的 検査	ERCP 外科・泌尿器 手術 脳血管内治療	内視鏡検査 (下部消化管) 病棟診療 救急外来診療	
3W	午前	外来診療 (初診患者)	内視鏡検査 (上部消化管)	外来診療 (再診患者)	新患者カン ファレンス 内科・外科・ 脳外科カン ファレンス 新薬説明会	病棟診療	
	午後	病棟診療 救急外来	病棟診療 整形外科手術	病棟診療 消化器外科 手術 電気生理学的 検査	ERCP 外科・泌尿器 手術 脳血管内治療	内視鏡検査 (下部消化管) 病棟診療 救急外来診療	
4W	午前	外来診療 (初診患者)	内視鏡検査 (上部消化管)	外来診療 (再診患者)	新患者カン ファレンス 内科・外科・ 脳外科カン ファレンス 新薬説明会	病棟診療 在宅診療	
	午後	病棟診療 救急外来	病棟診療 整形外科手術	病棟診療 消化器外科 手術 電気生理学的 検査	ERCP 外科・泌尿器 手術 脳血管内治療	内視鏡検査 (下部消化管) 病棟診療 救急外来診療	

※各種の専門外来への参加可能です。

7. 研修に関する問い合わせ先

〒355-0005 埼玉県東松山市大字松山 2392 番地
東松山立市民病院
病院総務課 小林
TEL : 0493-24-6111
FAX : 0493-22-0887

国民健康保険町立小鹿野中央病院

○ 国民健康保険町立小鹿野中央病院の概要

1. 国民健康保険町立小鹿野中央病院の特色

小鹿野町は、埼玉県の北西の端の、穏やかで豊かな自然に囲まれた、令和 7 年 4 月 1 日現在人口 9,951 人、高齢化率約 43%の、典型的な中山間地域である。当院は、約 70 年の歴史のある国保直診病院で許可病床数 95 床を有し、"地域に親しまれ信頼される病院"を基本理念として、地域包括医療ケアに取り組んでいる。外来診療、健診センター業務、各種検診、慢性疾患の管理指導、リハビリテーション、入院診療、在宅支援、緩和や終末期の医療ケア等において、地域のプライマリケアを実践し、地域のニーズへ対応している。地域住民と触れ合い、総合的・全人的な医療を学ぶ場を提供できると考える。

2. 研修可能な診療科

総合診療科、整形外科

○病棟診療：入院患者を担当し、入院早期から退院までのプロセスを指導医の下、体験し、在宅ケアにつなげる。

○外来診療：外来診察において、指導医とともに新規患者の病歴聴取、診察、検査立案を行い、鑑別診断と治療計画を考える。

○訪問診療・訪問看護等：在宅患者を他の職種と訪問し、各専門職の業務を理解し、連携の必要性を学ぶ。

○救急対応、手術：救急搬入される患者への対応を、病棟担当医とともにを行い、診療現場を体験する。また、手術室内の業務に参加する。

○内視鏡等各種検査の現場体験：検査手技の見学と、コメディカルの仕事を理解する。

3. 診療・教育スタッフ

山下拓斗（院長）ほか 5 名

4. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：山下拓斗

臨床研修指導医：植木 愛、小澤秀浩、林 秀磨、林 諒子、萩原拓哉

5. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターのすべてのプログラムにおいて、上記の診療科を中心に、地域医療、一般外来研修ができる。

・病棟診療：入院患者を担当し、入院早期から退院までのプロセスを指導医の下、体験し、在宅ケアにつなげる。

・外来診療：外来診察において、指導医とともに新規患者の病歴聴取、診察、検査立案を行い、鑑別診断と治療計画を考える。

・訪問診療・訪問看護等：在宅患者を他の職種と訪問し、各専門職の業務を理解し、連携の必要性を学ぶ。

・救急対応、手術：救急搬入される患者への対応を、病棟担当医とともにを行い、診療現場を体験する。また、手術室内の業務に参加する。

・内視鏡等各種検査の現場体験：検査手技の見学と、コメディカルの仕事を理解する。

6. 目標と評価表

【評価 A：可 B：不可】		自己評価	指導医評価
1. 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。	()	()	
2. 指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。	()	()	
3. 上級及び同僚医師や他の医療従事者と連携し患者中心の医療を提供できる。	()	()	
4. 医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームド・コンセントが実施できる。	()	()	
5. 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。	()	()	
6. 保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成できる。	()	()	
7. QOL (Quality of Life) を考慮にいれた総合的な管理計画（リハビリテーション、社会復帰、在宅医療、介護を含む。）へ参画する。	()	()	
8. 学校、家庭、職場環境に配慮し、地域との連携に参画できる。	()	()	
9. ターミナルケアを含んだ在宅医療を理解し実践できる。	()	()	
10. 食事・運動・休養・飲酒・禁煙指導とストレスマネジメントができる。	()	()	
11. 予防接種を安全に実施できる。	()	()	
12. 健康診断や検診の目的を理解し、健診や事後指導を担当することができる。	()	()	
13. 基本的な緩和ケア（WHO方式がん疼痛治療法を含む。）ができる。	()	()	
14. 行政と連携し、地域の保健活動に参加、立案が出来る。	()	()	
15. デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する。	()	()	
16. 地域包括ケア病棟で生活する高齢者の診療について理解し、実践する。	()	()	
17. 病診連携のなかで、診療所や「かかりつけ医」の役割を理解し、実践する。	()	()	
18. へき地・離島医療について理解し、実践する。	()	()	

7. 週間スケジュール（例）

		月	火	水	木	金	土
1W	午前	回診 朝会 病棟・急患 対応	回診 病棟 外来研修	回診 内視鏡検査 リハビリ	回診 朝会 院外研修	回診 病棟 外来研修	
	午後	病棟・救急 対応 病棟カンファ	病棟 手術又は 検査 院外研修	病棟・リハビリ カンファ 地域ケア会議	病棟 検査又は 院内研修 リフレクション 緩和ケアカンファ	院外研修	
2W	午前	回診 朝会 病棟・急患 対応	回診 病棟 外来研修	回診 内視鏡検査 リハビリ	回診 朝会 院外研修	回診 病棟 外来研修	心療内科 対応 (希望制)
	午後	病棟・救急 対応 病棟カンファ	病棟 手術又は 検査 院外研修	病棟・リハビリ カンファ 包括ケア会議	病棟 検査又は 院内研修 リフレクション 緩和ケアカンファ	院外研修	
3W	午前	回診 朝会 病棟・急患 対応	回診 病棟 外来研修	回診 内視鏡検査 リハビリ	回診 朝会 院外研修	回診 病棟 外来研修	

	午後	病棟・救急 対応 病棟カンファ	病棟 手術又は 検査 院外研修	病棟・リハビリ カンファ 地域ケア会議	病棟 検査又は 院内研修 リフレクション 緩和ケアカンファ	院外研修	
4W	午前	回診 朝会 病棟・急患 対応	回診 病棟 外来研修	回診 内視鏡検査 リハビリ	回診 朝会 院外研修	回診 病棟 外来研修	心療内科 対応 (希望制)
	午後	病棟・救急 対応 病棟カンファ	病棟 手術又は 検査 院外研修	病棟・リハビリ カンファ 包括ケア会議	病棟 検査又は 院内研修 リフレクション 緩和ケアカンファ	院外研修	

*病棟研修：指導医とともに回診・処置・カルテ記載等病棟業務を行う。

*外来研修：外来見学、指導医の下、初診患者の問診、検査計画、診断。

*急患対応：病棟担当医とともに救急搬入された患者を診療。

*検査：超音波検査（臨床検査技師）、消化管造影検査（放射線技師）、内視鏡（医師）

*下記の院内研修及び院外研修が予定表に組み込まれる。

院内研修：主治医意見書作成会議、緩和ケアカンファランス、事例検討会、デイケア（通所リハビリ）

院外研修：訪問看護同行、ケアマネ訪問同行、診療所訪問診療、緩和ケア訪問診療、薬剤訪問指導同行、精神障害者作業所、介護施設往診（特別養護老人ホーム）、こじか筋力体操、乳幼児健診等

8. 研修に関する問い合わせ先

〒368-1015 埼玉県秩父郡小鹿野町小鹿野 300

国立健康保険町立小鹿野中央病院

嶋田 仁

TEL：0494-75-2332

FAX：0494-75-3313

e-mail byoin@town.ogano.lg.jp

医療法人徳洲会 喜界徳洲会病院

○ 医療法人徳洲会 喜界徳洲会病院の概要

1. 医療法人徳洲会 喜界徳洲会病院の特色

当院は1991年8月に開院し、2024年12月に新築移転。病棟は89床、外来は平均180名と島唯一の病院のため多くの患者さんが来院され、救急搬送は年300件以上で当院で対応困難な場合は島外搬送も行っている。

2. 研修可能な診療科

内科、救急科、総合診療科

3. 診療・教育スタッフ

小林 奏（院長）：総合内科/脳神経内科

4. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：小林 奏（院長）

臨床研修指導医：小林 奏（院長）

5. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターのすべてのプログラムにおいて、一般外来、病棟、救急搬送、訪問診療などの患者さんの多くを、指導医・上級医の指導の下、研修医が主治医として医療現場を担う。

診療は毎朝のカンファレンス・勉強会にて総合内科専門医と知識を共有し、専門医へのコンサルテーションが必要な場合は、現病歴や身体所見から必要な検査を行い、鑑別を挙げた上で紹介している。

6. 目標と評価

【評価 A：可 B：不可】		自己評価	指導医評価
1. 患者の主訴をしっかりと聞き分ける。		()	()
2. 各医療施設の社会的責任を理解する。		()	()
3. 患者に提供できる医療を知る。		()	()
4. 腹腔穿刺・胸腔穿刺（トロカール挿入を含む）を安全に実施できる。		()	()
5. 終末期患者の看取り・家族への説明を行う。		()	()

7. 週間スケジュール

		月	火	水	木	金	土
1W	午前	勉強会 外来	勉強会 外来	回診 外来	勉強会 外来	勉強会 外来	勉強会 外来
	午後	病棟	訪問看護 外来	病棟	病棟 外来	病棟	—
2W	午前	勉強会 外来	勉強会 外来	回診 健診	勉強会 外来	勉強会 外来	勉強会 外来
	午後	病棟	外来	病棟	施設診療	病棟	—
3W	午前	勉強会 外来	勉強会 外来	回診 外来	勉強会 外来	勉強会 外来	勉強会 外来
	午後	病棟	訪問看護 外来	病棟	病棟 外来	病棟	—

4W	午前	勉強会 外来	回診 外来	回診 健診	勉強会 外来	勉強会 外来	勉強会 外来
	午後	病棟	外来	病棟	施設診療	病棟	—

8. 研修に関する問い合わせ先

〒891-6201 鹿児島県大島郡喜界町赤連 105 番 5

医療法人徳洲会 喜界徳洲会病院

事務長 都 一成

TEL : 0997-65-1100

FAX : 0997-65-1223

医療法人徳洲会 瀬戸内徳洲会病院

○ 医療法人徳洲会 瀬戸内徳洲会病院の概要

1. 医療法人徳洲会 瀬戸内徳洲会病院の特色

青く透き通った海とその先の加計呂麻島を眺めることができる魅力的な地域密着型の病院です。奄美南部地域と加計呂麻島・請島・与路島を医療県内とする当院は、徳洲会の理念に基づく断らない救急医療はもちろんですが、地域唯一の有床病院医療施設として、多職種連携、医療関連施設との連携を介して、切れ目のない最適な医療を迫及していきます。

2. 研修可能な診療科

一般内科、総合診療、在宅医療

3. 診療・教育スタッフ

高松 純：内科

高橋 祐美：総合診療

4. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：高松 純（院長）

臨床研修指導医：高橋 祐美

5. 臨床研修プログラムの特色

3つの有人離島を医療圏としている地域の特性を活かした医療を実践し、急性期医療、亜急性期医療、かかりつけ医療機関としての慢性期外来、在宅訪問診療と継続的な診療を経験できる。

6. 目標と評価

【評価 A：可 B：不可】		自己評価	指導医評価
1. 多職種、医療機関同士と連携、協同する。	()	()	()
2. コンサルテーションが可能な状況下で単独で一般外来診療を実施する。	()	()	()
3. 病歴聴取、身体診察に基づき検査、治療を計画、実施経験を積む。	()	()	()
4. 医療、介護制度や社会資源の活用を、症例を通じて学ぶ。	()	()	()
5. 在宅医療において本人及び家族のニーズや意向に沿った支援や価値観を理解し、必要なケアを提供していく。	()	()	()

7. 週間スケジュール

		月	火	水	木	金	土
1W	午前	外来	外来	病棟	病棟	外来	外来
	午後	病棟	病棟	病棟	外来	多職種カンファレンス	－
2W	午前	外来	外来	病棟	病棟	外来	外来
	午後	病棟	病棟	病棟	在宅	多職種カンファレンス	－
3W	午前	外来	外来	病棟	病棟	外来	外来
	午後	病棟	病棟	病棟	外来	多職種カンファレンス	－

4W	午前	外来	外来	病棟	病棟	外来	外来
	午後	病棟	病棟	病棟	在宅	多職種カンファレンス	—

8. 研修に関する問い合わせ先

〒894-1507 鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋字トンキャン原 1358-1

医療法人徳洲会 瀬戸内徳洲会病院

事務担当 藤川

TEL : 0997-73-1115

医療法人徳洲会 徳之島徳洲会病院

○ 医療法人徳洲会 徳之島徳洲会病院の概要

1. 医療法人徳洲会 徳之島徳洲会病院の特色

徳之島は、100 歳以上の高齢者の割合と合計特殊出生率が全国トップレベルで「長寿・子宝の島」として有名である。その徳之島において、当院は出産数年間約 120 件で、島内唯一の周産期施設であり、また登録者約 200 名の在宅患者を抱え、24 時間 365 日在宅での看取りにも対応している。さらに徳洲会の理念「断らない救急」のもと、年間救急搬送 1,000 台を超える救急医療とそれに続く急性期医療、年間約 40 件に及ぶ島外へり搬送にも対応し、徳之島における医療の最前線かつ最終拠点を担っている。周産期から 100 歳を超える超高齢者までを対象とした医療を担う病院。いのちの始まりから終わりまでの場面に立ち合い、関わり続けること。ここではそんな医療の現場に触れることができる。

2. 研修可能な診療科

地域医療、産婦人科、循環器科

3. 診療・教育スタッフ

新納 直久：産婦人科

浦元 智司：脳神経外科・内科

ほか、3 名

4. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：新納 直久

臨床研修指導医：新納 直久、浦元 智司、田代篤史、宮崎のどか、稲田加奈子

5. 臨床研修プログラムの特色

都会に比べれば人手も設備も不足している徳之島。足りないもの、できないことを挙げればきりがな。けれども、あるものに目を向けると、そこには島ならではの豊かさがある。徳之島の医療・福祉を考えるうえで、地域の人々のつながりの強さは一番大きな強みとなる。患者さんが生活する場で、その地域性や文化を尊重した上で、医療人として何ができるか考えること。それが地域医療の醍醐味であり、総合診療医として、新生児から高齢者まで診療できる能力を身につけることを目標とし、どのような環境下でも活躍できる医師の育成を目指す。

また、地域医療の最たるものは在宅での医療と考える。普段、外来で診ている患者さんの状態が悪化した時は、急性期病棟に入院とし治療を行う。状態が安定したのちに ADL 低下した場合には、療養型病棟に転棟し、在宅復帰を目指して介護保険の申請や在宅改修を行う。その後、訪問診察にうかがうことになる。このように一人の患者様を最初から最後まで診ることができる病院はそんなにはない。

少人数制のためマンツーマンに近い指導ができ、急性期、慢性期、在宅、検視と指導医のバックアップのもとに幅広い業務に携わることができる。

6. 目標と評価

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 患者の主訴をしっかりと聞き分ける。	()	()
2. 各医療施設の社会的責任を理解する。	()	()
3. 患者に提供できる医療を知る。	()	()
4. 外科的処置において皮膚縫合ができる。	()	()
5. 術後患者の適切な消毒・包帯交換ができる。	()	()
6. 確実に静脈確保（IVH 挿入を含む）ができるようにする。	()	()
7. 上部内視鏡の操作を覚える。	()	()
8. ベッドサイドでの気道確保（気管挿管・気管切開）を実施する。	()	()
9. 腹腔穿刺・胸腔穿刺（トロカール挿入を含む）を安全に実施できる。	()	()
10. 終末期患者の看取り・家族への説明を行う。	()	()

7. 週間スケジュール

		月	火	水	木	金	土
1W	午前	救急	リハビリ・ 透析回診	訪問	救急	外来	週休
	午後	病棟	救急	病棟	リハ・透析 回診/予定 入院対応	病棟	
2W	午前	リハビリ・ 透析回診	救急	救急	外来	リハビリ・ 透析回診	週休
	午後	予定入院対 応/病棟	病棟/オペ助 手	訪問	病棟	救急	
3W	午前	救急	リハビリ・ 透析回診	訪問	救急	外来	週休
	午後	肺炎球菌ワ クチン予防 接種	救急	病棟	リハ・透析 回診/予定 入院対応	病棟	
4W	午前	リハビリ・ 透析回診	救急	救急	外来	リハビリ・ 透析回診	週休
	午後	予定入院対 応/病棟	病棟/オペ助 手	訪問	病棟	救急	

- ・ 8 : 30～カンファレンス
- ・ 8 : 45～医局会に参加。新規入院患者・その日の連絡事項などを伝える。
- ・ 9時から各担当業務を行う。(担当は週ごとに決定)

8. 研修に関する問い合わせ先

〒891-7101 鹿児島県大島郡徳之島町亀津 7588

医療法人徳洲会 徳之島徳洲会病院

事務担当 喜村

TEL : 0997-83-1100

医療法人徳洲会 名瀬徳洲会病院

○ 医療法人徳洲会 名瀬徳洲会病院の概要

1. 医療法人徳洲会 名瀬徳洲会病院の特色

奄美大島は人口 5 万人余で、コバルトブルーの海に囲まれた、緑の森の美しい島。奄美市には島の人口の約半数が集中しており、離島とは思えないような都会的な町である。奄美群島全体では約 10 万人余の人口となっている。許可病床数 308 床を有し、病院内での診断や治療とともに訪問診療・訪問看護やデイケア、医療講演会などを通じて、病院へ来院しにくい患者さまへの援助や地道な啓蒙活動、医療と福祉の包括などの地域医療も行っている。

2. 研修可能な診療科

総合内科、外科、総合診療科

3. 診療・教育スタッフ

満元 洋二郎（院長）：外科
松浦 甲彰（総長）：内科
砂川 剛（副院長）：外科
平島 修（副院長）：内科、総合診療科
名嘉 祐貴：内科、総合診療科
守屋 壮志：内科、循環器内科

4. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者 満元 洋二郎
臨床研修指導医：平島 修、松浦 甲彰、砂川 剛、平島 修、名嘉 祐貴、守屋 壮志

5. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターのすべてのプログラムにおいて、地域医療研修、訪問診療、一般外来研修が可能であり、急性期疾患から看取りまで幅広い疾患を学ぶことが可能である。

6. 目標と評価

【評価 A：可 B：不可】		自己評価	指導医評価
1. 患者の主訴をしっかりと聞き分ける。		()	()
2. 各医療施設の社会的責任を理解する。		()	()
3. 患者に提供できる医療を知る。		()	()
4. 外科的処置において皮膚縫合ができる。		()	()
5. 術後患者の適切な消毒・包帯交換ができる。		()	()
6. 確実に静脈確保（IVH 挿入を含む）ができるようにする。		()	()
7. ベッドサイドでの気道確保（気管挿管・気管切開）を実施する。		()	()
8. 腹腔穿刺・胸腔穿刺（トロカール挿入を含む）を安全に実施できる。		()	()
9. 終末期患者の看取り・家族への説明を行う。		()	()

7. 週間スケジュール

		月	火	水	木	金	土
1W	午前	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来
	午後	訪問診療	訪問診療 CT カンファレンス	訪問診療 エコー勉強会	訪問診療 CT カンファレンス	訪問診療 救急外来	
2W	午前	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来
	午後	訪問診療	訪問診療 CT カンファレンス	訪問診療 エコー勉強会	訪問診療 CT カンファレンス	訪問診療 救急外来	

3W	午前	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来
	午後	訪問診療	訪問診療 CT カンファレンス	訪問診療 エコー勉強会	訪問診療 CT カンファレンス	訪問診療 救急外来	医療講演会 研修医勉強会
4W	午前	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来	病棟回診 一般外来
	午後	訪問診療	訪問診療 CT カンファレンス	訪問診療 救急外来	訪問診療 CT カンファレンス	訪問診療 救急外来	

8. 研修に関する問い合わせ先

〒894-0061 鹿児島県奄美市名瀬朝日町 28 番地 1 号
医療法人徳洲会 名瀬徳洲会病院
総務課 田畑 龍太
TEL : 0997-57-0720

保健・医療行政

1. 研修の目的

個人の尊厳を確保し優れた医療サービスを提供できる医師を目指して、障害者、高齢者の生活の場である社会福祉関連施設や地域における保健行政監督機関である保健所等での研修を通して、医師としての判断力を高め、保健医療福祉との連携の実態を知り、専門職種との連携の方法を身につけ、学習することを目的としている。

また、地域住民、企業・事業所の従業員、献血者等に対する検診・健診を担当することを通じて、地域保健の実態と、血液製剤等の適正使用について学習することを目的としている。

2. 研修期間

自由選択研修において4週間を最大4つに分け、最大4施設、最小1施設の臨床研修協力施設より選択し研修することができる。（施設により、受け入れ期間に条件あり）

なお、検診については、日本赤十字社 埼玉県赤十字血液センターが作成したスケジュールに基づき、担当する研修医を国際医療センター研修管理委員会が割り当てる。

3. 臨床研修協力施設と研修実施責任者

臨床研修協力施設	研修実施責任者
埼玉医科大学訪問看護ステーション	小山 優子
社会福祉法人埼玉医療福祉会 光の家療育センター	鈴木 郁子
日本赤十字社 埼玉県赤十字血液センター	中川 晃一郎
埼玉県南部保健所	川南 勝彦
埼玉県朝霞保健所	湯尾 明
埼玉県春日部保健所	中山 由紀
埼玉県草加保健所	得津 馨
埼玉県鴻巣保健所	山川 英夫
埼玉県東松山保健所	荒井 和子
埼玉県坂戸保健所	宮野 慎太郎
埼玉県狭山保健所	辻村 信正
埼玉県加須保健所	田中 良明
埼玉県幸手保健所	田中 良知
埼玉県熊谷保健所	鈴木 勝幸
埼玉県本庄保健所	柳澤 大輔
埼玉県秩父保健所	平野 宏和
さいたま市保健所	桑島 昭文
川越市保健所	丸山 浩
越谷市保健所	青木 龍哉
川口市保健所	岡本 浩二
埼玉医科大学病院予防医学センター	村松 俊裕
埼玉医科大学病院リハビリテーション科	篠田 裕介
埼玉医科大学国際医療センターリハビリテーション科	高橋 秀寿

4. 各施設における研修の目的と到達目標

1. 保健所での研修

〔目的〕 都道府県・地域レベル保健所の役割とその業務の実際を学ぶ。

〔到達目標〕

- （１）保健所の役割（地域保健・健康増進への理解を含む。）について理解し、実践する。
- （２）地域保健医療行政への関わりについて理解する。

2. 介護施設・社会福祉施設での研修

〔目的〕 一時的又は永続的に自宅での生活が困難になった高齢者のための施設介護、介護保険、利用者の尊厳を保持した医療、福祉、生活サポートのあり方等を理解する。利用者とその家族、施設職

員やケアマネージャー等とのコミュニケーションを通じて、医療的側面のみならず利用者の生活について学ぶ。

[到達目標]

- (1) 社会福祉施設等の役割について理解し、実践する。
- (2) 介護保険や公費負担制度などの利用を理解する。
- (3) 地域保健医療行政への関わりについて理解する。
- (4) 予防接種を実施できる。
- (5) デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する。

3. 赤十字血液センター、検診・健診実施施設での研修

[目的] 献血の現場での採血業務を通じて、献血の推進・献血者募集・採血・検査・製剤・供給の流れ等血液事業の仕組みと現状、血液製剤の安全性を確保するための対策及び適正使用について理解を深める。

各種検診・健診活動を通して、法定健（検）診、総合健診の意義を理解し、基本的診断技術・健康指導技術を習得する。

[到達目標]

- (1) 健康診断の意義について述べることができる。
- (2) 健康診断の種類を列举できる。
- (3) 健康診断の事後措置について説明できる。
- (4) 健診・検診の受診者に対して適切な接遇ができる。
- (5) コメディカルと協調して健診・検診の実地業務の一部を担当することができる。
- (6) 健康診断に必要な問診を実施することができる。
- (7) 血圧測定ができる。
- (8) 健康診断に必要な身体診察ができる。
- (9) 生活習慣病の予防について説明できる。
- (10) わが国の献血制度について説明できる。
- (11) 献血の内容と採血の副作用について献血者に説明し、同意を得ることができる。
- (12) 献血基準の概要を述べることができる。
- (13) 献血可能な者を選択することができる。
- (14) 採血の副作用に対して適切な対応ができる。
- (15) 輸血の安全性を確保する方法について説明できる。
- (16) 輸血製剤等の適正使用について説明できる。

4. 国際機関、行政機関、矯正施設での研修

[目的] 世界保健機構（WHO）等の国際機関における国際保健や各国の保健医療政策に影響を与えるような合意の形成プロセス、各国際機関の役割、あるいは国際保健に関わる課題に対する各国際機関の具体的な取り組みなどについて学ぶ。

臨床現場に直結する感染症等の公衆衛生や医療制度等の医療政策など、保健医療行政を学ぶ。

刑務所や医療刑務所、少年院などにおいて、矯正施設における医療の必要性や矯正医官としての業務の実践を学ぶ。

[到達目標]

- (1) 正解保健機構（WHO）等の国際機関の業務に従事し、国際保健や各国の保健医療政策に影響を与えるような合意の形成プロセス、各国際機関の役割、あるいは国際保健に関わる課題に対する各国際機関の具体的な取り組みなどを理解する。
- (2) 主に医系技官の指導の下、行政機関の役割について理解する。
- (3) 矯正医官の業務を見学あるいはその一部に従事し、矯正施設における医療の必要性を理解する。

5. 産業保健の事業場での研修

[目的] 産業保健における制度及び職域保健における課題と対策を学ぶ。

[到達目標]

- (1) 産業医の実際の業務を一定期間見学し、産業保健における制度や職域保健における課題について説明できる。

5. 医療安全の確保

検診・健診は、受診者が異常を訴えたり、予期せぬ事態が生じる可能性が皆無ではない。研修医が学外の検診・健診会場で単独で検診・健診業務の一部を担当するに際して、医療安全を確保するために以下の点を遵守する。

(1) 検診・健診を担当する研修医

研修開始後 1 年を経た者で、且つ日本赤十字社 埼玉県赤十字血液センター所長による講義を受講した者とする。

(2) 担当業務の内容限定

問診、血圧の測定、身体診察、献血の可否の判断に限定する。血液検査、心電図、X 線検査などの検査結果の判定は行なわない。

(3) オンコール体制

輸血・細胞移植科および健康管理センターの指導医がオンコール体制をとる。

・ 検診：埼玉医科大学国際医療センター 輸血・細胞移植科：042-984-4388

・ 健診：埼玉医科大学病院 健康管理センター：049-276-1550

6. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1205 埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学国際医療センター

臨床研修センター

TEL：042-984-0079

FAX：042-984-0594

埼玉医科大学訪問看護ステーション

○ 埼玉医科大学訪問看護ステーションの概要

1. 埼玉医科大学訪問看護ステーションの特色

当事業所は「地域において在宅ケアの中核となり、利用者の方へオーダーメイドのケアを届ける」の理念で行っている。末期がんの方や医療依存度の高い方でも安心して、その方らしい在宅療養ができるようお手伝いをしている。在宅療養支援診療所 HAPPINESS 館クリニック 齋木実医師と連携し、在宅看取りを強化している。事務所があるくらしワンストップ MOROHAPPINESS 館は、これからの地域包括ケアシステム構築の中核施設であり、その中でも重要な役割を持つ訪問看護である。

2. 研修可能な診療科

訪問看護

3. 研修実施責任者と指導者

研修実施責任者：小山 優子（管理者）

指導者：小山 優子

4. 臨床研修プログラムの特色

- ・入院や外来だけでは分からない患者の生活の実態（内服状況・食事の状況・生活環境、疾患の捉え方等）、現実を見ることができる。
- ・介護保険サービスを理解し、地域の社会資源を理解することで、転院を勧める前に在宅療養という選択肢を増やすことができる。
- ・最期の時間を家族と自宅で迎えることの意味、その人らしい生活を送ることの意味を感じることが出来る。

5. 目標・評価表

【評価 A：可 B：不可】		自己評価	指導医評価
1. 利用者の病状の把握ができる。		()	()
2. 利用者の疾患のとらえ方が理解できる。		()	()
3. 利用者の思いをイメージできる。		()	()
4. 介護保険、意見書の書き方が理解できる。		()	()
5. 在宅療養の導入方法が理解できる。		()	()
6. 在宅における医者役割が理解できる。		()	()
7. アドバンスケアプランニング（ACP）が理解できる。		()	()

6. 週間スケジュール（例）

		月	火	水	木	金	土
1W	午前	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	同行訪問	—
	午後						

7. 研修に関する問い合わせ先

〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 1006 番地

くらしワンストップ MORO HAPPINESS 館 3F

埼玉医科大学訪問看護ステーション

TEL：049-276-1135

FAX：049-295-6653

社会福祉法人埼玉医療福祉会 光の家療育センター

○ 社会福祉法人埼玉医療福祉会 光の家療育センターの概要

1. 社会福祉法人埼玉医療福祉会 光の家療育センターの特色

当院は、重症心身障害児、者施設が根幹である。重症心身障害児施設は、半分病院としての機能と、半分施設としての機能を併せ持っている。つまり、現在の医療体制で要求される、多職種連携を昔から実践している。このため、医療的には、近年注目されている障害児、者医療を学べ、また、福祉的な学びとしては、重度医療のある児を大学病院から、自宅退院させるための中間施設の取り組みや、子どもの虐待や貧困などへの福祉的取り組みなどを学ぶことができる。これらの、取り組みを多職種で連携しているため実践的なケーススタディの勉強ができる。

また、外来としては、療育センターとして、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などこどもを専門にしているスタッフが県内で一番多数いる施設のため、多くの対象疾患（脳性麻痺、水頭症、筋ジストロフィー等の身体障害や、発達障害など）について学べる。また、多くの療育機関との違いとして、訓練を就学前で終了という形を取っていないため、これらの疾患を長期にわたってフォローしているので、ライフサイクルに合わせたリハビリテーションの実践医療も学べる。また、これらの児への福祉的取り組み（お預かり）や、グループ訓練等についても学べる。

また、発達障害（自閉症圏、ADHD、LD、発達性協調運動障がい）については、県の中核施設として訓練、医療などの提供をしている。かなりの数の実践と、重症例（不登校、引きこもり、愛着障害、親子関係不全）に対応している。

2. 研修可能な診療科

小児科、内科、リハビリテーション科、精神科

3. 診療・教育スタッフ

鈴木 郁子（施設長）：小児科、リハビリテーション科、発達障害、障害児医療全般

丸尾はるみ（医局長）：小児科（アレルギー）、発達障害

坂田 睦子：小児科（新生児）、発達障害

山野 英男：小児科、発達障害

上原 恵：内科（神経内科）

河野 展廣：内科（血液）

4. 研修実施責任者と臨床研修指導医

研修実施責任者：鈴木 郁子（施設長）

臨床研修指導医：鈴木 郁子

5. 臨床研修プログラムの特色

埼玉医科大学国際医療センターのすべてのプログラムにおいて、上記の診療科を選択し、研修が可能である。当院は障害児医療、発達障害医療、小児リハビリテーション、福祉的取組み等を学ぶことができる。

6. 目標と評価表

【評価 A：可　　B：不可】		自己評価	指導医評価
1. 患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療（在宅医療を含む）を提供した。	()	()	
2. 医療人として必要な患者－医師関係が築けた。	()	()	
3. チーム医療（関係機関や諸団体）の担当者とコミュニケーションをとる。	()	()	

7. 週間スケジュール

		月	火	水	木	金	土
1W	午前	外来	グループ リハビリ	グループ リハビリ	病棟	病棟	—
	午後		デイサービス	日中一時			
2W	午前	病棟	外来	生活介護	外来	病棟	—
	午後						

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-0446 埼玉県入間郡毛呂山町大字小田谷字瀬田 162

社会福祉法人埼玉医療福祉会 光の家療育センター

施設長 鈴木 郁子

TEL : 049-276-1357

FAX : 049-295-5103

臨床研修の到達目標

臨床研修の基本理念

(医師法第一六条の二第一項に規定する臨床研修に関する省令)

臨床研修は、医師が、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。

—到達目標—

到達目標

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。

A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。

- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

経験すべき症候(29 症候)

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック

体重減少・るい瘦

発疹

黄疸

発熱

もの忘れ

頭痛

めまい

意識障害・失神

けいれん発作

視力障害

胸痛

心停止

呼吸困難

吐血・喀血

下血・血便

嘔気・嘔吐

腹痛

便通異常(下痢・便秘)

熱傷・外傷

腰・背部痛

関節痛

運動麻痺・筋力低下
排尿障害(尿失禁・排尿困難)
興奮・せん妄
抑うつ
成長・発達の障害
妊娠・出産
終末期の症候

経験すべき疾病・病態(26 疾病・病態)

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診察にあたる。

脳血管障害
認知症
急性冠症候群
心不全
大動脈瘤
高血圧
肺癌
肺炎
急性上気道炎
気管支喘息
慢性閉塞性肺疾患(COPD)
急性胃腸炎
胃癌
消化性潰瘍
肝炎・肝硬変
胆石症
大腸癌
腎盂腎炎
尿路結石
腎不全
高エネルギー外傷・骨折
糖尿病
脂質異常症
うつ病
統合失調症
依存症(ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博)

※経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常業務において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン(診断、治療、教育)、考察等を含むこと。

埼玉医科大学国際医療センター
臨床研修プログラム
2026 年度版

発 行 埼玉医科大学国際医療センター
臨床研修センター
発行月 令和 7 年 4 月

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1
E-mail : imckensh@saitama-med.ac.jp
T E L : 042-984-0079
F A X : 042-984-0594